

自己点検・評価報告書

－2018年度－

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部

『2018年度 自己点検・評価報告書』 作成にあたって

文化学園大学及び文化学園大学短期大学部では、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するために、2006年度から毎年、本学の教育研究活動等の状況についての全学的な自己点検・評価を実施しています。本学の自己点検・評価の組織体制としては、「文化学園大学将来構想委員会」において本学の自己点検・評価の基本方針及び実施基準等を決定し、同委員会の下に「文化学園大学全学自己点検・評価委員会」を置き、自己点検・評価の実施及び報告書案を作成するものとしています。

本学の自己点検・評価方針及び実施基準は、教育研究活動等にかかわる本学独自の自己点検・評価検討機関を複数設置し、各検討機関において「本年度の課題」「取り組みの結果と点検・評価」「次年度への課題」という3つの視点から点検・評価するものです。本報告書には、これらの事項についての記載のほか、エビデンスとして各検討機関における「会議等の開催記録」を掲載しています。2018年度の本報告書では、文化学園大学及び文化学園大学短期大学部の44検討機関、文化学園本部の4検討機関において自己点検・評価を実施した結果をとりまとめました。記載文中の【大】は大学独自の事項、【短】は短期大学部独自の事項、【共】は大学と短期大学部に共通する事項を示します。

大学における自己点検・評価活動の本来の目的は、教育の内部質保証にあります。内部質保証のための評価基準は各種の認証評価機関により定められていますが、本学の自己点検・評価活動は、公益財団法人日本高等教育評価機構による評価基準に準拠しています。認証評価制度の第3期となる2018年度からは、同機構の評価基準は以下のように改定されました。

- 基準1. 使命・目的（使命・目的、教育目的）
- 基準2. 学生（学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応）
- 基準3. 教育課程（卒業認定、教育課程、学修成果）
- 基準4. 教員・職員（教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援）
- 基準5. 経営・管理と財務（経営の規律、理事会、管理運営、財務基盤と収支、会計）
- 基準6. 内部質保証（組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル）

評価機構が定める上記6つの評価基準は、大学として基本的・共通的なものです。これらの6つの基準以外に、その大学が個性・特色として重視している領域に関しては、大学が独自に評価基準を設定し、自己点検・評価を行うことが求められています。本学が2017年度に受審した認証評価では、独自基準として「特色ある教育研究と社会貢献」と「国際交流」を設定しました。本報告書では、学内の各検討機関がそれぞれに関与する基準に沿って自己点検・評価した結果がまとめられています（検討機関と基準及び基準項目との対応表を掲載）。

点検・評価した結果に基づいて、改善に向けてのPDCAサイクルが有効に機能することで、大学教育の内部質保障が継続的に可能になります。本報告書を学内の各組織における改善の指針として、有効に活用していただければ幸いです。全学自己点検・評価委員会では、本学の教育の内部質保証を推進するために、今後とも継続して全学的かつ自律的な自己点検・評価活動に取り組んでまいりたいと考えております。つきましては、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本報告書の作成にあたり、ご尽力いただきました関係各位に深謝申し上げます。

2019年10月1日
全学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価報告書 一覧

1. 『文化女子大学の現状と課題 自己点検・評価報告書 平成13年度(2001)』
2. 『文化女子大学 自己評価報告書 平成17年度』
3. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成18年度ー』
4. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成19年度ー』
5. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成20年度ー』
6. 『文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成21年度ー』
7. 『文化女子大学短期大学部 自己評価報告書 平成22年度』
8. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成22年度ー』
9. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成23年度ー』
10. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成24年度』
11. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成24年度ー』
12. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成25年度ー』
13. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成26年度ー』
14. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成27年度ー』
15. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成28年度ー』
16. 『文化学園大学 自己点検評価書 平成29年度』
17. 『文化学園大学短期大学部 自己点検評価書 平成29年度』
18. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー平成29年度ー』
19. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書ー2018年度ー』

文化学園大学

委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

	検討機関名	担当領域	内容	対応基準
協議・審議機関	文化学園大学 将来構想委員会 運営委員会	将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、本学の現状について本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
	全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
	全学 F D 委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
常置委員会	教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項並びにその他教務に関する事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関する事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2. B-2
	学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーションの推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6. B-1
	入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
	就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関する事項、学生支援・面接に関する事項、インターンシップに関する事項	2-3
特別委員会	研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の共同研究に関する事項、学内外の研究所の交流に関する事項、研究成果の発表に関する事項、紀要の編集刊行に関する事項	4-2. 4-4. A-1. A-3
	研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究のうち、倫理上の問題が生じる恐れのある研究を行う場合の留意事項及び手続き等を定め、研究対象者及びその関係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の倫理に関する事項	4-4. A-1
	研究公正委員会	研究費の不正使用の防止を図る	本学における研究活動の不正行為に対処	4-2. 4-4
	研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及び不正行為に起因する問題が生じた場合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正使用帽子計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
	公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に開放し、一般市民の教養の増進と専門知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	4-2
	ハラスメント防止委員会	ハラスメントに関する防止、調査及び救済を統括する	ハラスメント防止の啓蒙活動、ハラスメントの実態の把握、ハラスメント事案について当事者及び関係者から事情を聴取、その他ハラスメント防止に関する必要な事項	2-4. 2-6. 5-1
	障害学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不利益な扱いを受けず、適切な支援を受けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあたっての指導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関する指導・助言	2-4. 2-5. 2-6
学部専門委員会	衣料管理士課程専門委員会	衣料管理士免許状の取得に関する事項	衣料管理士専門課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、テキストアドバイザー実習関係等、衣料管理士資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	建築・インテリア系資格専門委員会	建築インテリア系資格の取得達成に寄与する	建築・インテリア系受験資格に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法、建築・インテリア系受験資格の認定に関する事項、資格取得の支援方法に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	文化・語学研修専門委員会	文化・語学研修に関する事項	文化・語学研修の教育方法に関する事項、文化・語学研修の学生指導に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	日本語教員養成課程専門委員会	日本語教員養成課程修了資格の取得達成に寄与する	資格課程の全体計画、カリキュラムの編成その、履修方法など、修了資格の取得達成に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
課程専門委員会	教職課程専門委員会	教育免許状の取得達成に寄与する	教育課程の全体計画、カリキュラムの編成、その履修方法並びに教育実習の年間計画等を策定し、かつ各部会の連絡調整	3-1. 3-2. 3-3
	学芸員課程専門委員会	学芸員資格の取得達成に寄与する	学芸員課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、学芸員資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
	司書課程専門委員会	図書館司書資格の取得達成に寄与する	司書課程に関するカリキュラムの編成、科目の履修方法等、司書資格取得に関する事項	3-1. 3-2. 3-3
国際交流委員会	学生の海外留学及び国外大学との連携について審議・検討	学生の国外留学、国外大学との単位互換及び国外大学の学生の研修受入れに関する事項	B-1. B-2	

文化学園大学短期大学部

自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応

※ は対応していることを示す

検討機関名	基準1 使命・目的等		基準2 学生						基準3 教育課程			基準4 教員・職員				基準5 経営・管理と財務					基準6 内部質保証			基準A 特色ある教育		基準B 学外への学修成果の発信				
	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	6-1	6-2	6-3	A-1	A-2	B-1	B-2			
	使命・目的及び教育目的の設定	使命・目的及び教育目的の反映	学生の受入れ	学修支援	キャリア支援	学生サービス	学修環境の整備	学生の意見・要望への対応	単位認定、卒業認定、修了認定	教育課程及び教授方法	学修成果の点検・評価	教学マネジメントの機能性	教員の配置・職能開発等	職員の研修	研究支援	経営の規律と誠実性	理事会の機能	管理運営の円滑化の相互チェック	財政基盤と収支	会計	内部質保証の組織体制	内部質保証のための自己点検・評価	内部質保証の機能性	内部質保証の機能性	本学が持つ人的・物的資源を生かした教育への取り組み	特色ある教育を通じた社会的活動への取り組み	特色ある教育における学外への学修成果の発信	教育活動の学外への学修成果の発信		
大学運営会議（将来構想委員会）																														
全学自己点検・評価委員会																														
全学F D委員会																														
審議機関	教	授																												
協議機関	短	期	大	学	部	協	議	会																						
委員会	常置	教	務	委	員	会																								
		学	生	支	援	委	員	会																						
		入	試	対	策	委	員	会																						
		就	職	委	員	会																								
	特別	研	究	委	員	会																								
		研	究	倫	理	委	員	会																						
		研	究	公	正	委	員	会																						
		研	究	活	動	不	正	防	止	委	員	会																		
		公	開	講	座	実	行	委	員	会																				
		ハ	ラ	ス	メ	ン	ト	防	止	委	員	会																		
附属機関	文	化	学	園	大	学	図	書	館																					
	文	化	学	園	服	飾	博	物	館																					
	文	化	学	園	フ	ァ	ッ	シ	ョ	ン	リ	ソ	ウ	ス	セ	ン	タ	ー												
	文	化	学	園	国	際	交	流	セ	ン	タ	ー																		
	文	化	学	園	知	財	セ	ン	タ	ー																				
共同研究拠点	U	S	R	推	進	室																								
附属研究所	文	化	フ	ァ	ッ	シ	ョ	ン	研	究	機	構																		
	文	化	・	衣	環	境	学	研	究	所																				
	文	化	・	住	環	境	学	研	究	所																				
	和	装	文	化	研	究	所																							
事務局	教務部	教	務	課																										
		学	事	課																										
	学生部	学	生	課																										
		入	試	広	報	課																								
	研	究	協	力	室																									
	全	学	S	D	委	員	会																							
学	園	就	職	支	援	室	就	職	支	援	一	課																		
学	園	学	生	支	援	セ	ン	タ	ー																					
学園本部	総	務	部																											
	施	設	部																											
	経	理	部																											
	I	T	委	員	会																									

文化学園大学短期大学部

委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連

	検討機関名	担当領域	内容	対応基準
協議・審議機関	文化学園大学 将来構想委員会 運営委員会	将来構想を検討	短・中・長期計画の企画立案、本学の現状について本学が行う評価に関する事項	1-1. 1-2. 4-1. 6-1. 6-2. 6-3
	全学自己点検・評価委員会	自己点検・評価の実施	自己点検・評価の基本方針に基づき、報告書案を作成	1-1. 1-2. 6-1. 6-2. 6-3
	全学FD委員会	教員の教育研究活動向上及び能力開発を検討実施	ファカルティ・ディベロップメントの方策に関する事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項、その他ファカルティ・ディベロップメントに関する事項	1-1. 1-2. 2-2. 3-3. 4-2. 6-1. 6-2. 6-3
常置委員会	教務委員会	カリキュラムの編成、実施及び改善に関する事項並びにその他教務に関する事項	カリキュラムの全体編成及び卒業認定単位に関する事項、カリキュラムの開講及び科目名に関する事項、カリキュラムの種類・単位数・年次配当等に関する事項、時間割に関する事項、委員会等の規程に関する事項、科目履修、試験、編入、転学、その他教務上の事項、他大学等の既修得単位の認定に関する事項	2-2. 2-5. 2-6. 3-1. 3-2. 3-3. 4-2. A-1
	学生支援委員会	学生支援の円滑化を図る	学生生活支援に関する事項、学生行事に関する事項、外国人留学生の教科指導に関する事項、外国人留学生と日本人学生・教員とのコミュニケーションの推進及び親睦に関する事項、学生会並びに学生会所属のクラブ・同好会・愛好会に関する事項	2-4. 2-5. 2-6
	入試対策委員会	本学入学生の募集並びに入学試験に関する諸事項の検討と推進を図る	学生募集並びに入学試験実施に関する諸事項	2-1
	就職委員会	学生の就職に関する諸問題の検討と推進を図る	就職指導に関する事項、就職先企業の調査、研究及び開拓に関する事項、就職のための学内選考に関する事項、学生支援・面接に関する事項、インターンシップに関する事項	2-3
特別委員会	研究委員会	教員の研究に資する	全学的な研究体制、研究組織に関する事項、学術研究振興資金への申請に関する学内選抜、研究費、研究図書費、その他研究助成に関する事項、学内外の共同研究に関する事項、学内外の研究所の交流に関する事項、研究成果の発表に関する事項、紀要の編集刊行に関する事項	4-2. 4-4
	研究倫理委員会	研究者が、人間を直接対象とした研究のうち、倫理上の問題が生じる恐れのある研究を行う場合の留意事項及び手続き等を定め、研究対象者及びその関係者の人権を擁護する	研究実施計画の審査、研究の検証、その他研究上の倫理に関する事項	4-4
	研究公正委員会	研究費の不正使用の防止を図る	本学における研究活動の不正行為に対処	4-2. 4-4
	研究活動不正防止委員会	研究活動について、不正行為の防止及び不正行為に起因する問題が生じた場合に適切かつ迅速に対処する	競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正使用帽子計画を策定、不正使用計画の実施状況を調査、必要に応じて改善を指示	4-2. 4-4
	公開講座実行委員会	研究上の成果とリソースを広く社会に開放し、一般市民の教養の増進と専門知識の修得に資する	公開講座開催に関する事項	4-2
	ハラスメント防止委員会	ハラスメントに関する防止、調査及び救済を統括する	ハラスメント防止の啓蒙活動、ハラスメントの実態の把握、ハラスメント事案について当事者及び関係者から事情を聴取、その他ハラスメント防止に関する必要な事項	2-4. 2-6. 5-1
	障害学生支援委員会	障害のある学生がその修学について不利益な扱いを受けず、適切な支援を受けられる体制づくりの推進を図る	修学等支援方針にかかる計画の策定にあたっての指導・助言、障害のある学生及び受験者の同定、少額学生修学支援（入学試験における支援を含む）に関する指導・助言	2-4. 2-6
国際交流委員会	学生の海外留学及び国外大学との連携について審議・検討	学生の国外留学、国外大学との単位互換及び国外大学の学生の研修受入れに関する事項	2-4. 2-5. 2-6	

目 次

『2018年度自己点検・評価報告書』作成にあたって	2
文化学園大学 自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応	4
委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	5
文化学園大学短期大学部 自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応	6
委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連	7

協議・審議機関

大学運営会議・将来構想委員会	12
全学自己点検・評価委員会	14
全学FD委員会	16

協議機関

服装学部協議会	20
造形学部協議会	22
学部共通科目協議会	24
現代文化学部協議会	26
短期大学部協議会	28

審議機関

大学院研究科委員会	
生活環境学研究科委員会	32
国際文化研究科委員会	34
教授会	
文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録	36
文化学園大学短期大学部教授会開催記録	37
常置委員会	
教務委員会	38
学生支援委員会	40
入試対策委員会	42
就職委員会	44
特別委員会	
研究委員会	46
研究倫理委員会	48
研究活動不正防止委員会	49
公開講座実行委員会	50
ハラスメント防止委員会	51
障害学生支援委員会	52
学部専門委員会	
文化・語学研修専門委員会	53
衣料管理士課程専門委員会	54
建築・インテリア系資格専門委員会	56
日本語教員養成課程専門委員会	58
課程専門委員会	
教職課程専門委員会	60
司書課程専門委員会	62
学芸員課程専門委員会	64
国際交流委員会	65

附属機関等

文化学園大学図書館	68
文化学園服飾博物館	70
文化学園国際交流センター	72
文化学園知財センター	74
USR 推進室	76
文化学園ファッションリソースセンター	78

共同研究拠点

文化ファッション研究機構	80
--------------	----

附属研究所

文化・衣環境学研究所	84
文化・住環境学研究所	86
文化・ファッションテキスタイル研究所	88
和装文化研究所	89

事務局

全学 SD 委員会	92
-----------	----

学園本部

学園本部総務部	94
学園本部施設部	96
学園本部経理部	97
IT 委員会 (IT 戦略室)	98

附：委員会委員一覧表	附 2
学部・学科・コース編成	附 4
入学定員・収容定員・在籍学生数	附 5
全学自己点検・評価委員会委員名簿	附 6

協議・審議機関

■ 検討組織名：大学運営会議・将来構想委員会

報告者：濱田 勝宏

提出日：2019年4月1日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化学園創立100周年に向けた本学の中期計画を着実に実行する。【共】 2. ラーニング・ポートフォリオ(以下「LP」)を本格導入する。導入に当たっては、本学の学習成果の可視化が実現するよう、着実に実施する。【共】 3. 入学定員を満たすだけの学生確保はできたが、推薦入学者の確保など、問題点の検討と対策等を具体化する。【共】 4. 短期大学の定員に見合った学生確保の方策を検討する。【短】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園創立100周年に向けた中期計画について、すでに達成できた項目、達成できなかった項目を点検し、一部計画の変更を具体的に検討することとした。【共】 2. 各学部、短期大学部でLP実施の一年間を振り返り、修正を加える点をピックアップし、次年度までに対応策を考えることとした。【共】 3. 指定校推薦、附属高校等との連携を密にするとともに、高校訪問、日本語学校訪問を強化した。【共】 4. 2020年度より短期大学の入学定員を80人から50人とし、文部科学省へ届け出るとともに、短期大学の特性を発信することに努めた。【短】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学園創立100周年に向けた中期計画に添い、教育改革検討会と質保証検討会での議論を、大学運営会議、将来構想委員会に反映する。 2. LPをはじめ、教育の質保証について、さらに検討する。 3. 推薦入学者の確保、質の高い留学生の確保など、さらに検討の幅を広げることとする。 4. 短期大学部と大学の連携をさらに強化し、カリキュラムの充実や学修成果の向上、キャリアガイダンスの充実を図ることとする。【共】

■検討組織名：大学運営会議・将来構想委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年5月29日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 武漢紡織大学における面接試験の状況について 学長より説明。 2. 学園創立100周年に向けた中期計画（2018年度の計画）について 別紙配付資料に基づき事務局長より説明。 3. 各学部学科におけるLPの本学導入の状況について 各学部長、主任教授より報告。 4. 「文化学園大学自己点検・評価規程」の改定について 別紙配付資料について全学自己点検・評価委員会委員長より説明、承認。 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 各学部の新入生の様子について 各学部長、主任教授より報告。 2) 服装学部新カリキュラム導入初年次の様子について 服装学部長より報告。
2018年10月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の将来的な授業体制について 学長より説明。 2. 新入試に対応した入試種別及び方法について 別紙配付資料について入試対策委員会委員長より説明。
2019年2月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度事業計画について 配付し、事務局長より説明。 2. LPについて 本格導入した様子について、各学部より報告。 3. 若手教職員を交えた将来構想委員会報告 現在までの検討内容、状況について委員長より報告。
2019年3月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員人事について 配付資料について学長より説明。 2. 「文化学園大学・文化学園大学短期大学部 文化学園創立100周年に向けた中期計画H30(2018)年度結果」について 配付資料について教務部長より説明。 3. 2020年度の授業体制について 配付資料について教務部長より説明。 4. 「(仮称)文化学園100周年記念校舎」について 事務局長より説明。

■ 検討組織名：全学自己点検・評価委員会

報告者：渡邊 秀俊

提出日：2019年4月1日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』のまとめと公表</p> <p>2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018年度－』の見直しと作成 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』のまとめと公表</p> <p>文化学園大学・文化学園大学短期大学部の42検討機関、文化学園本部の4検討機関による自己点検・評価結果をまとめた自己点検・評価報告書を作成した。報告書の発刊は例年7月1日としてきたが、2018年度からは『文化学園大学自己点検・評価規程』第10条に則り、理事会構成員全員を含む学園運営会議において報告書の内容についての確認を経てから公表する手続きとしたため、発刊は2018年10月1日となった。これにあわせて、『文化学園大学自己点検・評価規程』第10条の「理事会の確認を経て公表する」と記載された部分を、「学園運営会議の確認を経て公表する」に改定した。</p> <p>報告書は学内及び関連部署へPDFで配信するとともに、本学ホームページ（以下HP）において外部に公表した。これにより、『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』のまとめと公表については、滞りなく遂行されたものとする。理事会の開催時期とも関係するが、発刊時期をできるだけ早期にすることは、今後の課題である。</p> <p>2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018年度－』の見直しと作成</p> <p>学園内の自己点検・評価の検討機関の見直しと、提出された原稿を全学自己点検・評価委員会として確認・精査する組織体制の見直しを行った。あわせて、自己点検・評価報告書の様式及び執筆要領、スケジュール等を再検討した。2018年度から機関別認証評価が第三期目に入ったため、日本高等教育評価機構の評価基準及び評価項目が新規更新された。これに合わせて執筆のための参考資料である「自己点検・評価検討機関と認証評価の基準との対応」と「委員会の担当領域と認証評価の基準項目との関連」を、新基準に合わせて更新した。原稿提出締め切りは2019年4月1日とし、2019年1月の教授会にて執筆を依頼した。本学の自己点検・評価の実施体制については、毎年度、機関別認証評価の動向並びに学園内の組織・運営体制の変化に対応するように見直しが図られているものとする。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018年度－』のまとめと公表</p> <p>2. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2019年度－』の見直しと作成 【共】</p>

■検討組織名：全学自己点検・評価委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月24日	1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』の原稿の確認（軽微な修正報告、今後のスケジュールの確認） 2. その他（『文化学園大学自己点検・評価規程』の改定案）
2018年10月23日	1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－平成29年度－』完成版の確認（2018年10月1日発刊） 2. 2018年度機関別認証評価（第3期初年度）の新基準について（日本高等教育評価機構の新基準の変更点及び追加点の確認） 3. 今後の自己点検・評価体制について（本学の検討機関と新基準の対応関係の見直し） 4. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018年度－』の作成方法について（添付資料の確認）
2018年12月18日	1. 『文化学園大学 文化学園大学短期大学部 自己点検・評価報告書－2018年度－』作成について（執筆要領、原稿依頼先及び添付資料の確認） 2. その他（原稿執筆依頼日及び提出日の確認）

■ 検討組織名：全学 FD 委員会

報告者：金川 孝義

提出日：2019 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (2018 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018 年度「全学 FD・SD 研修会」、「秋の分科会」及び「FD 教職員による授業見学ウィーク」の実施。 2. 2019 年度「全学 FD・SD 研修会」、「分科会」、「FD 教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案。 3. 2019 年度の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施方法の改善と試行的実施。 4. 他大学、団体等の「FD 活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。 5. 委員会活動における具体的提案の選択とその具体的政策の検討、試行を引き続き行う。【共】
<p>の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018 年度「全学 FD・SD 研修会」の実施については、非常勤講師の参加も得て、4 月 3 日に行なった。株式会社ラーニングバリュー取締役 樋口善信氏を講師として迎え、「イマドキの学生の初年次教育を考える」をテーマに、最近の学生の特性にフォーキャストした講演を行なった。また 9 月 4 日には全教職員の参加のもと、「秋の分科会」を行い、(1)「大学のグローバル化について（大学教育再生加速プログラムを含めて）」(2)「先生方の考える発達障害の学生についての合理的配慮とは？」(3)「LGBT（性的少数者）について」をテーマに話し合い、教職員相互の問題意識の共有、学生に対する対応力強化に繋がる企画とした。同報告書は 11 月に配付した。 2018 年度の教職員による相互の授業見学「FD 教職員による授業見学ウィーク」は前期 7 月 2 日から 7 月 14 日、後期 10 月 8 日から 10 月 20 日に行い、アンケート調査も実施した。 2. 2019 年度「全学 FD・SD 研修会」の企画につき、2018 年度と同様に開催方針とテーマなどを検討した。2019 年度「全学 FD・SD 研修会」は(1)公益財団法人 21 世紀職業財団キャリアコンサルタント 稲葉光弘氏を講師に迎え、「大学におけるダイバーシティやハラスメント問題と向き合う」をテーマにした講演、(2)学長、各学部長、事務局長の 2019 年度の方針解説、(3)分科会の 3 部構成とした。 3. 2018 年度の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施については、集計作業の軽減のため、前期は月・水・金曜日開講科目、後期は火・木・土曜日開講科目を対象に実施した。過去のアンケート集計内容の分析の結果、誤った回答記入や授業によつての回答率のばらつき等取り組むべき課題が多くみられた為、「授業アンケート検討小委員会」を発足させ、抜本的な改革の検討に入った。新しいアンケートは 2019 年度前期から実施することを目標とする。 4. 他大学、団体等の「FD 活動」に関する継続した情報収集については 2018 年度第 24 回 FD フォーラムに 3 人の委員会メンバーが参加し、他大学の FD 活動の情報収集を行なった。 5. 学生代表と FD 委員会メンバーとの対話を行なうことにより、アンケートとは別に学生の生の声を吸い上げ、FD 活動に反映する検討に入った。2019 年度 8 月初め頃の実施を目標とする。【共】
<p>次年度への 課題 (2019 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019 年度「全学 FD・SD 研修会」、「秋の分科会」及び「FD 教職員による授業見学ウィーク」の実施。 2. 2020 年度「全学 FD・SD 研修会」、「分科会」、「FD 教職員による授業見学ウィーク」等の企画立案。 3. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」質問内容、集計方法の抜本的改革と新方法による 2019 年度からの「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施。 4. 学生代表との対話の実施。 5. 他大学・団体等の「FD 活動」に関する情報収集とレクチャー等への参加を引き続き行う。【共】

■検討組織名：全学FD委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月3日	1. 2018年度全学FD・SD研修会・分科会の反省 2. 2018年度の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」実施方法の検討
2018年5月1日	1. 2018年度の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」フィードバック方法の検討 2. 2018年度「FD教職員による授業見学ウィーク」の実施方法の決定
2018年6月5日	1. 新委員会メンバー紹介 2. 2018年度前期「FD教職員による授業見学ウィーク」の周知方法の決定 3. 2018年度「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の周知方法の決定と2017年度のアンケート集計時期の確認
2018年7月24日	1. 2018年度秋の研修会分科会のテーマと、周知する際の補足内容の決定 2. 2018年度「FD教職員による授業見学ウィーク」の反省
2018年9月5日	1. 2018年度秋の研修会分科会の反省 2. 2017年度後期科目・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の集計・フィードバック・報告書作成の時期の決定と、報告書作成方法の決定 3. 2018年度後期「FD教職員による授業見学ウィーク」の開催日程・周知時期の決定と前期の反省
2018年10月23日	1. 2018年度後期「FD教職員による授業見学ウィーク」のアンケート締め切りの確認 2. 2017年度後期科目・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の集計方法、分析等改革への学園本部総務部企画課 職員参画の決定 3. 2018年度後期科目・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の対象科目の開講曜日の決定 4. 2019年度春の分科会日程の確認とテーマの決定
2018年11月27日	1. 2019年度全学FD・SD研修会の講演団体の決定と、分科会テーマの検討 2. 「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」小委員会報告 3. 2018年度後期科目・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の対象科目の開講曜日変更の決定
2018年12月18日	1. 2019年度全学FD・SD研修会分科会テーマの決定 2. 2018年度後期科目・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の実施期間の決定について
2019年1月31日	1. 2019年度全学FD・SD研修会のプログラムについて検討 2. 2018年度後期科目・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」の閲覧希望者への個別対応の確認 3. 2019年度前期「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」を改善する事の確認 4. 学生代表との対話の時期の確認
2019年2月28日	1. 2019年度全学FD・SD研修会の講演者・講演テーマ決定の報告と、研修会の準備・片付けに関する確認 2. 2018年度前期・後期・通年科目「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」集計のスケジュールの確認 3. 2019年度前期「授業見学ウィーク」の実施期間・実施日程の決定 4. 学生代表との対話の対象学生の決定

協 議 機 関

日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度入学生からの新カリキュラム改訂について、学生の履修状況を確認しながら科目内容の検討を十分に図る。また、グローバル化を意識したカリキュラムの充実も検討する。【大】 2. 進級、卒業に関して学生支援の充実を図るために、担任制の視点から教員が学生について共通認識を持つ指導マニュアルを作成する。【大】 3. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を視野に入れ、ボランティア活動（バザーを含む）の促進を図る。【大】 4. 入学者数増加の策として、多方面における情報公開方法を取り入れる。（例：ファッションショーの観客動員方法としてSNS等を媒体に導入する 他）【大】 5. USR推進室の活動の一つである、文部科学省大学改革推進事業「大学教育再生プログラム」（以下「AP事業」）の長期学外学修プログラムを、本年度もコラボレーション科目として開講し国内外での研修内容を質・良ともに充実させ実施する。【共】 6. 服装学の学問大系構築として、新講座を2020年度までに19冊を発行する。2018年度は2冊の発行を目指し推進する。【大】 7. 新テキスタイル研究室（仮）設置として、3学部と短期大学部でのテキスタイル関連科目、それに伴う機器の活用、教室と時間割関係、指導教員の配置等、ワーキンググループを立ち上げ試行する。【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラム内容のチェック委員として、教員によるワーキンググループチェックを設け、アンケート形式による反省点の収集と学科会議にて改善策を検討した。【大】 2. 学科ごとに学生支援の充実を検討し、マニュアルの修正を行った。【大】 3. ボランティア活動（バザーを含む）の実施が3年目となり、内容の検討を図った。【大】 4. 入学者数増加の策として教員の高校訪問の充実とファッションショーやオープンキャンパスでの説明方法の改善等によって昨年同様の入学者数となり、定員を超える結果を得た。【大】 5. AP事業である長期学外学修プログラムについては、学内外の研修先を増加させるなど改善策の検討を行った。【共】 6. 新講座として教科書を2冊発行した。【大】 7. 新テキスタイル研究室（仮）の設置を、3学部と短期大学部で検討した結果、服装学部のカリキュラム改訂に伴う科目がまだ低学年のみであることから、2019年度への申し送り事項とした。【共】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラム体制の2年生についても、教育成果の可視化対策として、ワーキンググループの活動とLP導入の活用を図る。【大】 2. 教育研究環境改善策として、板書方法の工夫、映像・放送設備等の改修を進める。 3. 進級、卒業に関する学生支援（休・退学者の減少対策含む）のため、学部協議会、学科会議での意見交換の場を充実させ、教員間の共通認識を高める指導マニュアルを作成する。【大】 4. グローバル化を意識した環境問題の取り組みや、ボランティア活動（バザーを含む）への学生の意識の幅をコラボレーション教育等に取り入れて広げる。【大】 5. 入学定員を充足させるための策として、多方面における情報公開方法を取り入れる。（例：ファッションショーの観客動員方法としてSNS等を媒体に導入する 他）【大】 6. USR推進室の活動の一つである、AP事業の長期学外学修プログラムを、2019度もコラボレーション科目として開講し、国内外での研修内容を質・良ともに充実させ実施する。【共】 7. 服装学の学問大系構築とし、2019年度は新たに2冊の発行を目指し推進する。【大】

■検討組織名：服装学部協議会

催年月日	会議等の開催記録
2018年4月2日	1. 新年度の確認事項（協議会の運営） 2. 学内外交流について 3. 2017年度卒業研究学長賞展示案内 4. USR 推進室より新年度の計画 5. 2018年度新入生 新カリキュラム実施スタート 6. 文化・衣環境学研究所について
2018年5月22日	1. キャリア形成教育科目の「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」報告 2. 学内外交流について 3. 服装造形学科第33回ファッションショー開催案内 4. 学内研究発表会の司会、世話役選出と、発表者公募について 5. USR 推進室より AP 事業報告 6. 2018年度の学科構想報告（各学科）
2018年6月19日	1. 服装造形学科第33回ファッションショー終了報告 2. 学内研究発表会の開催案内 3. 学外交流について 4. USR 推進室より（地域活動グループによる小学生ファッションショースタッフ体験報告） 5. 「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」計画につて 6. 2018年度ボランティア活動案について 7. 「自己の探求」プログラムの反省について
2018年7月10日	1. 審議事項1件：短期大学部「アパレル製品論Ⅱ」の開講年次変更について（2018年11月13日教授会承認） 2. 学外交流（①中国武漢紡織大学より4科目の講義依頼 ②文化学園長野高等学校の出張授業報告） 3. 100分授業体制について 4. 短期大学部新カリキュラムの見直し 5. 学内研究発表会発表者募集について
2018年9月11日	1. USR 推進室より（①文化祭準備の依頼 ②長野県2か所の活動報告 ③AP事業の参加者人数報告） 2. 学外交流（武漢紡織大学講義依頼） 3. 学内研究発表会応募者の要旨集原稿提出日程と来聴歓迎の案内 4. 卒業研究抄録集の作成について
2018年10月9日	1. 学内研究発表会終了報告 2. USR 推進室より（①文化祭時における卒業生対応グループの催し物案内 ②AP事業による海外プログラム報告 ③AP事業の後期プログラムの履修者追加について） 3. 文化祭の展示、ファッションイラストレーション展（以下「FIE」）、バザー等協力依頼
2018年11月13日	1. 文化祭関係報告（教科展示、FIE） 2. USR 推進室より文化祭中の活動報告と御礼 3. 学内外交流（①武漢紡織大学主催コンテスト報告 ②中国青島コンテスト報告 ③浙江理工大学講演依頼報告） 3. 2018年度卒業研究発表会のご案内 4. ファッションクリエイション学科第34回ファッションショー日程計画 5. 2019年度3年生コース希望調査について
2018年12月11日	1. USR 推進室より（①2018年度活動予算案報告 ②エコプロ2018参加報告） 2. 新カリキュラム実施1年目の反省等を報告依頼 3. 文化・衣環境学研究所より学内研究プロジェクト助成金の公募開始説明 4. 2019年度入学者予定人数について
2019年1月8日	1. 卒業研究における提出日の確認と指導方法について 2. シラバス執筆依頼とチェックについて 3. 新カリキュラムの問題点まとめ（ワーキンググループによるアンケート形式）依頼
2019年2月5日	1. 2019年度事業計画の検討依頼 2. 2018年度学長賞展示依頼 3. 学内外交流（武漢紡織大学講義依頼） 4. USR 推進室より（AP事業プログラム梅春学期実施について） 5. 入学式終了後の学科集会への協力依頼 6. キャリア形成教育科目の一部削除提案
2019年3月4日	1. 卒業研究発表会の報告 2. 入試関係（2019年度入学者数：服装学部両学科共に定員を上回る、短期大学部は昨年より減少） 3. キャリア形成教育科目の「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」の見直しにおける「申し送り事項」作成配付 4. USR 推進室より（AP事業における国内外研修の途中報告）

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大幅なコース再編後初めての3年生コース専門教育の始動を受け、高校生や在学生の要望、また社会的役割に充分応え得る教育内容の開発、受け入れ人数に即した適正なコース人数の確保に努め、2019年新体制完成年度のディプロマポリシー目標達成に向け備える。 2. 本学部実践教育の特色である産学連携、地域連携型教育を積極的に推進し、各学科、コースの専門性に即した新たな連携先を開拓する。 3. 「造形学部卒業研究展」を造形学部教育成果発表の主軸とし、「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」、「造形 HP」などを活用して、学生の多様で実践的な活動の成果をアピールし、入学者層拡充の機会とする。 4. 各種デザインコンテスト、建築コンペ等への学生の応募を積極的に支援して入賞を目指し、学生の自己啓発を促すとともに、学修成果の学外公表・発信の機会とする。 5. 「造形 HP」は情報発信促進のため、造形学部情報発信 SNS ページをスマートフォン対応可能とする。さらに、これまでの投稿内容に対する反応の分析を行い、今後に向けた研究・教育活動の情報発信のあり方を検討する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再編後のコース教育内容については、基礎教育期間の2年間に、オープンキャンパスでの高校生の声、在校生の授業アンケート等を参考に、カリキュラムに沿って充分準備・検討を重ね、各コース人数についても適正な確保が可能となった。またディプロマポリシーを視野に入れ、社会性と主体性、コミュニケーション力を強化した教育内容の開発にも努めた。 2. 従来から継続して実施中の数多くの連携型教育に加え、本年度は新たにメディア映像クリエイションコースにおいて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連プロジェクトの一環として行われた東京商工会議所の企画「中小企業の魅力発信プロジェクト」を実施した。 3. 「造形学部卒業研究展」は4日間の入場者数が昨年度より増加し、特に高校生の来場が目立った。「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」も発行部数を増やし、「造形 HP」での情報発信とも相俟って、2019年度入学者数は大幅にアップした。 4. ジュエリー及びグラフィック、インテリアデザイン関連を中心に、学生コンテスト応募を推進し、多くの入賞者を輩出、学生の専門的能力の向上と自信に繋がった 5. 「造形HP」はSNSページをスマートフォン対応可能とし、投稿内容に対する反応の分析についても継続して実施した。また大学HPでの公式な発信の場との差別化を行い、具体的な学生の日常生活や制作活動、教員の活動等を社会に発信することを目的とした情報発信を行った。 【大】
<p>次年度への課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 両学科4学年とも新コース体制となることを受け、カリキュラムツリーの点検を通して、科目編成、科目数、科目内容の見直しと整備をはかるとともに 造形学部新コース体制に即した基礎造形教育のあり方を見直し、再構築する。 2. 学生数の大幅増加に伴い、授業体制の工夫と改善、また各研究室と連携し演習室、実習室の整備を図る。 3. コース数の大幅減に伴い「造形学部卒業研究展」の展示方法を見直すなど、新コース体制にふさわしい新たなあり方を検討し、更なる活性化を目指す。 4. 本学部の特色である「新宿・渋谷の立地を生かした都市型連携教育」を積極的に推進するとともに、産学連携、地域連携型教育の活性化に努め、各学科、コースの専門性に即した新たな連携先を開拓する。 5. 「造形学部年間教育活動報告集『BZ』」は、「卒業研究優秀作品」「地域・産学連携活動報告」「各種デザインコンテスト・建築コンペ入賞」の3本の柱を中心としてさらに内容の充実を図り、学外連携先企業や就職先企業、高校訪問の際の説明資料等、本学部教育内容周知に広く活用する。 【大】

■検討組織名：造形学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月2日	1. 新任スタッフ、及び副手の紹介 2. 今年度の造形学部方針について 3. 2018年度入学試験・造形学部関連、結果報告 4. 「キャリアデザイン(導入編)-フレッシュマンキャンプ-」、「キャリアデザイン(展開編)-コースセミナー-」企画依頼 5. 2018年度「造形学部共通経費」申請について 6. 今年度からのLP本格導入・実地について
2018年5月22日	1. 「キャリアデザイン(導入編)-フレッシュマンキャンプ-」報告 2. 来年度カリキュラム変更の検討について 3. 今年度の造形学部教員役割分担について 4. 今年度第1回オープンキャンパス(5/26)について 5. AUB 留学説明会の件 6. 韓国文化院「造形学部作品展」について 7. 「クラフトフェア in 北竜湖」について 8. 「シブヤ・ソーシャルアクション・パートナー協定(以下S-SAP協定)について」
2018年6月19日	1. 授業体制の変更について(案) 2. 2019年度からの「スタディスキルズ」について 3. 2019年度からの染織研究室移管について 4. 第2回オープンキャンパス(6/10)について 5. 「学内研究発表会」について 6. 「卒業研究展」について 7. 韓国文化院作品展について
2018年7月10日	1. 授業体制の変更(案)について 2. 「自己の探究」プログラムについて 3. 第3回、第4回オープンキャンパスについて 4. サマーオープンカレッジについて 5. 「学内研究発表会」について 6. 韓国文化院作品展について 7. 天津工業大学からの教員研修について
2018年9月11日	1. A0入試1期について 2. 学内研究発表会について 3. 8月2、3、4日サマーオープンカレッジについて(報告) 4. 8月5、26日オープンキャンパスについて(報告) 5. 授業体制の変更(案)について 6. 「自己の探求」プログラムについて 7. 韓国文化院作品展展示について
2018年10月9日	1. A0入試1期結果とA0入試2期について 2. 2020年度向け「入学案内」について 3. 9月29日オープンキャンパスについて 4. 文化祭について 5. 韓国文化院作品展について
2018年11月13日	1. A0入試2期及び編入学試験の結果と、推薦入試、及び留学生入試1期について 2. 「文化祭」報告 3. 2018年度「卒業研究展」について 4. 2019年度「学科共通経費」予算編成について 5. 2019年度「求人のためのご案内」パンフレットについて 6. 11月29、30日「キャリアデザイン(展開編)-コースセミナー-」について 7. 韓国文化院作品展について
2018年12月11日	1. カリキュラム改定について 2. 推薦入試、及び留学生入試1期について 3. 2019年度「学部共通経費」予算編成について 4. 2019年度「学部事業計画」について 5. 2018年度「卒業研究展」について 6. 12月8日「進学相談会」について 7. 韓国文化院作品展について
2019年1月9日	1. 入試関連報告・センター入試について 2. 「造形学部卒業研究展」について 3. 「卒業研究学長賞プレゼンテーション」について 4. 造形学部各コースの卒業研究発表会について 5. 造形学部活動報告集『BZ』について 6. 2019年度シラバスチェックについて
2019年2月5日	1. 入試関連報告・一般入試A日程について 2. 「造形学部卒業研究展」について 3. 「卒業研究学長賞プレゼンテーション」について 4. 造形学部活動報告集『BZ』について 5. キャリア形成教育科目について
2019年3月4日	1. 入試関連報告 2. 「造形学部卒業研究展」報告 3. 造形学部活動報告集『BZ』について 4. キャリア形成教育科目について

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な初年次教育のプログラムが用意される中で「スタディスキルズ」の位置づけをどうするかを各学科とともに検討する。また、学部共通科目協議会の担当内容も検討する。さらに、総合教養の3系列外で開講している現状の是非も再検討する。【大】 2. 受講生が5人以下となった開講科目の場合、主として非常勤講師が担当する科目の取り扱いについて検討してきたが、語学系科目の取り扱いについて引き続き検討する。【共】 3. 総合教養科目の全体を見直し、各系列の科目数配分の偏り等が無いかを検討する。また、資格関連科目のうち、本協議会が関与するものについて再検討する。【共】 4. オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5. 「文化学園大学・教職研究会」が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を具体化する。【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>取り組みの結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度にファッションクリエイション学科のみを対象に「スタディスキルズ」を総合教養のA系列の中で開講することとなった。「スタディスキルズ」に関しては各学科別に対応が異なる結果となった。改めて協議会として「初年次教育のあり方」を検討した結果、2020年度の開講を目途に初年次教育を意識した新設科目を設けるよう検討することとなった。【大】 2. 教務委員会とも協議の結果、「英文の新聞と雑誌のリーディング A、B」を2019年度休講、2020年度削除科目とする予定で進めることとなった。【共】 3. 総合教養C系列の科目数が少ない傾向が続いているため、教職専門科目の「食物学」「食品・栄養学」をC系列へ種別変更することとした。「家庭科」の教職関連単位数を軽減する結果となった。年々過重となる資格取得に関する学生の負担を軽減することを考慮し、資格関連科目の単位を自由選択科目の単位として算入することとなった。また、現行授業外で実施している「教員採用試験対策講座」をコラボレーション科目内で開講できるかを検討した。【大】 4. 前年度に引き続き、オープンキャンパスにおけるAO入試、面接対策講座を担当した。また、「文化学園大学・教職研究会」を従来通り文化祭中に開催した。【共】 5. 「文化学園大学・教職研究会」のメンバーに「教育実習集中事前教育」の外部講師として教科指導についての講義担当を依頼した。また、家庭科、美術科とも3人の学生が参加し、教職現場の生の声を聴く貴重な機会となった。【大】 <p>点検評価</p> <p>2018年度に設定した課題は概ね達成することができた。</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度に「スタディスキルズ」がファッションクリエイション学科のみを対象に総合教養科目A系列で開講されることになった。これを受け、本協議会として初年次教育に相当する新設科目を開講すべく、内容の検討と教務委員会への申請を行う。【大】 2. 新入生の英語のクラス分けテストに多大な時間とマンパワーを必要としてきた。学科別にそれぞれ対応をしてきたが、Google フォームを使用したクラス分けテストを試行的に実施し、適切なクラス分け方法について引き続き検討する。【共】 3. 総合教養科目の全体を見直し、適切に削除、新設を行って、再構成に向けた検討をする。また、資格関連科目のうち、本協議会が関与するものについて再検討する。【共】 4. オープンキャンパス、文化祭、高校訪問等への参画の方法について検討する。【共】 5. 「文化学園大学・教職研究会」が学内の教育現場にフィードバックできるか検討し、その方策を具体化する。【大】

■検討組織名：学部共通科目協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月3日	1. 小グループ報告 資格関連科目の単位を卒業要件の単位数に含めるか/再課程認定の件/「スタディスキルズ」の今後のあり方について/「英語」のクラス分け方法について 2. 委員選出のブロック会議
2018年5月22日	1. 委員会報告 CG型入試の導入について/学生相談室の移動と相談体制について 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」について/オープンキャンパス当番表について/資格関連科目の取り扱いについて/教職2科目を総合教養へ移行する件/学芸員課程の単位を自由選択科目へ移行する件/中国語の科目名をグレード制へ移行する件
2018年6月19日	1. 委員会報告 後期追加登録について 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」について/オープンキャンパスパネルについて/A0入試説明会について/学芸員課程の単位の取り扱いについて 3. その他 100分授業について/教務委員会へ提出の削除科目/名称変更/種別変更について
2018年7月10日	1. 小グループ報告 ファッションクリエイション学科の「スタディスキルズ」について/学芸員課程の単位を卒業要件に算入する問題について/「英語コミュニケーション」と「コンピュータ概論」の時間割上の重複について 2. その他 100分授業について/6時限目の開講、土曜授業の削除について
2018年9月4日	1. 小グループ報告 教職科目の名称変更について/「英語」のクラス分け方法及び単位認定の申し合わせ事項について/「英文の新聞と雑誌のリーディングA、B」の今後のあり方について
2018年10月9日	1. 委員会報告 「英文の新聞と雑誌のリーディングA、B」の取り扱いについて 2. 小グループ報告 「スタディスキルズ」及び初年次教育について/「教職研究会」報告/「英語」のクラス分け方法について/武漢紡織大学の受け入れ学生の「日本語」の単位について 3. その他 「ファッション社会学基礎演習I A、B」の担当教員の依頼について
2018年11月13日	1. 委員会報告 資格関連科目の単位を自由選択科目の単位に算入/授業日程表について 2. 小グループ報告 初年次教育の見直の件/「教職研究会」報告/「英語」のクラス分け 3. その他 資格関連科目は進級要件50単位/GPA対象科目/留学資格条件30単位から外れる件について
2018年12月11日	1. 委員会報告 授業日程表の確認/「食物学」と「食品・栄養学」について 2. 小グループ報告 初年次教育の見直の件/「英語」のクラス分けにおける副手の協力の件 3. その他 シラバスワーキンググループのメンバー交替と1科目1シラバスの原則について/2019年度研究室異動について/「哲学」担当教員の非常勤講師募集の件
2019年1月8日	1. 小グループ報告 初年次教育の見直しについて 2. その他 中国語専任教員について/「哲学」担当教員の非常勤講師について/私学助成の配分ルールの変化による厳しい状況に対し議論を行う
2019年2月5日	1. 委員会報告 11階実習室の共有ファイルサーバの廃止と新生生のGmailについて 2. 小グループ報告 初年次教育の新設科目化/教員採用試験対策講座のコラボレーション科目化の検討 3. その他 100分授業に関する4案についての意見集約について/「現代人の社会心理学」の担当者について/中国語新任担当教員の所属研究室について
2019年3月4日	1. 小グループ報告 仮称「文化を学ぶ」について/「英語」のクラス分けについて/教員採用試験対策講座のコラボレーション科目化について 2. その他 100分授業について集約された意見の報告/働き方改革について

日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生数の増加に対応した教育環境（特に実習室など）の整備を図り、さらに充実した教育・大学生生活支援体制を作り、実施する。応用健康心理学研究室を軸として、学生の心身の健康への支援に取り組む体制を検討する。 2. 2018年度から国際文化・観光学科の入学定員を30人から50人に変更するとともに、教員の補充を図り、観光分野を強化していく。 3. 2014年度から実施の新カリキュラムの成果を検証し、改善を進める。 4. 休・退学者の情報収集・分析を継続して行う。遅刻、欠席が多い学生には個別面談を行い、研究室で情報を共有し早期に対応する。 5. 2017年度の成果を踏まえ、LPを本格的に導入する。 6. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高める。2017年度の反省を踏まえ、インターンシップへの参加率30%を目指す。就職内定率は90%を維持する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際ファッション文化学科では、学生数が増加したが実習室を増設できなかった。2019年度は実習室が1部屋増える予定。学生の心身の健康への支援に取り組む体制については、十分に検討できなかったが、ピアヘルパーの活動を広げ、七夕祭りの企画や文化外国語専門学校の留学生との交流会を持つことができた。 2. 教員の補充は一部図ることができたが、観光分野の教員補充はできなかった。 3. 国際ファッション文化学科では、4年生を対象にカリキュラムについてのアンケートを実施した。また、国際文化・観光学科では、観光関係の科目の内容の充実を図った。 4. 休・退学者の情報を協議会等で共有し、担任・副担任が対応した。個別面談等を行ったが、退学者の減少にはつながらなかった。また、面談をしようとしても学生からの応答がなく、対応に苦慮することもあった。 5. 本格的にLPを実施した。2017年度の反省を踏まえ、目標管理シートの内容や実施のやり方等を見直した。1年次から実施している学年には効果が見られた。 6. インターンシップの参加率は23%と2017年度より11ポイント増加した。学科により参加にバラツキがあり、国際文化・観光学科と応用健康心理学科は合わせて2人の参加であった。就職内定率は88%で、ほぼ目標を達成することができた。 【大】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生数の増加に対応した教育環境（特に実習室等）の整備を図り、さらに充実した教育と大学生生活への支援体制を作り、実施する。応用健康心理学研究室を軸として、学生の心身の健康への支援に取り組む体制（ピアサポートを含む）を構築する。 2. 2019年度入学生から国際文化・観光学科の入学定員を30人から50人に変更したため、教員の補充を図り、観光分野を強化していく。 3. 2020年度からの学部名称変更に伴い、現行のカリキュラムの見直しを図る。 4. 休・退学者の情報収集・分析を継続して行う。遅刻、欠席が多い学生には個別面談を継続して行い、研究室で情報を共有し早期に対応し、退学者の減少を図る。 5. 2018年度の成果を踏まえ、より効果的なLPのシステムを構築する。 6. 学生の個別指導を充実し、就職への意識を高め、各学科でのインターンシップへの参加率25%を目指す。就職内定率は90%を維持する。 7. 増加する留学生へのサポート体制を構築する。留学生との定期的なミーティングを行い、日本語指導、大学生生活全般にわたるサポート等、きめ細かな指導を行う。 【大】

■検討組織名：現代文化学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月2日	1. 常置委員会委員の選出について 2. 学内研究発表会担当教員の選出について 3. 2018年度大学院奨学金受給者について 4. 学内研究発表会日程について 5. 2018年度 Tokyo Tokyo FESTIVAL 助成金交付申請について
2018年5月22日	1. コラボレーション科目の単位振替について 2. 特待生継続審議について 3. 研究室等（自習室、教室を含む）扉の貼り紙について 4. 学習奨励金受給者について 5. 文化学園杉並高等学校の授業見学会について 6. 高校教員向け学校説明会について 7. 文化祭役割分担について 8. 学内研究発表会について
2018年6月19日	1. コラボレーション科目の単位振替について 2. 授業体制の変更について 3. 2019年度入試について 4. 日本語学校の指定校について 5. 学内研究発表会の案内について
2018年7月11日	1. コラボレーション科目の単位振替について 2. 授業体制の変更について 3. コラボレーション科目の設置について 4. 「自己の探求」プログラムの実施について 5. 若手将来構想委員会について 6. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」のアンケート結果について
2018年9月11日	1. 「自己の探求」プログラムの実施について 2. 学芸員課程と司書課程の単位取扱について 3. 文化祭について 4. Windows 7サポートについて
2018年10月9日	1. 学芸員課程・図書館司書課程・日本語教員養成課程の単位取扱について 2. 次年度の「自己の探求」プログラムについて 3. 授業体制の変更について 4. なりすまし出席について 5. 学内研究発表会について 6. A0入試1期について
2018年11月13日	1. 学芸員課程・図書館司書課程・日本語教員養成課程の単位取扱について 2. 推薦入試について 3. 1年生の休・退学者について 4. 授業アンケート結果について 5. 文化祭結果について
2018年12月11日	1. 学芸員課程・図書館司書課程・日本語教員養成課程の単位取扱について 2. 学部名の変更について 3. 日本語教員養成課程の廃止について 4. 4年生の進路状況について 5. シラバス調整ワーキンググループについて 6. 入試状況について 7. 授業体制の変更について
2019年1月15日	1. 学部名の変更について 2. 卒業研究発表会について
2019年2月5日	1. 学部名の変更について（2019年2月5日教授会承認） 2. 地方会場入試について 3. 2020年度推薦入試について 4. 卒業研究発表会結果について 5. 2019年度サマーオープンカレッジ、オープンキャンパスについて
2019年3月4日	1. 授業時間の変更について 2. 入試状況について 3. 今後の課題について 4. 明治記念館でのプロジェクト報告 5. 学外での卒業イベント衣装の展示について

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラムの完成年度を迎えることで内容を点検し、充実を図る。 2. LPの充実と、並行してルーブリックによる評価得点に変換し、学びの過程をチャートに示すことで、学生が主体的に自己評価の向上に取り組めるよう、教員の指導力向上を図る。 3. 各クラスの担任をキャリア支援担当教員として位置づけ、キャリアデザイン実践教育を充実し、進路相談や就職支援に結びつける。 4. 第42回日本ホビーショーに参加し、学修成果を広く学外へ向けて発信し、評価を得る。 5. 学修成果の発信を積極的に行い、本学の学びの周知と入学者確保のため、Webを有効活用して広報活動を行う。 <p style="text-align: right;">【短】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度に完成年度を迎えた新カリキュラムは、学生が個々にキャリアプランを掲げ、ファッション分野3領域から科目を横断的に履修できる体制となり、就職等を見据えた実学的教育を推進することができた。教育成果発表の場として2年次選択科目の「総合演習」による口述発表会及び卒業展示を開催し、実務者から講評を得られ教育内容の充実が図れた。 2. LPをキャリア形成教育科目の4科目で実施した。ルーブリックを示し、意識の変容をレポートやリアクションペーパーを通して可視化し、自己評価と教員評価を評価得点のチャートにしたことにより、学びの過程を省察でき、主体的な学びからキャリアデザインの実践教育の充実が図れた。また、教員は学生のルーブリック評価を自己の指導力向上のための省察に利用することができた。 3. 各クラスの担任・副担任がキャリア支援担当教員として密接に関わり、「キャリアデザイン導入編-フレッシュマンキャンプ-」からのキャリアデザイン教育の内容を充実させ、進路相談や就職支援を行った。「キャリアデザイン実践編Ⅱ」では卒業生講話を通し身近なロールモデルを提示したことでキャリアプランや就職意識を喚起し、就職決定率の強化につながった。 4. 第42回日本ホビーショーに参加し、卒業生とのコラボレーションや作品展示、ワークショップを行い、学修成果を広く学外へ向けて発信することができた。来場者対応は「ビジネスマナー演習」「販売実務演習」の実践の場となり、教育効果が実感でき主催者から高い評価を得た。 5. 短期大学部の教育成果を学生募集につなげるため、大学HPによる授業紹介、ツイッターを通じた広報活動を継続的に発信し、特色ある教育活動の成果を公表した。また、本学学生が母校訪問や近況報告の手紙を送付する等の取り組みにより、高校へ本学の情報を提供した。広報活動として今後も継続する。2年次「総合演習」2科目の発表会においては、在学生の見学、内定企業や母校への案内状送付、保護者への周知など学内外に積極的に広報したことにより、来場者が増加した。 <p style="text-align: right;">【短】</p>
<p>次年度への課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラムの内容を修正して充実を図り、学修成果の点検と評価を得る。 2. LPを担当・副担任が2年間継続支援して取り組むことにより、LPから各自の課題の達成及び、自己管理ができる仕組みを作り、PDCAサイクルに則った意識の涵養をはかる。 3. 各クラスの担任・副担任及び、学科会議を通して学生の学修全般における情報を共有し、学修意欲の向上、就職支援につなげる。 4. 学修成果を広く学外へ向けて発信し、評価を得る。製作実習で学んだ技術を生かし、文化祭におけるバザーや社会貢献活動等、ボランティア精神の涵養として継続的に推進する。 5. 入学者確保と本学の学びの周知のため、広報戦略を見直して首都圏以外(海外も含む)の高校生へも教育内容の魅力が伝わるようにWeb情報発信する。 <p style="text-align: right;">【短】</p>

■検討組織名：短期大学部協議会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月2日	1.「キャリアデザイン展開編」について 2. オフィスアワーについて 3. 事業計画 4. LP 及びブルーブリックの導入 5. 2018 年度短期大学部ファッション学科の学生数及びクラス担任・副担任 6. 授業・行事 7. 委員会・係り報告
2018年4月18日	1. 特待生制度(クリエイティブスカラシップ)継続 2. 学生の状況把握(2018年度) 3. 授業・行事 4. キャリア形成教育科目 5. 委員会・係り報告
2018年5月10日	1. 2018年度 第2ブロック・短大研究室役割一覧表(案) 2. 「自己の探求」プログラムについて 3. 「授業公開」の実施について 4. S-SAP 協定 5. 委員会・係り報告
2018年5月24日	1. 「自己の探求」プログラムについて 2. 「授業公開」について 3. カリキュラムについて 4. LP について 5. 外部の取り組み 6. 委員会・係り報告
2018年6月21日	1. 2020 年度の時間割改定案について 2. 学生の授業態度改善について 3. カリキュラムについて 4. 「キャリアデザイン展開編」について 5. 「授業公開」について 6. 高校訪問、母校訪問の状況 7. 文化祭 8. 学生の状況把握 9. 委員会・係り報告
2018年7月19日	1. 2020 年度の時間割改定について 2. 学生の授業態度改善について 3. 「授業公開」について 4. キワニスドール・フェスティバル見学 5. サマーオープンカレッジについて 6. 2018 年度「第 52 回学内研究発表会」 7. 文化祭 8. 中国武漢紡織大学へ出張授業 9. 学生の状況把握 10. 委員会・係り報告
2018年9月6日	1. 2020 年度の時間割の改定案について 2. 「授業公開」報告 3. キワニスドール・フェスティバル見学報告 4. サマーオープンカレッジ報告 5. 入試関係 6. キャリア形成教育科目 7. 「総合演習」合同口述発表 8. 学生の状況把握 9. 委員会・係り報告
2018年9月20日	1. 「自己の探求」プログラムについて 2. 「入学事前教育プログラム」課題 3. 社会貢献活動 4. 入試関係 5. キャリア形成教育科目 6. 文化祭 7. 研究活動 8. 委員会・係り報告
2018年10月11日	1. キャリア形成教育科目 2. 文化祭 3. 入試関係 4. フォーマルスペシャリスト検定準 2 級資格試験 5. 社会貢献活動 6. 委員会・係り報告
2018年11月8日	1. 就職活動解禁日解消について 2. 若手教職員を交えた将来構想委員会からの課題 3. 2019 年度予算 授業用・教員研究費備品等購入計画書 4. 将来構想ワーキング 5. 行事 6. 特別授業 7. 2020 年度入学案内進捗状況 8. 社会貢献活動 9. 委員会・係り報告
2018年11月29日	1. 将来構想ワーキング 2. 2019 年度授業日程表(案) 3. 「キャリアデザイン実践編 I」企業見学 4. BEAMS とのコラボレーションについて 5. 若手教職員を交えた将来構想委員会からの課題 6. 2019 年度学科セット明細の確認 7. 2019 年度入試状況 8. 委員会・係り報告
2018年12月20日	1. 今後の短大に向けて 2. 学生の状況把握、就職状況 3. 研究室所管の実習室、D42 について 4. 委員会・係り報告
2019年1月11日	1. 今後の短大に向けて 2. 学長賞 3. 授業・行事 4. 委員会・係り報告
2019年1月17日	1. 今後の短大に向けて 2. BEAMS の商品選定方法 3. 2020 年度の時間割改定案について 4. 授業・行事 5. 委員会・係り報告
2019年2月20日	1. カリキュラム関連 2. 外部の取り組み 3. クラス運営関係 4. 授業・行事 5. 委員会・係り報告
2019年3月7日	1. 今後の短大に向けて 2. 授業・行事 3. 委員会・係り報告

審 議 機 関

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生比率の増加に対応し、論文作成のための講義及び演習科目、及び特定課題研究（論文及び作品制作）による修士学位取得、グローバルファッション専修の履修条件等を整備し、大学院教育・研究のグローバル化を推進する。 2. 服装造形及び服装デザイン分野の教育・研究の充実のため、服装学部と連携して博士学位を取得できる若手教員の育成体制づくりを進める。 3. 学部科目における運動強化を進め、学内生の大学院進学増加を図る。 4. 大学院生が課程内で円滑に学位取得できる仕組み作りとして、大学院生及び指導教員による進捗管理によって教育・研究成果が可視化できる新たな取り組みを検討する。 <p>【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 留学生対応ワーキンググループを立ち上げて留学生の問題点と改善策を検討した。留学生の問題点としては日本語能力の不足が原因となっており、その対策として①大学院入試の見直し、②日本語科目の新設、③スチューデント・アシスタントの活用、④学修支援室の充実、の以上4案を提示した。これらの導入に向け継続検討していく。ダブルディグリー協定に基づき仏国 Ensad の学生2人を受け入れ、本大学院から学生2人の派遣を行った。また、中国浙江理工大学の学生2人を受け入れた。グローバルファッション専修の整備については、学生の研究テーマがファッションデザイン、ファッションビジネス、機能デザインの3分野であることに対応した指導体制と履修条件の議論を進めた。特定課題研究については、他大学の動向を参考に継続検討する。 2. 服装造形及び服装デザイン分野の教育・研究を充実するための教員養成としては、若手教員が在職しながら本学大学院にて学位を取得できる仕組みを、他大学の教員が本学大学院に入学して学位取得している例を参考に検討中。時短制度の適用が可能であるか、継続検討する。 3. 大学院進学希望の服装学部の学生に対して、一定条件を満たせば学部在学中に大学院の授業を受けることを認め、学部から大学院へ接続性を高める策を立案した。2020年度導入に向けて検討継続する。 4. 学位取得の円滑化と進捗管理については、4月のオリエンテーションにおいて大学院生に学位取得への研究活動の進め方及びセルフチェックの意義を講義した。具体的には、入学時に研究テーマの確認、6月末の大学院セミナーにおいて修士1年生は年間計画を立案及び2年生は中間発表によるセルフチェック、2年生の11月には研究概要書による論文構成の徹底、を周知した。その結果、修了年次生35人中、論文未提出者は5人（14%）であり、昨年度19%から改善した。更なる改善に向けて対策を検討する。 <p>【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルファッション専修の研究テーマに対応した指導体制及び履修条件等を検討・整備し、大学院教育・研究のグローバル化を推進する。 2. 留学生への対応策として取り上げた大学院入試の見直し及び日本語科目の新設の検討を進める。 3. 服装造形及び服装デザイン分野の教育・研究指導を充実するため、服装学部と連携して若手教員が在職しながら修士及び博士学位を取得できる環境整備を検討する。 4. 大学院科目を学部学生が受講できる仕組みを構築し、学内生の大学院進学増加を図る。 <p>【大】</p>

■検討組織名：生活環境学研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月18日	1. 2018年度大学院研究科委員会構成員、2. ティーチング・アシスタント及びリサーチアシスタント、3. 被服学・生活環境学特別研究及び博士論文の指導教員、4. 研究指導グループの申請、以上4項目を審議し、承認。5. 根岸愛子特別奨学金及び文化学園大学大学院特別奨励金奨学生、6. 大学院セミナー日程案、について報告。
2018年5月9日	1. 2018年度指導教員の追加、2. 科目担当教員の変更、3. 大学院セミナーの日程と内容・参加教員、4. 武漢紡織大学からの大学院志願者の選考内容、以上4項目を審議し、承認。
2018年6月13日	1. 入学試験専門科目の出題及び採点者、2. ENSAD のダブルディグリー学生の受け入れと推薦、3. 科目担当教員の変更、4. リサーチアシスタントの申請、以上4項目を審議し、承認。5. 大学院セミナーでの修了年次生の発表題目と順番を確認。
2018年7月11日	1. 2019年度大学院入試、2. 被服学専攻入学希望者の個別入学資格審査、3. 2019年度科目担当者、以上3項目を確認。4. 大学院セミナーでの学生アンケート概略を報告。5. 留学生対応検討グループについて提案。
2018年9月5日	1. 2019年度大使館推薦による国費外国人留学生及び研修生の受け入れ 2. 学生の懲戒、以上2項目を審議し、承認。3. 研究概要書の様式及び日程、4. 文化祭展示を確認。
2018年10月10日	1. ENSAD ダブルディグリーにおける修了判定、2. 修士論文の抄録提出、3. 科目担当教員の変更、4. 2019年度大学院セミナー交通機関、以上4項目を審議し、承認。5. 大学院FDワーキングによる学生アンケート集計結果、6. 文化祭展示の準備状況、7. 留学生対応ワーキング、以上3項目を報告。
2018年11月14日	1. グローバルファッション専攻の被服学特別研究の指導教員、2. 科目担当教員、3. 研究指導グループ、4. 2019年度大学院セミナー日程、以上4件を審議し、承認。 【被服環境学専攻委員会】 1. 博士論文申請書類の様式変更を審議し、承認。
2018年12月5日	1. 浙江理工大学ダブルディグリーの試験判定を行い2人合格、2. 担当教員の変更、以上2項目を審議し、承認。3. シラバスチェックの方法とワーキンググループメンバー、4. 2017年・2018年度年間行事担当者、以上2項目を協議し、決定。根岸愛子奨学金及び大学院特別奨励金の主旨を周知。 【被服環境学専攻委員会】 1. 担当教員の変更を審議し、科目名を修正のうえ承認。
2019年1月29日	1. 修士論文審査教員、2. 学生の専攻変更、3. 担当教員の変更及び指導教員の追加、以上3項目を審議し、承認。4. 2018年度大学院研究科委員会の日程(案)を提示。 【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文1件の受理について審議し、保留。2. 主審査教員1人、副審査教員3人及び公聴会・口頭試問日程を仮決定。3. 新設科目、4. リサーチアシスタント、5. 学生異動(在学延長)、以上5項目を審議し、承認。
2019年2月6日	【被服環境学専攻委員会】1. 博士論文1件の受理について再審議し、取下げを勧告。
2019年2月20日	1. 2018年度被服学専攻・生活環境学専攻・国際文化専攻の修了判定及び学位授与式の代表を選出、2. 科目担当教員の変更、3. 2019年度の特任教授、4. 学生異動(在学延長)、以上4項目を審議し、承認。5. 大学院特別講義A/Bの内容を報告。
2019年2月28日	1. 被服学専攻及び被服環境学専攻における服装社会学とファッション文化の専攻及び講座について整理・統合の方向性を審議し、承認。2. 修士論文発表会の反省点・改善点を報告。 【被服環境学専攻委員会】1. 担当教員の変更及び論文指導教員の変更を審議し、承認。

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化研究科が、ファッション学を掲げる文化学園大学の研究科としての機能を果たすために、国際文化専修・国際ファッション文化専修・健康心理学専修が現在の内容で十分であるか、あるいは、専修の統廃合や新設などの必要性があるか、カリキュラムの再構築を視野に検討する。 2. 国際文化研究科の専攻や専修の連携を強化し、社会の多様な要請に応え得る実践型教育プログラムを整える。 3. 国際文化研究科の特色の明確化とともに、観光学の充実を含む学部と連携した教育体制を強化する。 4. 教員の学際的な共同研究と研究活動の活性化を図る。 5. 学生数の増加を図るとともに、増加しつつある留学生の学修支援を進めていく。 6. 国際文化研究科と生活環境学研究科との相互交流による学際的な研究基盤を形成し、大学院教育の充実を図る。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化専修・国際ファッション文化専修・健康心理学専修の現在の内容は、学門分野の内容、専修の規模から検討すると現状では十分であるが、文化学園大学大学院の今後の発展を目指すためには、専修の統廃合や新設などの必要性があると判断し、カリキュラムの再構築を次年度に検討することとした。 2. 健康心理学とファッション文化の双方の視点からテーマを選んだ学生の修士論文により、社会に直接役立つような実践的な示唆を与える結果が得られた。 3. 志願者に反映された。さらに充実していく必要がある。 4. さらに教員の学際的な共同研究と研究活動の活性化を図る必要がある。 5. 留学生の論文作成の指導に関して、言語能力面の支援も必要になり、教員は最善をつくしてはいるが、質の良い研究のためには更なる環境整備が必要と思われる。留学生の学修レベルを上げるために、支援の在り方と、入学志願者に対する入学試験の内容を検討するためにワーキングチームを立ち上げた。 6. 教員同士の個人的な共同研究はみられるが、研究科レベルの規模の学際研究には至らなかった。 【大】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育面においては、国際文化専修・国際ファッション文化専修・健康心理学専修のカリキュラムを学術的に再検討して現在、将来、同時に学部生の進学先として魅力あるイメージを明確に打ち出す。 2. 設置科目に応じた教員の補充を検討する。 3. 研究面においては、国際文化研究科の担当教員全員が各専門分野の論文発表の機会をもつよう努めていく。 4. 院生に関しては、留学生も含めて、修士課程修了後の進路の更なる研究、あるいは、社会貢献に結びつくように指導していく。 【大】

■検討組織名：国際文化研究科委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月18日	1. 2018年度大学院研究科委員会構成員、2. ティーチング・アシスタント及びリサーチアシスタント、3. 被服学・生活環境学特別研究及び博士論文の指導教員、4. 研究指導グループの申請、以上4項目を審議し、承認。5 根岸愛子特別奨学金及び文化学園大学大学院特別奨励金奨学生、6. 大学院セミナー日程案、について報告。
2018年5月9日	1. 2018年度指導教員の追加、2. 科目担当教員の変更、3. 大学院セミナーの日程と内容・参加教員、4. 武漢紡織大学からの大学院志願者の選考内容、以上4項目を審議し、承認。
2018年6月13日	1. 入学試験専門科目の出題及び採点者、2. ENSAD のダブルディグリー学生の受け入れと推薦、3. 科目担当教員の変更、4. リサーチアシスタントの申請、以上4項目を審議し、承認。5. 大学院セミナーでの修了年次生の発表題目と順番を確認。
2018年7月11日	1. 2019年度大学院入試、2. 被服学専攻入学希望者の個別入学資格審査、3. 2019年度科目担当者、以上3項目を確認。4. 大学院セミナーでの学生アンケート概略を報告。5. 留学生対応検討グループについて提案。
2018年9月5日	1. 2019年度大使館推薦による国費外国人留学生及び研修生の受け入れ 2. 学生の懲戒、以上2項目を審議し、承認。3. 研究概要書の様式及び日程、4. 文化祭展示を確認。
2018年10月10日	1. ENSAD ダブルディグリーにおける修了判定、2. 修士論文の抄録提出、3. 科目担当教員の変更、4. 2019年度大学院セミナー交通機関、以上4項目を審議し、承認。5. 大学院FDワーキングによる学生アンケート集計結果、6. 文化祭展示の準備状況、7. 留学生対応ワーキング、以上3項目を報告。
2018年11月14日	1. グローバルファッション専攻の被服学特別研究の指導教員、2. 科目担当教員、3. 研究指グループ、4. 2019年度大学院セミナー日程、以上4件を審議し、承認。
2018年12月5日	1. 浙江理工大学ダブルディグリーの試験判定を行い2人合格、2. 担当教員の変更、以上2項目を審議し、承認。3. シラバスチェックの方法とワーキンググループメンバー、4. 2017年・2018年度年間行事担当者、以上2項目を協議し、決定。根岸愛子奨学金及び大学院特別奨励金の主旨を周知。
2019年1月29日	1. 修士論文審査教員、2. 学生の専攻変更、3. 担当教員の変更及び指導教員の追加、以上3項目を審議し、承認。4. 2018年度大学院研究科委員会の日程(案)を提示。
2019年2月20日	1. 2018年度被服学専攻・生活環境学専攻・国際文化専攻の修了判定及び学位授与式の代表を選出、2. 科目担当教員の変更、3. 2019年度の特任教授、4. 学生異動(在学延長)、以上4項目を審議し、承認。5. 大学院特別講義A/Bの内容を報告。
2019年2月28日	1. 被服学専攻及び被服環境学専攻における服装社会学とファッション文化の専攻及び講座について整理・統合の方向性を審議し、承認。2. 修士論文発表会の反省点・改善点を報告。

■検討組織名：文化学園大学・文化学園大学短期大学部合同教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：2019年4月1日

開催年月日		会議等の開催記録
2018年4月2日	審議事項 報告事項	1. 学生異動について 2. 科目等履修生・研究生入学許可について 3. 公欠審議について 1. 委員会報告 2. 2018年度新入生数について 3. 2019年度募集用の入学案内書等について 4. 2018年度入学式・保護者懇談会・新入生学科紹介・オリエンテーションについて 5. キャリア形成教育科目「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」打ち合わせ及び「自己の探求」プログラム説明会について 6. 2018年度総合消防訓練について 7. 学生異動について（報告）
2018年5月22日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠について 1. 委員会報告 2. 2018年度入試関係について 3. 「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」について 4. 学生異動について（報告）
2018年6月19日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 公欠について 3. 科目等履修生入学許可について 4. 特別研究員について 1. 委員会報告 2. 2019年度入試関係について 3. 学生異動について（報告）
2018年7月10日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 研究生入学許可について 4. 公欠について 1. 委員会報告 2. 2019年度入試関係について 3. 前期定期試験について 4. 教員の夏季休暇等について 5. 2019年度教員の国内外研修申請について 6. 学生異動について（報告）
2018年9月4日	審議事項 報告事項	1. 研究生入学許可について 2. 公欠審議について 1. 委員会報告 2. 2019年度入試関係について 3. 学生会サミット（代議員大会）について 4. 科学研究費助成事業について 5. 学生異動について（報告）
2018年10月9日	審議事項 報告事項	1. 学生異動について 2. 2018年9月卒業について 3. 公欠審議について 4. 特別留学生入学許可について 5. 科目等履修生の履修科目の変更について 1. 委員会報告 2. 2019年度入試関係について 3. 2019年度教員昇任審査・任期制教員の再任に関する申請について 4. 2019年度任期制助手の採用について 5. 2019年度副手の採用申請について 6. 2018年度卒業式・2019年度入学式日程について 7. 文化祭について 8. 学生異動について（報告）
2018年11月13日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 公欠について 1. 委員会報告 2. 2019年度入試関係について 3. 文化祭関係報告 4. 学生異動について（報告）
2018年12月11日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 1. 委員会報告 2. 2019年度入試関係について 3. 年末年始休暇について 4. 学生異動について（報告）
2019年1月8日	審議事項 報告事項	1. 教員人事について 1. 委員会報告 2. 2019年度入試関係について 3. 後期定期試験について 4. 卒業研究発表会、卒業研究展、総合演習プレゼンテーションについて 5. 学生異動について（報告）
2019年2月5日	審議事項 報告事項	1. 委員会 2. 学生異動について 3. 学生懲戒について 1. 教員異動について [正教授会（第8条教授会）報告] 2. 委員会報告 3. 2019年度入試関係について 4. 学生異動について（報告） 5. 「（仮称）文化学園100周年記念校舎」について
2019年3月4日	審議事項 報告事項	1. 教員人事について 2. 特任教員について 3. 委員会 4. 学生異動について 5. 学生懲戒について 6. 研究生入学許可について 7. 学則変更について 1. 委員会報告 2. 2019年度入試関係について 3. 2018年度卒業式・2019年度入学式について 4. 教員春季休暇について 5. 新年度のスケジュールについて 6. 学生異動について（報告）

■検討組織名：文化学園大学短期大学部教授会開催記録

報告者：濱田 勝宏

提出日：2019年4月1日

開催年月日		会議等の開催記録
2018年6月5日	報告事項	1. 日本ホビーショーについて 2. 「キャリアデザイン導入編－フレッシュマンキャンパー」報告 3. 授業公開について
2018年7月17日	報告事項	1. 2018年度入試関係 2. 学生異動について（報告）
2018年12月18日	報告事項	1. 入学定員の変更について 2. 「総合演習プレゼンテーション」について
2019年2月26日	報告事項	1. これからの短期大学教育について 2. 「総合演習プレゼンテーション」口述発表・卒業展示について 3. 学生異動について（報告）

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. Web シラバス、Web 履修登録に関わる検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 文化学園大学特待生制度（A0 入試（CG 型））規程（案）、文化学園大学特待生制度（A0 入試（A&A 型））規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度（クリエイティブスカラシップ）規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度（附属高等学校推薦入試）規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部 私費外国人留学生授業料減免に関する規程（改定案）、研究委員会規程（改定案）、文化学園大学・文化学園大学短期大学部 スチューデント・アシスタント規程（案）、文化学園大学教授会規程（改定案）、文化学園大学短期大学部教授会規程（改定案）、以上の規程について審議し承認後、教授会に提案した。各規程の審議においては、関係する部署または委員会との間で確認・修正作業を行った。 2. 授業日程の調整と検討 2019 年度授業日程について審議・決定した。曜日変更や祝日の授業日が必要最小限になるよう、また、各ブロックからの意見を参考に、前・後期及び曜日間の均衡に配慮しながら検討することができた。 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し <ol style="list-style-type: none"> (1) 服装学部、現代文化学部、学部共通科目、短期大学部ファッション学科のカリキュラム改訂案について審議し承認後、教授会に提案した。 (2) 服装学部、造形学部における資格課程の単位取扱いについて審議し承認後、教授会に提案した。現代文化学部においては次年度への継続課題となった。 (3) PC 実習室の割り当ての仕組みについて改善策を検討し、IT 委員会大学小委員会へ提案した。 (4) 教員の担当講義表の記入項目について、現状確認と改善策の検討を行った。 4. 「コラボレーション科目」の検討 2016 年度入学生より卒業要件を 2 単位に変更した。2018 年度は 4 単位の学生の最終卒業年度にあたり、単位の取得状況について確認した。 5. Web シラバス、Web 履修登録に関わる検討 後期開講科目の履修登録について意見を集め、その結果をもとに検討した。大学全体の授業体制見直しの中で、今後も継続して検討を行う。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への課題 (2019 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「規程集」各項の見直しと改定及び新規規程案の検討 2. 授業日程の調整と検討 3. カリキュラムに関する諸問題の検討及び見直し 4. 「コラボレーション科目」の検討 5. 授業体制の見直しに伴う諸問題に関する検討 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：教務委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月17日	1. 新三役(委員長、副委員長、書記)の決定 2. 前期教務委員会開催予定について
2018年5月29日	1. 委員名簿・議事録担当者の確定 2. 後期教務委員会開催予定について 3. 今年度の課題(カリキュラム変更の流れ、後期履修登録・追加登録)について検討
2018年6月12日	1. カリキュラム改定に関する進捗状況の確認 2. 後期履修登録の検討 3. 委員会開催スケジュールの決定
2018年7月24日	1. カリキュラム改定(短期大学部ファッション学科)の審議 2. 学芸員課程・図書館司書課程の単位取扱い改定の審議 (2018年11月13日教授会承認)
2018年8月1日	1. 学芸員課程の単位取扱い改定の審議 2. 司書課程の単位取扱い改定の審議 3. 総合教養科目のカリキュラム改定(服装学部・造形学部)の審議 4. 外国語科目のカリキュラム改定(服装学部・造形学部)の審議 (2018年11月13日教授会承認)
2018年9月18日	1. 総合教養科目のカリキュラム改定(服装学部・造形学部)の審議 2. 外国語科目のカリキュラム改定(服装学部・造形学部)の審議 3. カリキュラム改定(服装学部ファッションクリエイション学科・造形学部)の審議 4. 教職に関するカリキュラム改定(服装学部、造形学部デザイン・造形学科)の審議 5. 資格課程科目の単位取扱いについての検討 6. コンピュータ室の利用方法についての検討 (2018年11月13日教授会承認)
2018年10月16日	1. 総合教養科目のカリキュラム改定(服装学部・造形学部)の審議 2. 外国語科目のカリキュラム改定(服装学部・造形学部)の審議 3. 資格課程の単位取扱いについての確認 4. 文化学園大学特待生制度(A0入試(CG型))規程(案)の審議 5. 文化学園大学特待生制度(A0入試(A&A型))規程(改定案)の審議 6. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度(クリエイティブスカラシップ)規程(改定案)の審議 7. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部特待生制度(附属高等学校推薦入試)規程(改定案)の審議 8. 2019年度授業日程表(案)についての検討 (2018年11月13日教授会承認、2018年12月11日教授会承認)
2018年11月20日	1. 資格課程の単位取扱いについての確認 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部学籍移動に関する細則についての確認 3. 文化学園大学留学規程についての確認 4. 2019年度授業日程表(案)についての検討 (2018年12月11日教授会承認)
2018年12月18日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程(改定案)の審議 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 私費外国人留学生授業料減免に関する規程(改定案)の審議 3. 今後の検討課題について (2019年2月5日教授会承認)
2019年1月22日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規程(改定案)の審議 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部 私費外国人留学生授業料減免に関する規程(改定案)の審議 3. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部スチューデント・アシスタントに関する申合せ(案)の審議 4. 研究委員会規程(改定案)の審議 5. 2019年度編入生単位認定の審議 (2019年2月5日教授会承認)
2019年2月19日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部スチューデント・アシスタント規程(案)の審議 2. 文化学園大学教授会規程(改定案)の審議 3. 文化学園大学短期大学部教授会規程(改定案)の審議 4. 自己点検・評価報告書案の検討 (2019年3月4日教授会承認)
2019年3月6日	1. 文化学園大学教授会規程(改定案)の審議 2. 文化学園大学短期大学部教授会規程(改定案)の審議 3. 自己点検・評価報告書案の検討

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 学生生活の現状を把握できるよう、3年に1度の学生生活調査の設問を検討する。また、入学者増に伴う学生への対応に問題がないか配慮するとともに、必要に応じ支援体制を見直す。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 学生相談室や教職員の連携を密にし、学生の心の問題、発達障害の問題などの理解に努める。また、それらを軽減するための具体的なサポートシステムの構築を検討する。 3. 学内及び周辺の巡回と改善 学内巡回指導を通じたマナー啓発の継続。また、学園全体での取り組みである「受動喫煙ゼロ」キャンパスの実現に向け、学生による啓発活動の支援や大学の専門性を生かした方策の検討。 4. 各種行事内容の見直し ドレスコードイベントなど本学園の特色を生かした行事ではあるが、大学としての取り組みはやや消極的になりつつある。それらも含め学生の自主的な行事実施案があれば検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 (1) 次年度は学生生活調査実施年度であるため、学生生活調査の項目を検討した。「学生寮について」の項目を削除し、新たに「ジェンダー問いかけへの配慮」、「携帯電話や SNS 利用に関する項目」、「本学独自の奨学金・助成金に関する項目」等を加えた。 (2) 少人数に分けた全新生入留学生と学生支援委員との懇談会を行った結果、授業、学生生活、アルバイト、進路等の率直な意見を、留学生同志で共有すると同時に教員が把握することができた。また、留学生の要望をもとに学生食堂等を利用しやすく改善するきっかけとなった。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 月ごとに開催する委員会で、学生相談室の利用状況の報告により、利用学生の具体的な相談例を把握すると同時に、継続して学生状況を観察する必要がある。 3. 学内及び周辺の巡回指導と改善点の検討 年2回と文化祭期間中に学内や学園周辺を巡回し、学生のマナーや美化への意識を高めるための声掛けを行い、学内美化等に改善が見られた。昨年度に引き続き、学生ボランティアによる近隣の清掃活動や喫煙マナー啓発活動への取り組みが行われ、これらの活動を支援した。 4. 各種行事内容の見直し 本大学の特色を生かした行事が多く有意義であった。いくつかの行事が重なることもあり日程の調整が難しいため、引き続きの検討が必要である。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活の現状把握と学生支援のあり方についての検討 学生生活調査の結果から、次の調査に向けて設問を検討する。また、学生への対応に配慮するとともに、必要に応じ支援体制を見直す。 2. 学生の質的变化に対するケアの問題 学生相談室や教職員の連携を密にし、学生の心の問題、留学生へのサポート、発達障害の問題などに対する体制の具体的なサポートシステムの構築を検討する。 3. 学内及び周辺の巡回と改善 学内巡回指導を通じたマナー啓発の継続や学園全体での取り組みである「受動喫煙ゼロ」キャンパスの実現に向け、学生による啓発活動の支援や大学の専門性を生かした方策を検討する。 4. 各種行事内容の見直し 大学の特色を生かした行事が多いが、学生が自主的に参加、サポート、見学できるように日程を含めて調整することを検討する。 5. 高等教育の授業料無償化(予定)に伴い、学生に対する経済支援について検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：学生支援委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月10日	1. 年間活動方針と行事予定 2. 学生相談室報告 3. 総合学生生活委員会報告 4. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 5. デートDV防止啓発講座について 6. 「クラフトフェア in 北竜湖」について
2018年5月15日	1. 年間活動方針と行事予定(訂正) 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金選考 について 3. 緑道・学内巡回指導について 4. 新入留学生懇談会について 5. 学生相談 室報告 6. 総合学生生活委員会報告 7. 受動喫煙ゼロキャンパスについて 8. 学生チャ レンジプロジェクト助成金制度について 9. 「クラフトフェア in 北竜湖」出店募集について
2018年6月26日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金について 2. 緑道・学内巡回指導報告 3. 健康診断結果報告 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報告 6. 学生チャレ ンジプロジェクト助成金制度について 7. 「クラフトフェア in 北竜湖」申込み者について 8. 「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」学生ボランティア募集について
2018年7月24日	1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金について 2. 新入留学生懇談会結果報告 3. 私費外国人留学生授業料減免について 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報 告
2018年9月18日	1. 学内巡回指導について(文化祭期間中) 2. 第18回学生生活調査について 3. 学生相 談室報告 4. デートDV防止啓発講座について
2018年10月16日	1. 緑道・学内巡回指導について 2. 第18回学生生活調査について 3. 学生チャレンジ プロジェクト助成金制度について 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会報告
2018年11月20日	1. リーダーズトレーニングについて 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金規 程、文化学園大学・文化学園大学短期大学部私費外国人留学生授業料減免に関する規程の改定 について 3. 第18回学生生活調査について 4. 学生相談室報告 5. 総合学生生活委員会 報告 6. 緑道・学内巡回指導について 7. 日本学生支援機構「学生生活調査」実施につい て
2018年12月18日	1. 緑道・学内巡回指導報告 2. 2018年度自己点検・評価報告書について 3. 第18回学 生生活調査について 4. 学生相談室月別利用状況について 5. 私費外国人留学生授業料減 免について 6. 日本私立短期大学協会「学生生活調査」実施について
2019年1月22日	1. リーダーズトレーニングについて 2. 2018年度自己点検・評価報告書について 3. 第18回学生生活調査について 4. 学生相談室月別利用状況について 5. 文化学園大 学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金について
2019年2月19日	1. 学生チャレンジプロジェクト助成金制度について 2. 2018年度自己点検・評価報告 書について 3. 学生相談室月別利用状況について 4. 総合学生生活委員会報告 5. リーダーズトレーニングについて

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 2018年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジの実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 2019年度オープンキャンパスのあり方の検討 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. オープンキャンパスを6回開催した(文化祭及び進学相談会3回を除く)。キャンパス統合に合わせ、全学で統一した新プログラムに移行して4年目となった。実施内容は、大学の全体像を把握した上で各学部学科の特徴を理解できるような工夫を行った。また学科説明会では各学科教員による3つのポリシー及びカリキュラム内容の説明に加え、学生による学科での学びのプレゼンテーション、受験体験談を行い、受験生目線で教育内容と学生生活の実態が見えるよう充実を図った。他に教員による「プレゼンテーション・面接対策講座」を行い、プレゼンテーションや面接に際しての基本的な作法から自己アピールの仕方等まで丁寧なレクチャーを行い、好評を博した。結果、総来場者数は増加し、前年度比で5.8%増であった。「授業公開」では、オープンキャンパスの一環として、実際の授業体験を通して本学での学びの雰囲気を理解してもらうことを目的に7月21日に実施した。結果、前年度比で1%増であった。授業公開の形式や時間配分などについては委員会において議論を行い、できるだけ多くの授業を見学できるよう配慮した。一方で教員の絶対数が少なく、授業を行っている関係上、来場者となる高校生や保護者への丁寧な対応ができないというケースや、逆に対応に追われてしまい、授業を受ける立場の学生への対応が疎かになってしまいそうだという意見も出された。サマーオープンカレッジは8月2日～8月4日の3日間で実施された。結果、受講者数は前年度比で3.3%の増であった。参加者のアンケートからみると概ね好評であった。毎年問題となる欠席率については12.5%で前年度より微増であった。高校生にとって大学での学びを意識できるような魅力的な講座内容であること、わかりやすいパンフレットやWeb画面上の構成等、入学志願者の獲得につながる工夫を行う必要がある。また、遠方からの受講者にとっては申し込み期間が短く、ホテルや交通機関の予約がしにくいという意見があり対応が必要である。</p> <p>2. 2012年度より全学的・組織的に実施している。結果、一都三県を中心に講師以上の専任教員が1人あたり2～3校を訪問した。訪問後に教員等の訪問者が書いた報告書を参考に、委員会で今後の高校訪問のあり方について検討した。その結果、問題点としては授業期間中の実施であることから教員の負担が大きいこと、実施の効果が目に見えず、有効性に疑問を感じる等の意見が出された。今後は議論を重ね、より効率的効果的、戦略的な高校訪問について検討することになった。</p> <p>3. 各学科の入学後の教育内容に関連する入学事前教育プログラムを実施している。結果、殆どの学科においてプログラムの開始時と終了時を比較すると基礎学力の向上等がみられた。</p> <p>4. 2018年度オープンキャンパスの実施内容を踏まえ、入学志願者の増加へつなげる工夫について検討を行った。結果、学生スタッフ等在学生の直接的な関与が効果的であることを確認した。 【共】</p>
<p>次年度への課題 (2019年度)</p>	<p>1. 2019年度オープンキャンパス・授業公開・サマーオープンカレッジ実施と結果の検討 2. 教員による高校訪問の実施と結果の検討 3. 入学事前教育プログラムに関する検討 4. 2020年度オープンキャンパスのあり方の検討 【共】</p>

■検討組織名：入試対策委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月24日	1. オープンキャンパスについて（開催内容確認等） 2. 高校訪問について（リーフレット・ポスター最終校確認等） 3. 2019年度入試から実施するA0入試(CG型)について 4. 進学相談会について（3月実施回の開催報告） 5. 次年度への引き継ぎについて（検討事項の確認）
2018年5月15日	1. オープンキャンパスについて（全回の開催内容確認等） 2. 高校訪問について（説明会等について） 3. 入学事前教育プログラムについて（2018年度入学者の受講結果報告と2019年度入学者向け内容確認） 4. 新入試（2021年度実施）について（実施方針等）
2018年6月12日	1. オープンキャンパスについて（5月・6月実施回の状況報告、問題点の検討等） 2. 授業公開について（開講講座の確認等） 3. 文化学園大学杉並高等学校1年生の授業見学会について（報告）
2018年7月24日	1. 授業公開について（開催報告、問題点の検討等） 2. サマーオープンカレッジについて（申込状況の報告等） 3. 2019年度入学事前教育プログラムについて（各学科の実施内容の決定） 4. 大学・専門学校・専門職大学の差異について（意見交換）
2018年9月25日	1. A0入試（1期・A&A型・CG型）について（結果報告、改善点の検討） 2. オープンキャンパスについて（7月・8月実施回の状況報告及びアンケート結果報告） 3. サマーオープンカレッジについて（出席状況・アンケート結果報告） 4. 高校訪問について（実施結果報告、改善点の検討）
2018年10月23日	1. 2019年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジについて（日程案の検討） 2. オープンキャンパスについて（9月実施回の状況報告及びアンケート結果報告） 3. 進学相談会について（12月実施回の内容確認） 4. 新入試（2021年度実施）について（経過報告） 5. 高校訪問について（次年度への検討）
2018年11月20日	1. A0入試2期、推薦入試、留学生入試1期について（結果報告等）
2018年12月18日	1. 進学相談会について（12月実施回の開催報告） 2. 2019年度オープンキャンパス、サマーオープンカレッジについて（開催日程の決定） 3. 2019年度以降の高校訪問について（意見交換）
2019年1月29日	1. 進学相談会について（2月実施回の内容確認等） 2. 2019年度オープンキャンパス・サマーオープンカレッジについて（実施内容の検討） 3. 進学相談会について（12月実施回のアンケート結果報告） 4. 学校見学会について（報告等） 5. 新入試（2021年度実施）について（経過報告）
2019年2月12日	1. 入学事前教育プログラムについて（申込み状況報告等） 2. 2019年度オープンキャンパスについて（実施内容の検討） 3. 2019年度サマーオープンカレッジについて（開講講座の確認） 4. 進学相談会について（2月実施回の開催報告）
2019年3月22日	1. 2019年度入試結果について（入学手続き状況の報告） 2. 2019年度オープンキャンパスについて（実施内容の検討） 3. 2019年度高校訪問について（リーフレット・ポスターの内容確認等） 4. 進学相談会について（2月実施回のアンケート結果報告）

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①研修先でトラブルが無いよう事前教育の徹底を継続する。②事前事後教育の日程、期間の検討を継続する。③コース単位報告会を年間スケジュールに入れやすい時間の検討をする。④学生に分かりやすいよう造形学部の1・2次募集を1回の募集とし実りある結果を目指す。⑤インターンシップ参加者の減少に伴う、解決策について検討する。【学】</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①担任・副担任と連携し、就職活動に消極的な学生支援強化に継続して取り組む。②就職講座出席率向上のため、次の取り組みを強化する。(担任・副担任へメール、学生へGmail、実習室に掲示、個人面談での出席促し、講座のネーミング及び内容の検討、スケジュールの見直し)③男子及び留学生向け企業開拓と支援の検討及び専門分野に特化した企業開拓を行う。④卒業後の起業支援について検討する。⑤就職講座の単位化について検討する。【共】</p> <p>(2) キャリア支援 ①学部はキャリア形成教育科目との連携で、企業見学や企業講師による講話の取り入れを検討する。短期大学部は企業見学実施を継続する。【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①事前教育の徹底によりトラブルは無かった。②期間や単位は現状を維持するが、検討は継続する。③内容検討により分かり易い報告会となった。④問題は無くスムーズに進んだ。⑤学内と共に、学外実施の短期インターンシップも併せての複数参加を学生に促した。【学】</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①担任・副担任との連携で学生支援に継続して取り組んだ。今後も引き続き行う。短期大学部は、担任・副担任がキャリア形成教育科目を担当し強化を図ることへの協力を行った。②学部は就職環境が良好なためか、学生に安心感があり向上できなかった。今後も検討を継続する。短期大学部は、担任・副担任が講座に出席し学生把握に努めたことで維持ができた。③卒業生が就職した専門分野の企業からのコンタクト増加を活用し、関係構築を図る。企業開拓は継続する。④引き続き検討する。卒業生情報追跡カードに文化祭等で来校した卒業生に記入してもらうことで在学生の就職活動及び卒業生の転職支援に役立てる資料となった。⑤単位化、時間割は就職を希望しない学生への対応等で難しい面がある。検討を継続する。【共】</p> <p>(2) キャリア支援 ①造形学部は企業見学や企業講師による講話の取り入れを、コースごとに実施した。短期大学部では企業見学を1月に実施し、働く意義を確認できた。【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. インターンシップの学生関心度アップと企業開拓 ①事前教育の徹底を継続する。②事前事後教育の日程と期間の検討を継続する。③コース単位報告会を年間スケジュールに入れやすい日程・時間の検討を行う。④インターンシップ参加者の減少に伴う解決策について検討する。【学】</p> <p>2. 就職・キャリア支援 (1) 就職支援 ①担任・副担任と連携し就職活動に消極的な学生支援強化に取り組む。②就職講座出席向上へ次の取り組みを行う。[1] 早期化を踏まえ前期にインターンシップに伴うプレエントリーシートを書き方を実施する。[2] スキル習得が必須と思われる講座は各教員がより積極的に学生の誘導を行う工夫をする。[3] 担任・副担任へメール、学生へGmail、実習室に掲示、個人面談での出席促し、講座内容見直し等を検討する。③男子及び留学生向け企業開拓と支援の検討及び専門分野に特化した企業開拓の実施。④卒業後の起業支援について検討する。⑤就職講座単位化の可否について検討する。【共】</p> <p>(2) キャリア支援 ①学部はキャリア形成教育科目との連携で、企業見学や企業講師による講話の取り入れを検討する。短期大学部は企業見学実施を継続する。【共】</p>

■検討組織名：就職委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年5月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就職状況および学生の活動状況について（求人受理件数、学内説明会、キャンパスプラン等） 2. その他（委員会活動計画、インターンシップ）
2018年6月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会報告（服装学部：インターンシップ、障害学生サポート 造形学部：委員会活動計画、男子学生の就職、インターンシップ 現代文化学部：就職講座、インターンシップ 短期大学部：委員会活動報告） 2. 就職状況および学生の活動状況について（求人受理件数） 3. その他（文科省厚労省就職状況調査）
2018年7月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会報告（服装学部：「キャリアデザイン展開編」SPI 実施、インターンシップ、キャンパスプラン 造形学部：インターンシップ、夏季就職講座、卒業年次生進路調査 現代文化学部：インターンシップ） 2. 就職状況および学生の活動状況について（委員会活動計画、求人受理件数、2021年入学生採用指針） 3. その他（インターンシップ研修企業）
2018年9月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会報告（「キャリアデザイン展開編」模擬面接・エントリーシート添削 現代文化学部：キャリア形成教育科目単位数、インターンシップ報告会） 2. 就職状況および学生の活動状況について（求人受理件数、進路調査、就職講座、学校基本調査、経団連就職スケジュール廃止） 3. その他（インターンシップ状況・公開報告会）
2018年10月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会報告（服装学部：就職スケジュール・活動ルール、就職講座実施内容 造形学部：インターンシップ報告会、卒業生アンケートフォーマット検討） 2. 就職状況および学生の活動状況について（求人受理件数、学生就職活動状況） 3. その他（インターンシップ実施報告・検討事項、就職スケジュール廃止の影響・方策）
2018年11月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会報告（造形学部：卒業生カード、インターンシップ 現代文化学部：就職講座内容・出席率、インターンシップ 短期大学部：就職講座内容） 2. 就職状況および学生の活動状況についてその他（求人受理件数、進路状況） 3. その他（次年度就職講座内容、インターンシッププレエントリー、学内インターンシップ実施期間、就職・採用活動日程に関する考え方、就職内定状況調査、就職講座卒業生講話）
2019年1月22日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会報告（造形学部：求人のためのご案内内容、インターンシップ、次年度就職講座スケジュール 現代文化学部：インターンシップ 短期大学部：「キャリアデザイン実践編」企業見学） 2. 就職状況および学生の活動状況（求人受理件数、2021年以降就職環境への対応） 3. その他（公欠、インターンシップ期間、春季就職講座スケジュール、自己点検・評価、就活応援TV）
2019年2月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各小委員会報告（服装学部：自己点検・評価、就職講座 造形学部・現代文化学部・短期大学部：自己点検・評価） 2. 就職状況および学生の活動状況（求人受理件数、求人状況） 3. その他（インターンシップ履修取消、学内合同企業セミナー、次年度就職講座スケジュール）

■ 検討組織名：研究委員会

報告者：高村 是州

提出日：2019年4月1日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>旧研究委員会より</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 2. 教員の研究成果の発信に関する課題 <p>旧紀要編集専門委員会より</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究委員会と紀要編集専門委員会の統合に関する課題 2. 投稿者の拡大に関する課題 3. 制作・表現系統の投稿充実にに関する課題 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>旧研究委員会より</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 2018年度から研究委員会と紀要編集専門委員会を統合し、研究組織体制を一本化し研究活動について包括的に検討する機会を得た。 (2) 教員の研究活動に対してより効果的な支援となるような研究室図書費の予算配分・運用について検討し、2020年度より研究促進の予算に転用することを前提とした検討をした。 2. 教員の研究成果の発信に関する課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究成果を広く発信するための方策について検討し、紀要、教員研究作品展の他、2019年度より教員研究のウィンドウ展示を新たに設けることとした。 (2) 2018年6月8日～10日の3日間、「第33回教員研究作品展」を、スペース21（C館20階）とホワイエ（A館20階）で開催した。出展作品数は45点と2017年度（42点）と比較して微増した。来場者数は1,238人と2017年度（1,171人）と比較して増加。服装学部ファッションショー及びオープンキャンパスに合わせて開催したため、高校生の来場者が多かった。 <p>旧紀要編集専門委員会より</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究委員会と紀要編集専門委員会を統合することで、教員研究作品展と連動した新しい紀要のあり方について検討し2020年度より教員研究作品展の作品集と紀要を統合することとした。 2. 投稿数が2017年度の20件（研究論文8、研究ノート10、作品ノート2）から16件（研究論文4、研究ノート10、作品ノート2）へと減少した。今後は投稿者拡大とともに、本学の特色ある研究領域を網羅した紀要となるべく、投稿説明会・査読説明会を行い、告知のみならずガイドラインについて説明する機会を作ることとした。 3. 教員研究作品展の作品集と紀要を統合し、制作・表現系統の投稿充実を目指すこととした。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の研究活動の活性化に関する課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究活動の活性化に向けた研究関連予算のあり方に関する検討 (2) 競争的外部資金の獲得に向けた支援体制のあり方に関する検討 2. 教員の研究成果の発信に関する課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 本学の研究内容や特色を広く示す役割を果たす教員研究作品展及び紀要に関する検討 (2) その他研究成果の発信方法に関する検討 3. 研究倫理に関する検討 <ol style="list-style-type: none"> (1) 紀要の投稿及び学外共同研究等における研究倫理に関する事項の確認について検討する。 (2) 研究倫理委員会との連携を検討する。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：研究委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年5月15日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究委員会の運営についての検討（役員の人選等） 2. 2018年度（第33回）教員研究作品展の準備に係る検討（当日の運営について） 3. 紀要第50集の準備に係る検討（スケジュール等） 4. 学外共同研究1件の審議（2018年5月22日教授会承認）
2018年6月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度研究室図書費に係る審議（配分額の承認）（2018年6月19日教授会承認） 2. 2018年度（第33回）教員研究作品展に係る報告（来場者数、改善点等） 3. 紀要第50集の編集に係る検討（役割分担について） 4. 学外共同研究1件の審議（2018年6月19日教授会承認） 5. 研究を活性化するための具体的な方策についての検討（研究内容に発信について）
2018年8月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度（第34回）教員研究作品展に向けた検討（開催時期、ポスターについて） 2. 今後の研究室図書費の予算配分及び運用についての検討 3. 紀要第50集の編集に係る検討（投稿数の確認等） 4. 研究を活性化するための具体的な方策についての検討（教員研究作品展図録等について） 5. 学外共同研究1件、受託研究1件のメール審議結果についての報告（2018年7月10日教授会承認）
2018年10月2日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度研究室図書費（重点配分）に係る報告（申請状況） 2. 今後の研究室図書費の予算配分及び運用についての検討 3. 紀要第50集の編集に係る検討（投稿状況等について） 4. 受託研究1件の審議（2018年10月9日教授会承認） 5. 研究を活性化するための具体的な方策についての検討（ウインドウ展示等について）
2018年12月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度（第34回）教員研究作品展の準備に係る検討（日程、場所等の決定） 2. 今後の研究室図書費の予算配分及び運用についての検討 3. 紀要第50集の編集に係る検討（査読について、印刷業者の選定について等） 4. 「研究委員会規程(改定案)」について審議（2019年2月5日教授会承認） 5. 研究を活性化するための具体的な方策についての検討（2020年度の紀要について等）
2019年2月20日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度（第34回）教員研究作品展の準備に係る検討（DM等のデザインの決定） 2. 今後の研究室図書費の予算配分及び運用についての検討 3. 紀要第50集の編集に係る検討（査読者からの意見についての検討） 4. 学外共同研究の1件のメール審議結果についての報告（2019年2月5日教授会承認） 5. 研究を活性化するための具体的な方策についての検討（ウインドウ展示及び2020年度の紀要について）

■ 検討組織名：研究倫理委員会

報告者：野口 京子

提出日：2019年3月31日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 2017年度に準備した研究倫理と研究データの保存等に関する情報を含んだリーフレットを、教員、大学院生、学部学生（卒業研究作成者）に配付し、研究倫理教育をさらに徹底していく。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 研究倫理啓発のために講演会を開き、また授業や指導の機会を用い、研究倫理に関するガイドラインの周知に努めた。 2. 学術研究・論文の事前研究倫理審査にあたり、迅速審査申請であっても、課題によって、各視点から慎重に審査した。 2018年度の倫理申請審査件数：教員14（迅速）件、学生10（倫理審査1、迅速審査9）件 計24件 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 継続して研究倫理啓発を進めていく 2. 学術研究・論文の研究計画の段階で倫理審査の必要性を検討することを推奨する。 【共】</p>

開催年月日	講演会の開催記録
<p>2018年7月10日</p>	<p>研究倫理啓発のための講演会「研究倫理研修」を開催した テーマ：研究倫理教育について 講演者：事務局長 出席者：助手を含む全教員 講演時間：約1時間</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2018年6月12日</p>	<p>1. 研究倫理の審査 3件の申請について審査し、1件を迅速審査として承認、1件は再度詳細な内容を記載した申請書の提出を求め、1件は本学内で行う必要性について疑義があったため不可とした。</p>
<p>2019年3月6日</p>	<p>1. 研究倫理審査の実地報告 大学院生への研究倫理審査を受けるよう周知させた結果、研究倫理への意識が向上している。 2. 本委員会では、文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要投稿規程において、必要な場合は、研究倫理審査を受けることを追記する旨、要望する。 3. 学外共同研究における研究倫理審査は、申請時に研究倫理審査を受けているかを確認できるよう研究委員会に申し入れる。 一承認一</p>

■検討組織名：研究活動不正使用防止委員会

報告者：野口 京子

提出日：2019年3月31日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 継続して研究活動不正防止に係る各規程に基づき、不正防止対策の実行に努める。 2. 文部科学省の通達等を踏まえて、より実効性のある不正防止対策を検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 各規程に基づき、以下の研究活動不正防止のための教育を実施した。 (1) 大学院生を対象にした研究倫理教育 (2) 教員を対象にしたコンプライアンス研修会 (3) 教員を対象にした研究倫理研修会 研究活動不正防止のための教育、内部監査、誓約書の徴取などの実施状況を確認し、結果として特に問題はなかった旨を確認した。 2. 文部科学省の通達を踏まえて、以下の取組みを行った。 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課研究公正推進室から送付された「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインに基づく取組の徹底について」を踏まえて作成された「研究倫理リーフレット」及び「研究データの保存等に関する内規」を学生に配付した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 2019年度も引き続き不正防止対策を実施していく。 2. 各研究機関で実施する公正な研究活動の推進に関する取組への文部科学省等の支援について (周知) 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2018年4月8日</p>	<p>大学院生を対象とした研究倫理教育において以下を説明 1. 研究活動と研究を取り巻く背景 2. 誠実な研究を行うための諸規程 3. 不正行為とは 4. 実験ノート、調査ノートの取り方</p>
<p>2018年6月19日</p>	<p>コンプライアンス研修会において以下を周知 1. 研究費不正防止について</p>
<p>2018年7月10日</p>	<p>研究倫理研修会において以下を周知 1. 研究倫理とは 2. 研究不正行為とは 3. 不正行為の防止について 4. 研究倫理に関する本学の規程</p>
<p>2019年3月6日</p>	<p>研究活動不正防止委員会を開催して 1. 不正行為への取組みの徹底 2. 2018年度の不正防止実施状況 3. 備品実査においては、設置場所で申請(担当)者が案内する等、確認に時間を要する。実査が円滑に行えるよう備品発注を行う際は、品番のみでなく、カタログ等の画像の添付にご協力願う。</p>

■ 検討組織名：公開講座実行委員会

報告者：安高 信一

提出日：2019年4月1日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討【共】 生涯教育の場としての若い世代を含めた幅広い世代の受講者の参加を促すような特別公開講座のあり方に関する検討【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討 特別公開講座の果たすべき役割に鑑み、テーマの設定及び講演者を決定し、2019年2月27日に2018年度特別公開講座「万葉びとの染織文化 -【万葉集】にみる古代人の知恵と、日々の哀歓-（講師：本学造形学部長・堀尾眞紀子教授）」を開催した。 渋谷区とのS-SAP協定により、渋谷区の広報の協力も得て、大学の知の解放をアピールすることができた。【共】 生涯教育の場としての若い世代を含めた幅広い世代の受講者の参加を促すような特別公開講座のあり方に関する検討 2018年度の公開講座の参加者は400人と2017年度（200人）と比較して倍増となった。参加者へのアンケートの結果から、記入者全体の約92%が講座の内容を「満足」「やや満足」と評価していたことから、講座への満足度は高かったことが伺える。また約44%の参加者が「初めて参加した」と回答しており、新規の参加者の獲得には大きな成果が見られ、講座参加者の倍増に繋がったものと考えられる。しかし記入者全体の約86%が50代以上であり、若い世代の参加を促すことには課題が残った。【共】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「地域・社会への大学の知の開放」「大学の地域・社会貢献」の役割を果たすべき特別公開講座のあり方に関する検討【共】 一般の方々への教養の増進と専門知識の修得に資する場としての受講者の参加を促すような特別公開講座のあり方に関する検討【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2018年6月20日	<ol style="list-style-type: none"> 2018年度文化学園大学特別公開講座のテーマ及び開催形式について協議 特別公開講座の講演者について選出方法の検討 事前及び当日の各委員の役割分担について協議
2018年7月4日	<ol style="list-style-type: none"> 2018年度文化学園大学特別公開講座の講演候補者選出について検討
2018年7月9日	<ol style="list-style-type: none"> 特別公開講座の公演候補者について協議、決定
2018年12月4日	<ol style="list-style-type: none"> 公開講座実行委員会の各委員の役割分担内容の確認 特別公開講座の広報方法について協議
2019年1月16日	<ol style="list-style-type: none"> 各役割担当による進捗状況報告 特別公開講座の広報について協議 公開講座当日のスケジュールの協議、決定
2019年1月30日	<ol style="list-style-type: none"> 各役割担当による進捗状況報告 公開講座当日までの準備内容の確認
2019年2月27日	<ol style="list-style-type: none"> 次回に向けた各役割担当による検討事項の報告 各役割担当に今回の報告書、記録作成の依頼

■検討組織名：ハラスメント防止委員会

報告者：永野 順子

提出日：2019年3月31日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 2017年度同様 10年以上が経過した取扱事案の記録の廃棄を実施し、併せて今後の委員会のありかたについて検討を行う。 2. 2018年度相談員研修のありかたについて検討する。 3. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓発をはかり、併せてその方法についても検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p><取組の結果> 1. 本委員会の取扱事案で10年を経過した資料等の書類(2008年の取り扱い事案)を「申し送り事項」に示された方針通り廃棄することとした。 2. 後期の授業開始直前に「ハラスメント相談員研修会」を開催した。全相談員が出席し、有意義な質疑応答がなされた。 3. 前期の授業開始直前に開催される全学FD・SD研修会にて、事務局長より全教職員へハラスメント防止への一層の意識の向上とハラスメント防止委員会の活動への理解を求めた。また、新任の非常勤講師の教員には本学のハラスメント防止に対応するガイドラインの送付とともにハラスメント防止への協力を依頼した。 4. 2018年度に本委員会が受けたハラスメント事案は0件であった。 <点検評価> 2018年度に課題として設定した事項はおおむね達成することができた。特に「ハラスメント相談員研修会」は4年ぶりの開催となり、初めて全相談員の出席が実現できた。また、2018年度の取扱案件が0件であったことは、委員会のこれまでの意識啓発の成果であったと考える。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. メンバー交替を受けて、今後の委員会のありかたについて検討する。 2. 「申し送り事項」に示された方針に従って、10年以上が経過した取扱事案の記録の廃棄を実施する。 3. 「学生生活調査」の実施年に当たり、学生アンケートの内容を精査する。 4. 教職員全体に対し、ハラスメント防止への意識啓発をはかり、併せてその方法についても検討する。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月3日	全学FD・SD研修会において、事務局長より「ハラスメント防止関連」の注意喚起を行った。
2018年4月5日	リーフレット「NO Harassment!」の配付 1. 全新生にリーフレットを配付 2. 新任の全非常勤講師にリーフレットとともにハラスメント防止への協力要請文を送付
2018年7月31日	1. 2008年度取扱事案の書類廃棄について 2. ハラスメント防止委員会の学園組織の一本化について 3. 2018年度「ハラスメント相談員研修会」について
2018年9月5日	「ハラスメント相談員研修会」全相談員が出席 1. 本学のハラスメント防止への取組み方 2. 相談員窓口の対応について

■ 検討組織名：障害学生支援委員会

報告者：野口 京子

提出日：2019年3月31日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 継続して規程に基づき、障害学生の支援に努める。 2. 文部科学省の通達等を踏まえて、より実効性のある障害学生支援の在り方を検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と点検・評価</p>	<p>1. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部での支援の目的と意義を認識するために、本学において、要支援者の修学のための本質的、具体的な支援を充実させるとともに、障害のある学生の自立と障害のない学生の成長を促すことに努めた。 2. 支援環境作りのために、教職員による要支援者の指導を充実させ、また、学生による支援も整えた。(ピアヘルパー資格者の増員、周知等) 3. 学生支援室を整備していく予定であったが、管轄部署との調整がつかず、未整備となった。 4. 要支援学生の説明会(担任、科目担当者 他)を行い、要支援学生との面談(該当学生、学生支援課、健康管理室)を行った。 5. 開設した障害学生のためのクールダウン室の利用状態を確認した。 6. 特別支援申請書と授業・試験等における特別措置申請書を作成・使用した。 【共】</p>
<p>次年度への課題 (2019年度)</p>	<p>1. 継続して支援活動を進めていく。 2. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部障害学生支援委員会と文化学園障害学生支援委員会との目的、活動内容などのすみわけをはっきりさせるか、あるいは位置づけの再確認を諮る。 3. 障害学生支援の評価を行う。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2018年6月5日	<p>1. 障害者基本法に基づき、合理的配慮規程などが施行され、私立の大学等では努力義務となったことを踏まえて本学の活動を確認した。 2. 2018年度の支援該当者と、支援の内容を確認した。</p>
2019年3月15日	<p>1. 2018年度の活動について委員から報告があった。 2. 該当学生の状況について報告した。 3. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部障害学生支援委員会と文化学園障害学生支援委員会との活動形態の重複について議論した。</p>

■検討組織名：文化・語学研修専門委員会

報告者：加藤 薫

提出日：2019年4月1日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム（国内）」に関して、2018年度の参加状況に鑑み、研修内容の変更等を行うかどうか、本年度の大きな課題として結論を出す。</p> <p>2. 海外留学 (1) 留学に関しては、学生の意欲を喚起しつつ、昨年度設定された GPA 上のボーダーラインをもとに適切な審査を行う。</p> <p>(2) 「誓約書」の書式については現状に則したものとなるよう検討を継続する。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム（国内）」については、2018年度もあり方の変更を検討したものの、大幅な変更を決断するには至らなかった。</p> <p>2. 海外留学 (1) 学生の意欲を喚起しつつ、一方で、適切な指導、審査を行うことができた。</p> <p>(2) 「誓約書」の見直しを踏まえつつ、学生への指導をよりきめ細かく行うことができた。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 文化・語学研修 「文化・語学体験プログラム（国内）」に関して、2019年度の参加状況をにらみつつ、研修内容の変更を行うかどうかを2019年度の大きな検討課題とする。</p> <p>2. 海外留学 (1) 留学に関しては、学生の意欲を喚起しつつ、適切な指導と審査を行う。</p> <p>(2) 「誓約書」の書式については2018年度も見直しを行ったが、さらに見直すべきところがないか検討する。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2018年7月23日	文化学園大学留学規程を使ったアメリカへの留学(2017年3月～2018年3月)に関して審議を行った。提出書類等に不備があったため、結論は次回に持ち越された。
2018年7月31日	文化学園大学留学規程を使ったアメリカへの留学(2017年3月～2018年3月)に関して再度審議を行った。当該学生に指導を行い、書類を提出させた上で審議することとした。
2018年9月18日	上記アメリカへの留学が審議され、留学期間が修業年限の一部として認められることになった(認定単位はゼロ単位)。 文化学園大学留学規程を使ったアメリカへの留学(2017年9月～2018年9月)に関して審議を行い、単位認定を行った。 文化学園大学留学規程を使ったアメリカへの留学(2018年3月～2018年8月)に関して審議を行い、単位認定を行った。
2018年11月20日	文化学園大学留学規程を使ったカナダへの留学の申し出に関して審議を行い、条件付きで承認した(条件：志望理由書の書き直し)。 (2018年12月13日教授会承認)

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. テキスタイルアドバイザー(以下TA)実習について (1)「TA実習」の授業内容を充実させ、実習に反映させていく。 (2)実習時期を3年次に移行することを念頭におき、実習先機関との対応を含めて実習時期の検討を行う。</p> <p>2. カリキュラムについて (1)「消費科学」の担当教員が2018年度で退職となるため、認定教員の選定が必要である。</p> <p>3. 資格取得者減について (1)衣料管理士のあり方や教育課程のあり方を再確認し、学生の要望を敏感に捉え、社会のニーズに応じた資格のトータルのプロデュース及びプロモーションを行う。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. TA実習について (1)①繊維の基礎知識、繊維製品の試験法の解説、新取扱い絵表示の講義を行い、専門知識の充実を図った。②「TAの能力を社会でどのように生かすか」と題し、2週にわたり、全国クリーニング生活衛生同業組合連合会、(一財)ニッセンケン品質評価センター、(一社)オンワードクオリティセンターの外部講師による講義とディスカッションを行った。現場での生の話を聞くことで、TAの必要性を実感することが出来た。③実習先や実習内容を調べ、事前準備を行った。実習先の学生評価は、専門知識の評価が若干低い所もあったが、実習態度や心構えなどが高い評価を得たことは、事前教育の成果であると考え。今後も実習先や学生の意見を参考にし、授業内容については随時検討していく。</p> <p>(2) 実習時期を3年次にほぼ移行することができた。2018年度の実習は、夏季(8、9月)及び春季(2、3月)において、17の機関にて46人(3年次生：44人、4年次生：2人)の学生が実習を行った。3年次に変更したことで、就職への取り組み方を考えさせることが出来た。課題として、春季は、補講、後期期末試験、学内集中授業、就職活動等と重なるため、実習期間の調整が必要である。</p> <p>2. カリキュラムについて (1)「消費科学」の新規担当者は、日本衣料管理協会から認定を受けた教員の確保ができた。</p> <p>3. 資格取得者減について (1) 現在、旧カリキュラムが進行中であり、コースによっては資格取得が難しいカリキュラムになっていること、衣料管理士と社会との関わり方について十分な理解が得られていないことが要因であると考え。今後は新カリキュラムに移行することで解消できると考えている。さらに、日本衣料管理協会の「TA交流プロジェクト」を利用して、衣料管理士を目指す学生に対して、TAの魅力を伝え、認知度を高め、繊維・ファッション業界への就職に繋がるような対策を講じていく。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. TA実習について (1)実習学年を3年次にすることで、春季は、補講、後期期末試験、学内集中授業、就職活動等と重なるため、実習先機関との対応を含めて、実習期間の調整が必要である。</p> <p>2. カリキュラムについて (1)新カリキュラムが進行中であり、指定科目や時間割の確認及び見直しが必要である。 (2)「ケーススタディ」の担当教員が2019年度で退職となるため、認定教員の選定が必要である。</p> <p>3. 資格取得者減について (1)社会のニーズに応じた資格の重要性を、理解させるための教育を行う。 【大】</p>

■検討組織名：衣料管理士課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月5日	1. 2018年度衣料管理士課程専門委員、役割分担について 2. 自己点検・評価報告書の提出について 3. オリエンテーション「衣料管理士資格に関するガイダンス」について 4. 「TA実習」授業内容の確認・外部講師の検討
2018年4月19日	1. TA資格取得希望の3年生について 2. 実習事前教育の依頼講師検討
2018年6月4日	1. 2018年度正会員申請書について 2. 実習事前教育の内容検討 3. 実習予定学生の「TA実習先割り振り前の面談」の検討 4. TA関連科目の2019年度以降担当教員検討
2018年7月9日	1. TA実習先の学生割り振り
2018年7月16日	1. 学生の実習先の確認 2. 実習先への教員挨拶担当決め
2018年9月14日	1. TA実習先挨拶者からの報告(2019年度の実習時期、実習人数等) 2. 実習報告会欠席者への対応の検討 3. 「TA実習」評価表について 4. TA関連科目の2019年度以降担当教員について 5. 「TA実習」成績評価について
2018年9月21日	1. 「TA実習」成績評価について
2018年12月13日	1. 日本衣料管理協会「TA交流プロジェクト」について 2. 日本衣料管理協会会長賞の選出 3. 日本衣料管理協会依頼の衣料調査アンケートの実施について 4. 2～3月のTA実習について 5. 2019年度TA認定科目のシラバス執筆内容について 6. TA認定科目の次年度担当教員の変更について 7. 資格認定証交付等手続きについて 8. 日本衣料管理協会認定事前審査申請について
2019年2月12日	1. 2019年度「TA実習」シラバスの確認 2. 2018年度資格取得者数について 3. カリキュラムについて 4. 科目担当教員審査について 5. 2018年度「TA実習」成績入力について 6. 2019年度4月オリエンテーション期間中のガイダンスについて
2019年3月11日	1. 「TA実習」成績評価について 2. 自己点検・評価について

開催年月日	学生指導等の記録
2018年4月6日	ファッションクリエイション学科1、2年生対象 資格取得のためのガイダンス
2018年4月7日	ファッションクリエイション学科3年生対象 資格取得のためのガイダンス
2018年4月10日	服装造形学科4年生対象 資格取得のためのガイダンス
2018年6月18日	実習予定学生の「TA実習先割り振り前の面談」の実施
2018年6月25日	(2回に分けて実施)
2018年9月14日	実習事後報告会(13:00～17:00)
2018年11月29日	資格認定証交付等の手続きに関する説明会
2018年12月4日	(同一内容で2回実施)
2018年12月14日	3年生対象 衣料の使用実態調査(日本衣料管理協会より依頼)の説明会
2019年1月30日	衣料の使用実態調査の回収、点検
2019年1月17日	2月・3月実習生(3年生)のための事前教育(12:20～13:00)
2019年1月18日	(同一内容で2回実施)

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在学生の資格取得支援対応策の継続【大】 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続とPDCAサイクルの構築【大】 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請(2016年度入学生対象)【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在学生の資格取得支援対応策の継続 2018年度から福祉住環境コーディネーターの資格取得対策講座を課外授業からコラボレーション科目へ変更し、コラボレーション科目4講座(「インテリアプランナー設計製図試験対策講座」、「マンションリフォームマネジャー資格講座」、「キッチンスペシャリスト資格講座」、「福祉住環境コーディネーター資格講座」)、課外授業2講座(「インテリアコーディネーター資格試験対策講座2018」、「商業施設士受験対策講座」)とした。一部の講座(キッチンスペシャリストおよび商業施設士)は受講希望者数が少なかったため開講できなかったが、2019年度以降は受験可能な学生数が増加することから、2019年度も同様にコラボレーション科目4講座、課外授業2講座を開講し、受講希望者数の状況によって2019年度の開講講座を検討することとした。 また二級建築士のアカデミック講座については、学生への過度な勧誘がないよう受講学生の状況を把握し、2019年度以降の実施方法について検討することとした。【大】 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続とPDCAサイクルの構築 例年通り、在学生についてはオリエンテーション時に、卒業年次生については3月卒業時に、建築・インテリア系資格の受験及び資格取得状況について調査した。また卒業生の建築士資格取得について、2018年4月に発行される紫友会報(同窓会誌)に案内を同封した。調査結果の集計にあたっては教員のデータ入力などの負担もあるため、実施方法の見直しや調査データの活用などについて、2019年度の継続課題とする。【大】 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請 2019年度への継続課題とする。【大】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在学生の資格取得支援対応策の継続【大】 2. 卒業生・在学生の受験及び資格取得調査の継続とPDCAサイクルの構築【大】 3. 建築・インテリア学科のコース編成及びカリキュラムの変更に伴う「商業施設士」のカリキュラム認定申請(2016年度入学生対象)【大】 4. 建築士試験の指定科目の確認申請(更新申請) 建築士試験指定科目の一部に授業内容の変更希望があり、2019年度は他の科目も含めて指定科目を見直し、更新申請をする。【大】

■検討組織名：建築・インテリア系資格専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年6月5日	1. 二級建築士のアカデミック講座の実施について、実施団体より講座の改善提案があり、その内容を検討したうえで、2018年度も例年通り説明会を開催することとした。
2018年12月18日	1. 二級建築士アカデミック講座主催者が受講者に対して本講座への移行を勧めていることがわかったため、委員会から学生へ注意喚起するとともに、主催者へ現状の改善を申し入れ、その対応によっては2019年度の講座実施を検討することとした。
2019年1月22日	1. 2019年度資格支援対策講座（コラボレーション授業含む）について、現状の講座について確認した。 2. 一級建築士の受験資格の変更（実務経験無しで受験可）に伴い、実施団体より学科及び学生へ向けたアンケートの依頼があった。学生へのアンケートは実施にあたり制度変更の説明と理解が必要なことから実施せず、学科アンケートのみ回答する。
2019年3月5日	1. 卒業生及び在学生へ資格取得状況調査を実施することを学科会議において担任・副担任に依頼した。

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新指針への対応を引き続き行う。 2. 課程履修者が3年次後期に履修を取り消す例が見られる。それぞれの学科における資格取得や課題などが原因のようである。対策を検討する。 3. 2016年度より服装学部・造形学部の学生も当該資格課程を履修可能としたが、希望者が少ないため、対応策を検討する。 4. 「日本語教育実習」の実施が難しくなっていることから実習方法を検討する。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新指針への対応を引き続き行う。 新指針では、大学が発行する証明書に新基準及び解釈基準が示す日本語教員の要件を満たしていることを確認できることが必要であるとされている。本年度は修了証に添付する書類案を作成した。来年度の発行を目指す。 2. 課程履修者の3年次後期での履修取消状況の分析と対策の検討。 これまでの取消者の状況を見ると、留学生や、学外活動に積極的な学生であるため、専門性が高くなる本課程の3年次履修内容が、それぞれの専門の学びに加わることにより、支障や負担を感じるなどが原因のようであった。今年度の3年次履修生6人は全員日本人学生であることもあり、それぞれの学科での課題をこなしながら当該課程の履修も続ける余裕があったようである。また留学帰国者もいるが、その学生は留学前の単位取得が好調であり、この課程の履修継続に負担が少ないようであった。履修者数の少ない課程であるため、今後は個別に履修者の状況を見極め、必要ならカウンセリングを行い、課題内容を工夫するなどして、負担意識を軽減する必要があるだろう。 3. 服装学部・造形学部の学生の希望者増に向けての対策の検討。 新入生オリエンテーションにおいて、上記2学部への本課程のオリエンテーション日時を伝えて頂く対応を行った。上級生になるとその学部の科目と重なって、履修できない例が起きる可能性もあるが、その場合は個別に柔軟な対応が必要となる。ただし、2020年度より本課程の募集停止が決まったこともあり、積極的な拡大策は講じない。 4. 「日本語教育実習」の実施が難しくなっていることから実習方法を検討する。 数年前まで実習先の一つとして学園内の文化外国語専門学校をお願いをしていたが、諸般の事情により協力をお願いできなくなっているため、実習学生の事情に合わせたさまざまな実習先の検討が不可欠となっている。今年度の実習生は日本人2人、留学生1人。今年度は、「日本語教授法Ⅱ」の授業にて全養協日本語教師採用合同説明会を見学した際に実習先を開拓し、日本人学生を受け入れていただいた。その学校では約4週間にわたって不定期に通い、正味1週間ほどの実習を行った。留学生1人は担当教員の指導の元、母国語を生かし、学内にて武漢紡織大学からの学生のクラスでTA活動、見学、教壇実習を行った。7月31日での実習成果発表会ではそれぞれが充実した発表を行い、実習後提出されたレポートからも豊かな成果が認められた。実習後の聞き取りからも3人の実習に対する満足度が高いことが窺われた。来年度は実習生数が今年の2倍であるため、今年度の実習先に加えて別の学校、または実習方法の検討が必要となる。 【大】
<p>次年度への課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新指針への対応を引き続き行う。 2. 2019年度の履修者に対する各学生の状況に応じた実習方法を選定する。 【大】

■検討組織名：日本語教員養成課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月12日	1. 2018年度教育実習校の選定。(2018年6月19日教授会報告・2018年7月9日教授会公欠承認)
2018年7月31日	1. 4年次実習生による日本語教育実習報告発表会。
2018年12月4日	1. 2020年度入学生より本課程を閉じるという学部長会議の報告を受け、委員会として審議の上、承認。(2019年2月5日教授会報告)
2019年3月2日	1. 2018年度修了生の修了認定についての承認。(2019年3月4日教授会報告)

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討。 2. 教職課程取消者数を減少させるための検討。 3. 教育実習校成績評価向上にむけた事前教育のあり方等包括的検討。 4. 文化学園大学・教職研究会との有機的連携等、充実と具体策の検討。 5. 教員採用試験対策講座の継続と充実。 6. 教育実習履修学生の教育実習辞退への対応。 【大】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力、教職志望度に学生間の違いがあるため、個別指導の必要性に大きな変化はないが、教員間の情報共有を行い、入学時から卒業まで継続的に学生の動向を観察し、適宜指導することが必要であると共に、教職課程履修カルテと教職課程履修ノートの活用が大切である。 2. 教職課程の履修意志の曖昧さ、教職への魅力の減退、進路変更等の理由により、学年が上がるにつれて履修者数の減少傾向への対策が引続き必要である。とくに2年次進級時点での減少傾向が顕著で、1年次へのよりの確な個別対応と指導が必要とされる。新入生オリエンテーション教職課程ガイダンス及び前期授業において「教職履修の意義・魅力」を重点的に展開した結果、減少傾向に改善がみられたが、2018年度の1年次課程取消者数は4割であった。 3. 2013年度からの追跡調査より、教育実習校における項目評価の「学習指導、資質・能力」については、履修審査対象科目の専門教育科目評価との相関性が認められたことをうけ、教育実習生の実習校からの評価、要望を周知することを目的に、教職必修科目(総合教養科目・外国語科目・専門教育科目・教職に関する専門教育科目)の全担当者に継続して教育実習報告書を配付した。また、事前教育については、外部講師と実習校との綿密な連携により充実を図った。 4. 文化学園大学・教職研究会は2018年度で6回目の開催となった。今回は本学卒業生の美術教諭、家庭教諭に教職課程履修学生が参加しての合同のグループ討議を実施した。また、文化学園大学・教職研究会の参加教諭(家庭)が、「教育実習集中事前教育」の外部講師として教科指導についての講義を担当した。研究会としての内容も含め、教職実践の観点からもさらに交流の機会を増やしたい。 5. 2016年度から引き続き教員採用試験受験学生への支援として実施した。受講学生は教員志望の学生のみだが教員採用試験受験者増加に繋がっている。さらなる教員志望学生数の増加と内容の充実を図りたい。 6. 3年次5月の「教育実習履修審査」以降の指導の徹底が必要である。教職に就く意思確認の重要性からも教員採用試験出願を履修条件とすることも検討したい。 【大】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質的变化に伴う指導方法の検討。 2. 教職課程取消者数を減少させるための検討。 3. 教育実習校成績評価向上にむけた事前教育のあり方等包括的検討。 4. 文化学園大学・教職研究会との有機的連携等、充実と具体策の検討。 5. 教員採用試験対策講座の継続と充実。 6. 教育実習履修学生の教育実習辞退への対応。 【大】

■検討組織名：教職課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月2日	1. 2017年度自己点検・評価報告 2. 2018年度介護等体験事前教育日程 3. 2018年度教育実習履修審査条件付き合格学生の確認 4. 2018年度教育実習辞退学生の対応について 5. 再課程認定申請の進捗状況について
2018年5月8日	1. 2019年度教育実習履修審査 2. 2019年度介護等体験について 3. 2019年度教育実習について 4. 教職に関する専門科目の履修について 5. 教員採用試験対策講座について
2018年12月4日	1. 2018年度「教育実習」単位認定審査 2. 2019年度教育実習集中事前教育日程 3. 第6回文化学園大学・教職研究会について 4. 2018年度介護等体験中間報告
2019年2月26日	1. 2019年度教育実習関連報告 2. 2018年度自己点検・評価報告案について 3. 2018年度介護等体験報告 4. 保育学（保育実習）について 5. 教員採用試験対策講座について 6. 再課程認定申請について

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 新カリキュラムの授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 新カリキュラムの授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 (1) 2018年度は新カリキュラム移行7年目で、引き続き授業内容の魅力向上に取り組んだ。 「児童サービス論」では現職図書館員による実演を継続して行った。「図書館概論」では受講生による『私の読書体験記』を作成し受講生に配付した。一部科目では授業時にミニッツペーパーの提出を求め、授業理解度の把握や疑問点のフィードバック等に努め、好評だった。 (2) 司書課程履修者増への取組み 司書課程履修者が履修しやすくするため、4年生の選択科目4科目中の土曜日に開講していた2科目を2016年度から金曜日に変更しているが、受講生の減少のため2018年度も成立しなかった。残りの2科目は、2018年度も集中講義で実施した。 2018年度初めの司書課程の履修登録者は、1年生16人、2年生22人、3年生5人、4年生2人、計45人で、昨年に比べ2人増えた。 (3) 司書課程受講生のアンケート調査の実施 昨年に引き続き、1年生向け科目「図書館概論」受講生に司書課程を受講する動機等の把握のため調査を行い、12人から回答を得た。主な回答は以下の通り。 ①司書課程の履修理由 資格を取得したい 12人(100%)。 ②他に履修中・取得希望の資格 学芸員7人(58%)、教職1人(8%)など。 ③司書資格を取得する理由 何か資格を持っていたい、図書館で働きたい、就職に有利と思う3つがいずれも4人(33%)。 ④資格取得を考えた時期 1年生時6人(50%)、入学前4人(33%)、など。 ⑤将来の職業との関係 少しでも生かせる職場で働きたい8人(67%)、司書資格との関連にはこだわらない4人(33%)、という結果だった。 司書課程を履修する目的は司書資格の取得であり、学芸員課程の履修を望む学生が前回と同様に多い。しかし、資格取得を考えた時期が前回は大学入学前が多かったが、今回は入学後という学生が最も多くなった。調査で把握した受講生の意向を反映できるよう取り組む。 (4) 司書課程科目を卒業単位とすること 司書課程科目を卒業単位として扱う事を学芸員課程専門委員会と協力して取り組み、服装学部と造形学部では2019年度新入生から両学部の自由選択科目の枠内で認める事になったのは学生の励みとなる。現代文化学部は自由選択科目の枠組みが無いため、引き続き検討する。 (5) 2018年度卒業生の司書資格取得状況 卒業生で司書資格を取得した学生は1人と最小人数に留まった(現代文化学部1人)。 2. 就職希望者への支援 4年生の履修者向けに司書職員採用情報の提供に努めた。引続き、アルバイト等を含めて情報を提供する。2019年度から図書館で3年生の司書課程受講生を対象に夜間アルバイトを募集することになり、採用に協力した。 【大】</p>
<p>次年度への課題 (2019年度)</p>	<p>1. 新カリキュラムの授業内容が一層魅力的となるよう取り組む。 2. 図書館への就職希望者を支援し、相談に応じる。 【大】</p>

■検討組織名：司書課程専門委員会

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月4日	1. 司書課程ガイダンスの内容・方法・配付資料の確認について
2018年4月6日 ～4月7日	司書課程ガイダンス
2018年6月16日	1. 2018年度司書課程授業の開講状況について 2. 2018年度司書課程の教員体制と研究室体制について 3. 2019年度以降の司書課程教員体制について 4. 2018年度司書課程履修者について
2018年7月26日	1. 司書課程の科目を卒業単位に含める件について
2018年10月2日	1. 司書課程授業の開講状況（前期・後期）について 2. 資格関連科目の一部を卒業単位に含める件について
2018年11月21日	1. 2019年度時間割（案）について 2. 資格関連科目の一部を卒業単位に含める件について
2018年12月19日	1. 2019年度時間割（案）について 2. 2019年度のA館11階PC実習室の利用について
2019年2月19日	1. 2019年度時間割（案）について 2. 2018年度卒業生の司書資格取得状況 3. 図書館概論受講生のアンケート結果について 4. 2018年度司書課程専門委員会の自己点検・評価報告について 5. 2019年度司書課程ガイダンスの内容・方法・配付資料について（4月6日、8日実施）

■ 検討組織名：学芸員課程専門委員会

報告者：佐藤 正明

提出日：2019年3月31日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 2017年度の学芸員課程学生減少に関わる対応策として、課程科目履修に関連する位置付けの継続検討。 2. 卒業要件単位科目と課程必修科目の考え方について検討。 【大】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 2012年の博物館法改正後の学芸員課程のあり方について、今年度までに行った調査を踏まえ、教務委員会に課程単位を卒業要件とする事案をまとめて提出することができ、2019年度より一部の学部を除き、大学として卒業要件単位として認めることを決定した。この事案を検討してきた趣旨は、博物館法改正後の履修者の減少が顕著であり、課程の履修単位が卒業単位にカウントされないことや、課程科目増による学生の負担増など、学生の資格選択の幅が狭まることなどを解消するために時間をかけて調査を行い、慎重に検討を進めてきたことが一つの成果として、学生の修学支援につながることが可能となった。 2. 卒業要件単位科目と課程必修科目の考え方についての検討のため、課程を設置している全国の主要な大学の仕組みについて調査を実施したところ、学部、学科により一部の制限を設けているところも見受けられたが、多くの大学において卒業要件単位として認めている大学が見られた。今回の事案について多くの賛同が得られた理由の一つに、同様の問題意識を持っていた図書館司書課程の協力が得られ、専門以外の課程学習の可能性が広がり学生のメリットにつながったと考えている。 【大】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 2018年度の学芸員課程学生減少に関わる対応策として、課程科目履修に関連する履修方法の改善が見られたが、専門のカリキュラム構成との調整が間に合わなかった学部について継続検討して行く。 2. 館園実習の効果的な新たな形について、検討を進めていく。 【大】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月2日	1. 卒業要件単位の変更につき学部共通科目協議会に提案し、今後他校などの様子の調査・検討を進めることを確認。
2018年4月17日	1. 継続、課程科目の卒業要件算入の検討。 2. 館園実習の検討。5月から9月までの長期間、博物館の老朽化に伴う空調設備の改修のため従来とは異なる実習内容の検討。
2018年7月10日	1. 課程科目の卒業要件算入のための具体案を策定。 2. 学部共通科目協議会に提案。
2018年7月7日	1. 卒業要件算入に関する教務部の意見を検討。
2018年9月4日	1. 学部共通科目協議会において議案審議。 2. 課程科目の卒業要件算入の提案について、学部のカリキュラムとの関わりで、他学部と同様にすぐには移行できない学部の問題について検討。
2018年10月2日	1. 課程科目の卒業要件算入について、服装学部と造形学部において実施することが承認された事を報告。今回成案とならなかった学部については、引き続き検討を依頼。

■検討組織名：国際交流委員会

報告者：青柳 宏

提出日：2019年3月31日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。 3. リスクマネジメントに関するマニュアルを検討する。 【共】</p>
<p>取組の結果と点検・評価</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 (1) フランスの国立高等装飾美術学校（以下「ENSAD」と、中国の浙江理工大学とのダブルディグリーについて 2018年度も標記の学校よりダブルディグリーの大学院生4人（ENSAD 2人、浙江理工大学2人）を受け入れた。また、本学からはENSADへ2018年9月に2人派遣した。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。 (1) 2019年度特別留学プログラムについて アーツ・ユニバーシティ・ボーンマス（以下「AUB」）への留学希望者5人、及びニューヨーク州立ファッション工科大学（以下「FIT」）への留学希望者1人（AUBとの併願）について1次面接、最終面接の結果、AUB希望の4人の留学を許可した。今後も参加学生増加に向け、経済的な問題で参加することが困難な学生への支援も併せて検討していく。 3. リスクマネジメントに関するマニュアルを検討する。 2018年度の特別留学プログラムへ参加する学生から対応できるように、「特別留学プログラム リスクマネジメントマニュアル」を作成し、緊急連絡先などの情報共有が出来るようにした。 【共】</p>
<p>次年度への課題 (2019年度)</p>	<p>1. 海外提携校との交流についての具体的な検討をさらに進める。 2. 本学学生の留学を促進できるような支援を具体的に検討する。 3. 文化・語学研修委員会や他の語学研修プログラムとの連携を検討する。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2018年12月11日</p>	<p>1. 2019年度特別留学プログラム面接結果について 留学希望者5人（FIT 1人、AUB 5人）の1次面接、最終面接について、面接担当者より報告。委員会としてAUB希望の4人の留学を許可した。 2. その他 (1) リスクマネジメントマニュアルについて 特別留学プログラムに参加する学生に対応できるように7月に「特別留学プログラム リスクマネジメントマニュアル」を作成し、学生に配付したことを報告。 (2) 留学許可者の今後の対応について 留学許可後に、心理テストや面談などを行っているが、委員会のメンバーではない教員が担当することが承認された。 【共】</p>

附 属 機 関 等

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 利用者サービスの向上 2. 図書館資源の活用、設備の整備検討 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討 5. 学内行事、業務への協力</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 利用者サービスの向上 (1) 「日経 BP 記事検索サービス」「日本建築学会論文等検索システム」「JSTOR」の新規データベースを4月から導入した。「日経 BP 記事検索サービス」は1月までに1,000件近い利用があった。 (2) 国立国会図書館デジタル送信サービスやドキュメントデリバリーサービスを活用し、多様な要求に対処した。デジタル送信サービスは259コマ、ドキュメントデリバリーは3件利用された。 (3) 館内からのみ利用可能としていたGサーチを、希望する8つの大学研究室からも使用可能としたが想定したほどの利用はなかった。広報の工夫をしていきたい。 (4) 情報リテラシー教育の充実をめざし個人申し込みの受け付けを始めたが、申し込みは1件だった。あまり認知されておらず再検討の必要がある。</p> <p>2. 図書館資源の活用、設備の整備検討 (1) 貴重書デジタルアーカイブにユザンヌ著「Les modes de Paris」を9月に追加した。 (2) 利用者用プリンターを入れ替えて無料で利用させたが、トナーカートリッジの予算額を超過したため10月中旬から限定しての受け付けに変更した。利用の見込みを誤ったのが原因だが、変更後は自由に無料で提供するのではなく図書館資源にかかわるプリントアウトに変更したことで混乱はなかった。</p> <p>3. 収蔵環境の管理 (1) 保存スペースの利用効率を高めるために重複図書などを除籍し、新規に電子ブック TRC-DLを3月から導入した。 (2) 保存環境を改善し、その維持体制を整えるために小平書庫の空調管理の改善や、小平書庫へ資料を移動した。</p> <p>4. 資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討 (1) 2020年度以降の目録情報システム (CAT2020) に向けた最終まとめが10月に出されたのを受けて検討を進めた。 (2) 日本十進分類法10版の部分的採用を実施した。「時代を示す新設項目」「専門分野の新設項目」を採用した。 (3) 貴重書47冊、錦絵41点のデータを修正し標準化した。</p> <p>5. 学内行事、業務への協力 (1) 文化祭で「髪型の移り変わり 西洋と日本」の展示を開催し好評を博した。見学者764人。入館者1,875人(期間中入館手続き不要)。 (2) 大学の授業で制作した「黄金背景テンペラ画」の作品を何度かに分けて館内で展示した。</p> <p>6. 私立短期大学図書館協議会幹事校(2018-2020年度)を務めた。</p> <p style="text-align: center;">【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 利用サービスの向上 2. 図書館資源の活用、設備の整備検討 3. 収蔵環境の管理 4. 資料データの標準化と次世代検索システム導入の検討 5. 学内行事・業務への協力</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：文化学園大学図書館

開催年月日	図書館委員会
2018年6月26日	1. 2017年度業務報告 2. 2018年度業務計画・資料費予算決定報告 3. 意見交換
2018年12月4日	1. 2018年度業務計画進捗状況報告 2. 2019年度業務計画・資料費予算 3. 意見交換
2019年3月1日	1. 2019年度業務計画・予算・図書館開館日程決定報告 2. 監事監査報告 3. 第24期図書館委員決定報告 4. 意見交換

開催年月日	部会（館員全体会議）
2018年4月2日	1. 2018年度図書館業務計画 2. 組織編成・業務グループ担当発表 3. 各課業務分担発表 4. 各課報告 5. 業務グループ・研修報告
2018年5月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告
2018年6月29日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 図書館委員会報告
2018年9月28日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告
2018年11月30日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 2019年度業務計画・予算案審議
2019年1月31日	1. 各課報告 2. 業務グループ・研修報告 3. 学内業務監査について

開催年月日	運営会議（管理職会議）
2018年4月11、25日	1. 選書について 2. 各種研修参加者検討 3. 私立短期大学図書館協議会
2018年5月9、23日	1. 文庫コーナーの拡充 2. 分課分掌業務規程の見直し 3. 図書館委員会日程
2018年6月6、20日	1. 情報誌セミナー 2. 図書館委員会議題 3. 各種研修会参加者検討
2018年7月11、25日	1. 文化祭展示 2. 雑誌付録プレゼント企画報告
2018年9月5、19日	1. 図書館だより 2. 貴重書デジタルアーカイブコンテンツ追加 3. 中長期計画 4. パソコン入れ替えに伴う設備
2018年10月3、17日	1. 電子書籍トライアル 2. HP見直し 3. 利用者用プリンタサービス見直し 4. 図書館委員会日程
2018年11月8、14、28日	1. 利用者用プリンタサービス 2. 2019年度予算編成 3. 2018年度予算消化状況 4. 2019年度業務計画案 5. 図書館委員会 6. 図書館だより
2018年12月5、12、19日	1. 2019年度予算編成 2. 2018年度予算消化状況 3. 2019年度学生アルバイト採用
2019年1月16、30日	1. 2018年度予算消化状況 2. 2019年度「スタディスキルズ」に代わるガイダンス 3. 2019年度図書館カレンダー 4. 第3回図書館委員会
2019年2月13、26日	1. 2018年度予算消化状況 2. 2019年度業務分担 3. 監査
2019年3月15日	1. 2018年度予算消化状況 2. 2019年度業務分担

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 従来 of 企画展示に加え、服飾博物館の特徴を生かした新しい形の常設展示のような設置の企画を進める。 2. 「ブルックス ブラザーズ展ーアメリカンスタイルの200年、革新の2世紀ー」 アメリカの紳士服の老舗、ブルックスブラザーズの歴史展示を実施する。 3. 北竜湖資料館のリニューアルを具体的にすすめ、地域の郷土資料館構想の設置を進める。 4. 博物館の老朽化に対応するため、博物館施設・設備の見直しを進める。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 従来 of 企画展示に加え、服飾博物館の特徴を生かした新しい形の常設展示のような企画を進めている。本館には常設展という展示形態は無く、現在は年4回の企画展示のみであり、学園の性格に合わせ、新入生が入学する時期は、洋服の展示を行うことを常としていたため、一つのテーマの下に展示構成をしてきた。例えば「ヨーロッパ・モード」などである。一つのテーマで統一することの意味はあるが、複数のテーマを扱えないために、所蔵はしているが展示できない工芸品や、海外からの観覧者が増える今日、着物を見たいと思って来館する外国人も多い。このことから、企画展示と同時にテーマを別にした常設展ができないか検討してきた。概略は、3テーマとし、「和」と「洋」、その他「絵画・工芸品」などを検討している。時期的には2019年12月を候補として、展示をする資料などを検討している。 2. アメリカの紳士服の老舗である「ブルックス ブラザーズ展ーアメリカンスタイルの200年、革新の2世紀ー」では、従来 of 展示に囚われない新しい発想で構成し、インスタグラム、SNS等の効果も大きく、46日間の会期で13,879人の入場者があり、大成功であった。入館料・グッズの販売も好調であった。従来 of 入館者は女性が8割くらいだが、今回は紳士服ブランドの展示であったことから女性より男性の来館者が多く、新しい来館者層に服飾博物館を知ってもらう良い機会となった。 3. 北竜湖資料館のリニューアルを具体的にすすめるために「地域の郷土資料館構想」について展示資料の準備を進めているが、建物の補修などが検討されているため、2018年度の進展はなかった。 4. 博物館の老朽化に対応するため、博物館施設・設備を見直し、老朽化している二つの展示室の空調設備を入れ替えたことにより、資料の保存環境を改善することができた。 【共】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 空調設備のリニューアルとして、収蔵庫の空調設備の交換を2019年度の秋ごろに予定している。 2. 常設展開始予定にともなう展示室の設備として、収蔵資料のデータベース閲覧を来館者が利用し易いような環境に整備する。 【共】

■検討組織名：文化学園服飾博物館

開催年月日	会議等の開催記録
2018年3月11日～ 2018年5月16日	ヨーロッパ・モード展 会場：文化学園服飾博物館
2018年6月1日～ 2018年9月30日	空調設備入れ替え工事 展示室1階、2階
2018年10月5日～ 2018年11月30日	ブルックスブラザーズ展－アメリカンスタイルの200年、革新の2世紀－ 会場：文化学園服飾博物館 ブルックスブラザーズ共催
2018年10月16日	文化学園博物館運営専門会議 会場：理事長室会議室
2018年12月20日～ 2019年2月16日	華やぐ着物展 大正・昭和の文様表現 会場：文化学園服飾博物館
2019年3月11日～ 2019年5月17日	ヨーロッパ・モード展 会場：文化学園服飾博物館

資料協力	
2018年3月21日～ 2018年6月12日	アール・デコ・リヴァイヴァル 旧朝香宮邸物語展 貸出：東京都庭園美術館
2018年4月17日～ 2018年5月27日	明治150年記念 華ひらく皇室文化 展 貸出：徳川美術館

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学関連部署と意見交換や情報共有の機会を設け、緊密な連携を図る 2. 海外交流によるグローバル化プログラムの開発と支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 特別留学プログラムや国際コンテスト等、海外交流への学生の関心を喚起 (2) 海外ファッション関連企業とのコラボレーションやインターンシップの運営サポート 3. 学内におけるグローバル化の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 英語によるグローバルセミナーの継続と効果的な運営方法の検討 (2) 海外からの短期研修グループの受け入れ継続と研修内容の充実 4. 外国人留学生の受け入れ促進と環境の整備 5. 学内外への情報発信と情報共有 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本学関連部署と意見交換や情報共有の機会を設け、緊密な連携を図る 「グローバル推進委員会」を始動し、各校と本部の教職員14人で年間8回開催した。毎回テーマを設けて意見交換し、学校間の情報共有や新たな提案の場として有効に機能している。 2. 海外交流によるグローバル化プログラムの開発と支援 <ol style="list-style-type: none"> (1) 2018年度に特別留学プログラムを利用して留学した学生は米国FITが3人、英国AUBが2人であった。5月にはプログラムの説明会を実施して周知に努めた。また、学生の語学力向上と留学のための経済的支援が大きな課題である。国際コンテストに関しては、募集概要を在学学生にGmailで告知しているが、卒業生への周知とその後のサポート体制についても今後検討していかななくてはならない。 (2) 海外提携校であるオーストラリアRMIT大学や英国MMUとの本学におけるコラボ・ワークショップや、長期学外学修プログラムにおける米国のインターンシップでは、言語面や連絡窓口としてのサポートを行い、学生や教職員の海外交流を支援することができた。 3. 学内におけるグローバル化の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国内外のファッション教育関係者やデザイナーを講師に迎えたグローバル・ファッションセミナーを年間18回、ミニ講座を2回開催した。うち英語によるセミナーが10回、韓国語が2回であったが、各回とも30人以上の参加者があった。ポスターやGmailによる学生への働きかけで一定の認知度を得たようだ。同時に海外や留学への学生の関心も高まりつつあり、特にポートフォリオに関するセミナーと個別指導は学生にも教員にも好評であった。 (2) 海外からの短期研修は、米国FITのほか、韓国、台湾、オーストラリア、英国の海外提携校や高校から5つのグループを受け入れた。参加者アンケートでは大半の学生が授業と研修内容に満足しており、今後の入学者に繋がるのが期待される。 4. 外国人留学生の受け入れ促進と環境の整備 海外事務所における留学フェアや現地開催イベントへの参加・調整を通じて本学の広報に努め、優秀な留学生の確保に繋げた。今後は受け入れのための教育環境の整備が急務となる。 5. 学内外への情報発信と情報共有 2018年度より「文化学園グローバル通信」を1～2か月に1度発行し、学内の全教職員にメールで配信している。本センターのイベントや来客などの活動を周知させ、情報共有することで様々な部署とのつながりを深めることができた。 【共】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 提携校との特別留学プログラムの開発 2. 学内関連部署との連携および情報の共有 3. 学内におけるグローバル化の推進 【共】

■検討組織名：文化学園国際交流センター

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月12日	海外事務所長来日会議（4校合同） 1. 各事務所からの報告 2. 各学校からの報告、連絡 3. 意見交換
2018年10月5日	海外事務所長来日会議 1. 各事務所からの報告、連絡 2. 意見交換

開催年月日	会議等の開催記録
2018年5月22日	第1回グローバル推進委員会 自己紹介、意見交換「学園のグローバル化に大切なこと」
2018年6月26日	第2回グローバル推進委員会 意見交換「日本人学生を海外に送り出すためには」
2018年7月24日	第3回グローバル推進委員会 意見交換「日本人学生を海外に送り出すためには2」
2018年9月25日	第4回グローバル推進委員会 意見交換「海外コンテスト挑戦のために」
2018年10月23日	第5回グローバル推進委員会 意見交換「海外コンテスト挑戦のために2」
2018年11月27日	第6回グローバル推進委員会 意見交換「海外広報活動について」
2018年12月18日	第7回グローバル推進委員会 意見交換「海外広報活動について2」「海外広報用のグッズについて」
2019年3月5日	第8回グローバル推進委員会 意見交換「海外ガイダンスへの4校合同戦略」

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 特許、実用新案、意匠、商標等に関する教職員の興味と知識を高め、権利化を進める。</p> <p>2. 知的財産の更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>3. 著作権侵害行為の防止 著作物の無断使用や模倣等、著作権の侵害にあたる行為を防止するための方策を検討する。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進 本学の研究成果について以下の権利化を進め、出願件数を2017年度0件から2018年度2件に増やすことができた。</p> <p>(1) 特許出願「パンツパターンの作製方法」(2018年4月6日：特願2018-074144) 【大】</p> <p>(2) 特許出願「床用マットおよび脚部疲労評価方法」(2019年2月5日：特願2019-018877) 【大】 上記は2件とも企業との共同研究の成果であり、商品化により産業の発展に直接寄与できるものである。引き続き2019年度も権利化を推進し、研究成果による社会への貢献を目指す。</p> <p>2. 知的財産の更新及び保護管理 遺漏なく権利更新を行うことができた。引き続き2019年度も確実な保護管理を行う。 特許第4198152号「模擬皮膚装置およびそれを用いた特性評価方法」更新【大】</p> <p>3. 著作権侵害行為の防止 法改正への対応と最新事例の収集を行い、社会情勢の変化を踏まえた著作物利用ができるよう整備を行った。引き続き2019年度も情報収集を継続し、適切な対応を進める。</p> <p>(1) 改正著作権法(2018年5月25日公布)の内容について周知を行い、著作物の取り扱いの変更点と公正な利用方法の浸透を図った。【共】</p> <p>(2) ファッションに関わる知的財産権の調査研究機関「Fashion Law Institute Japan」の研究會に参加し、著作権侵害の最新的事例や知的財産保護の方策について情報を収集した。</p> <p style="text-align: right;">(2019年2月27日) 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 知的財産の権利化の推進</p> <p>(1) 特許、実用新案、意匠、商標等に関する教職員の知識と興味を高め、権利化を進める。</p> <p>(2) 文化学園における知的財産のあり方等を検討し、教員及び職員がより効率的に知財を活用できるよう、相談を受け付ける。</p> <p>2. 知的財産の更新及び保護管理 所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権の更新及び保護管理を行う。</p> <p>3. 著作権侵害行為の防止 著作物の無断使用や模倣等、著作権の侵害にあたる行為を防止するための方策を検討する。</p> <p style="text-align: right;">【共】</p>

■検討組織名：文化学園知財センター

開催年月日	会議等の開催記録
2018年7月13日	文化学園知財センター運営委員会 1. 2017年度実績報告 (1) 権利化活動 (2) 権利更新・管理 2. 2018年度業務計画 (1) 知的財産の権利化の推進 (2) 権利更新・管理 (3) 著作権侵害行為の防止 3. 著作権の取り扱いについて
2018年5月2日	文化学園知財センター小委員会 ブランドロゴ等の商標について
2018年5月9日	文化学園知財センター小委員会 コンテスト応募デザイン画におけるコラージュについて①
2018年5月15日	文化学園知財センター小委員会 リメイク作品におけるブランドタグ・ロゴの取り外しについて
2018年6月13日	文化学園知財センター小委員会 コンテスト応募デザイン画におけるコラージュについて②
2018年7月5日	文化学園知財センター小委員会 作品制作における著作物利用について
2018年7月31日	文化学園知財センター小委員会 入試問題の著作権処理について
2018年10月16日	文化学園知財センター小委員会 文化祭ファッションショーにおける音楽の使用について
2018年10月19日	文化学園知財センター小委員会 改正著作権法について
2018年11月12日	文化学園知財センター小委員会 産学連携における成果物の利用について
2019年2月20日	文化学園知財センター小委員会 卒業制作ショーの映像について

<p>本年度の課題 (2018 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討 (企業対応グループ) 2. 地域と連携した活動の計画と実践の検討 (地域対応グループ) 3. 環境や社会に配慮した教育の実践と検討 (社会環境対応グループ) 4. 卒業生ネットワーク構築と卒業生対応イベント実施 (卒業生対応グループ) 5. 「大学教育再生加速プログラム (AP 事業)」の計画と実行 (AP 対応グループ) 6. 「教育開発プログラム (ED)」の推進と教育活動の広報活発化 (ED 対応グループ) 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討 (企業対応グループ) 社会人基礎力チェックを、服装学部の 2 学科に加え、本年度は国際ファッション文化学科と短期大学部でも実施した。国際ファッション文化学科は主体性、協調性の高評価、一方短期大学部は実行力が高評価と学科により評価傾向が分かれた興味深い結果となった。 【共】 2. 地域と連携した活動の計画と実践の検討 (地域対応グループ) 〈渋谷区〉渋谷区小中学生並びに公募で「小学生ファッションショー体験&中学生バックヤード見学」を実施 (小学生 27 人・中学生 3 人参加) した。また、代々木山谷小学校で 11 月 9 日「家庭科教育支援」を再開し、アドバンステクニックコース 4 年生 7 人が参加し指導を行った。〈飯山〉クラフトフェアに 30 人の学生が参加した。現地での販売を通して、他の出店者、来場者との交流が図れた。「学んで発信、ふるさとプロデュース」では伝統工芸職人の技術を学び、その工芸技術を生かして企画提案を行い、伝統文化の理解を深めることができた。 〈八ヶ岳〉原村の観光振興の為、原村の紹介ポスターを制作した。「八ヶ岳エリアの魅力を伝えるポスターコンテスト」で参加学生が最優秀賞と優秀賞 (2 人) を受賞した。 【共】 3. 環境や地域に配慮した教育の実践と検討 (社会環境対応グループ) 循環型社会に対応した学生作品を「エコプロ 2018」に出展した。反毛・残布、デニムの耳を活用したりメイク作品が好評だった。 【共】 4. 卒業生ネットワーク構築と卒業生対応イベント実施 (卒業生対応グループ) SNS を活用して卒業生へ大学情報を発信するネットワークを構築した。卒業生対応イベントは文化祭で紫友会 (同窓会) と共催で「BUNKA 会」を開催し、好評を博した。 【共】 5. 「大学教育再生加速プログラム (AP 事業)」の計画と実行 (AP 対応グループ) 低学年対象の梅春学期プログラム (2 月～3 月) の海外研修 3 企画、国内研修 9 企画に 53 人参加した。高学年対象の国内長期企業研修には 14 人が参加した。 【大】 6. 「教育開発プログラム (ED)」の推進と教育活動の広報活発化 (ED 対応グループ) 全学的組織となった USR 推進室事業活動内容の広報活動を促進するため、広報パンフレットを全面的に新たに作成した。 【共】
<p>次年度への 課題 (2019 年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や産業に対応した学生の育成課題と方法の検討 (企業対応グループ) 2. 地域と連携した活動の計画と実践 (地域対応グループ) 3. 環境や社会に配慮した教育の実践 (社会環境対応グループ) 4. 卒業生対応のネットワーク構築と卒業生対応イベント実施 (卒業生対応グループ) 5. 「大学教育再生加速プログラム (AP 事業)」の計画と実施 (AP 対応グループ) 6. 「教育開発プログラム (ED)」の推進と教育活動の広報活発化 (ED 対応グループ) 7. 渋谷区との連携協定 (S-SAP 協定) の対応グループの設置 【共】

■検討組織名：USR 推進室

開催年月日	会議等の開催記録
2018年8月7日	<p>1. 各グループ報告：(1)企業対応グループ:社会人基礎力チェックアンケートの実施状況報告。服装学部は入力中、短期大学部と現代文化学部は9月にアンケートをまとめて文化祭までに集計結果をまとめる。(2)卒業生対応グループ:3月にSNS等の入力フォーマットが完成し、内容を委託業者と詰める。(3)地域連携対応グループ:<渋谷区>服装学部服装造形学科第33回ファッションショーのスタッフ体験及びバックヤード見学の実施、小中学生共に30人の学生が参加した。</p> <p>2. 文化祭パネル製作について:例年通りのスケジュールで昨年のデータを利用し、作成する。</p> <p>3. 海外提携校プロジェクトについて:香港HKDI(Hong Kong Design Institute)校へ須山先生が出張し、集中講義を行う。 また、12月にHKDIの学生が本学に来校しstudy tourを実施した。</p> <p>4. S-SAP協定について:USR推進室に「S-SAPグループ」を開設してはどうか、という提案が出た。大学の取り組みに関しては学事課が窓口となる。</p>
2018年10月12日	<p>1. 各グループ報告：(1)企業対応グループ:社会人基礎力チェックアンケートを服装学部、現代文化学部、短期大学部で実施。学部ごとの特徴がでた集計結果であり興味深い。(2)地域連携対応グループ:<飯山>クラフトフェア…来年度から飯山市の補助金を得て参加予定。<八ヶ岳>9月にコラボレーション科目を実施、学生の原村PRの発表会にて3件の取材を受けた。(3)社会環境対応グループ:コラボレーション科目「エコとファッションについて学ぶB」を実施。学生がリメイクした作品を、11月に開催される横浜のイベントで高校生がファッションショー形式で披露する。</p> <p>2. 文化祭準備について:パネル数は昨年同様、レイアウトは変更予定である。</p> <p>3. S-SAP協定について:渋谷区の要請が多い時の対応のしやすさを考え、学園全体で協定を組むことが正式決定し、調印式では5~6社の取材を受けた。</p>
2018年12月14日	<p>1. 文化祭関連報告：今回から開催会場が変更になったが、問題なく終了。地域連携グループ<飯山>の表彰式の実施報告を行う。</p> <p>2. エコプロ2018実施報告:12月6日~8日東京ビッグサイトで開催の「エコプロ2018」に参加。反毛や残布のリメイク、リサイクルサンプル展示は好評であった。 かんきょう文化祭参加報告:11月3日~4日横浜ワールドポーターズで開催、古着リメイク作品でファッションショーを実施した。</p> <p>3. 2019年度事業計画・事業予算案について:(1)U-4卒業生ネットワークコミュニティサイトシステム構築費及び維持費に関して。(2)U-6地域連携対応グループ<飯山>AP予算とUSR推進室予算の合算を取りやめ、切り離して計上。(3)U-8反毛促進プロジェクトで物資運搬費が近畿大学の補助により総額7万の減額。(4)U-9エコプロ2019の消耗品費を減額。(5)U-10海外提携校交換プロジェクトの予算を来年度からHKDIのプロジェクト予算分のみで計上とする。(6)U-11は文部科学省によるAP事業の補助金が最終年度で減額となる為出張費等をUSR推進室に計上する為にAPプロジェクト事業費として新開設した。</p> <p>4. その他:地域連携対応グループ<渋谷>の代々木山谷小学校で行った「家庭科教育支援」実施について報告した。</p>

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流の推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. 資料室データベースの更新・拡充 5. テキスタイル・映像・コスチューム資料室データベース統合に向けたシソーラスの作成 6. H館解体に伴う各資料室の資料検証及び利用・処分方法の検討 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各資料室（映像・テキスタイル・コスチューム）共に学内・学外に対しレファレンスを行い、来館者に利用方法や収集資料の認知を広めた。 映像資料室：教材用映像資料収集（購入）、公開。 テキスタイル資料室：テキスタイル産地その他企業提供による素材収集・配架、授業用・参考書掲載用への貸出。テキスタイルデザインソフト 4Dbox の学生向け無料講習会を2期（春3回、夏3回）開催。 コスチューム資料室：大学・学院のショー作品その他標本資料を収集（提供、購入）・配架し授業に活用した。また、外部貸出等などの依頼にも対応した。 企画室：学生支援企画展示 Studio oeuf を開催、運営した。（学内3回、池袋西武、東京ビックサイトなど外部4回） 2. 織物産地との共同事業による現地体験学習・ワークショップ（2回）、産地見学ツアー（2回、内1回は幹旋）、デザイナー作品など企画展示（6回）を実施し参加学生への知識を深めた。 三菱ケミカル共賛の「第12回ソアロンデザインコンテスト」を主催として開催した。 3. 外部への有料情報公開対応として「文化学園ファッションリソースクラブ」を継続運営し、一般利用・卒業生の賛助会員、正会員、会友への会員導入を行った。学内広報誌「ファッションリソースセンターだより」を発行（年2回）、学内はもとより来館者にも配布した。 4. 各資料室共にデータを追加した。コスチューム資料室については新データベースのカスタマイズにより画像閲覧の範囲を拡充した。 5. 映像資料データベースの共有を停止したため再考が必要となった。 6. 大学・和装文化研究所「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」、ファッションビジネス学会などの協力を得て有効的な資料の研究・活用方法を検討、継続中である。 【共】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育支援体制の継続 2. 産学交流推進の継続 3. 外部への情報公開と交流促進の継続 4. 各資料室データベースの更新・拡充 5. 各資料室の資料検証及び利用・収集・整理方法の検討 6. 外部倉庫（所沢、小平）移管の資料整理 7. ファッションリソースセンター運営会議の開催 【共】

共同研究拠点

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 共同利用を中心とした共同研究拠点の文部科学省申請の検討を含めた研究事業の継続推進 2. 和装文化共同研究、若手教員研究活動支援の推進 3. 学園の研究振興を図るための方策の検討 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 共同利用を中心とした共同研究拠点の文部科学省申請の検討を含めた研究事業の継続推進 2018年度をもって本拠点が認定期間終了のため、2019年度からの本機構の運営等について運営委員会で検討し、これまでと同様に共同利用を中心とした研究事業を推進することとした。学外の研究者は、共同研究員として本学園の施設を利用しているが、2018年度が共同研究員の登録期間終了となるため、研究員の登録延長の意思を確認し、新たな研究証の発行等次年度からの共同利用へ向けて準備を進めた。</p> <p>2. 和装文化共同研究、若手教員研究活動支援の推進 (1) 和装文化共同研究の推進 研究課題4件はいずれも2017年度からの継続であり、文化学園大学の専任教員を代表として、他大学等の研究者とともに研究を進めてきた。2018年度が研究の終了年度であるため、各課題の成果を下記のとおり示す。 「和装の再生—能装束の補修・復元—」：2018年度は、2017年度に選出した能装束の復元に使用する素材の選出、復元技法の検討を行い、装束の復元を行った。 「和装分野の未発掘資料の調査と保存—基礎調査とデジタルデータ化、および保存環境の改善支援—」：文化庁委託「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」での調査をもとに更なる未発掘資料に関する基礎情報を取得し、その成果を報告書にまとめた。 「文化資源としての“和装”活用—和装ユニフォーム化に向けた基礎研究—」：服装機能学・服装社会学の両部門から和装ユニフォーム化の可能性について取りまとめ、米国繊維学会にて発表予定である。 「和装のグローバル研究拠点形成のための基礎研究」：現代の和装のグローバル展開の様相を英文論文にまとめ、2019年2月15日の国際シンポジウム(Re)thinking Fashion Globalization (於文化学園大学)にて発表した。本論文は、2020年3月シンポジウム報告書(書籍)として出版予定である。 4件ともに研究計画書に基づき、研究を進め一定の成果を得た。</p> <p>(2) 服飾文化の若手研究者の活動支援 2017年度採択者2人の研究成果報告会(12月16日)を行い、また経費等を含む研究成果報告書により、研究企画委員会が確認を行った。 学内の若手教員育成のために若手教員研究奨励金による支援事業を実施しているが、2019年度募集分からは、従来の研究期間(12月～翌年11月まで)を研究の実行・推進する時期(夏季休暇)、研究のまとめの時期(冬期・春期休暇)となるよう、4月～翌年3月までに変更し、公募を行った。 研究企画委員会において、若手教員の育成には、経済的支援のほかにアドバイスを行うことが必要であるとの判断から、採択決定の前に、審査員の意見を応募者全員にフィードバックを試みた。これにより、文化学園大学1件、文化服装学院3件、合計4件の研究課題を採択した。</p> <p>3. 学園の研究振興を図るための方策の検討 研究企画委員会を開催し、若手教員への研究支援の方法や学園全体の研究振興について検討・協議し、次年度の研究公募等に反映させた。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 共同利用を中心とした研究事業の継続推進 2. 共同研究(公募型)のあり方の検討と実施 3. 本機構の所有する資料(主に図書)の整理及び貸出期間の見直し 【共】</p>

■検討組織名：文化ファッション研究機構

開催年月日	研究企画委員会の開催記録
2018年11月21日	1. 研究企画委員会のメンバーについて 2. 若手教員研究奨励金について (1) 若手教員研究奨励金の給付期間等の日程変更(案)を承認 (2) 2019年度文化ファッション研究機構若手教員研究奨励金応募要領及び申請書(様式)の確認 3. その他 ・文部科学省への服飾文化共同研究拠点の期末評価報告書提出の報告 ・共同研究(公募型)の募集時期について ・運営委員会開催について
2019年3月4日	1. 若手教員研究奨励金について 2019年度受給者の決定の前に、応募者全員に委員会からのアドバイス(予算、研究課題・研究内容の一部見直し等)を行い、その結果をもとに受給者を決定することとした。 2. 2017年度受給者成果報告 受給者全員が、研究の成果を国際会議、学会にて発表予定であることから、本奨励金の目的を果たしていることを確認した。

開催年月日	運営委員会の開催記録
2019年2月19日	1. 文化ファッション研究機構の活動等について ・文部科学省への服飾文化共同研究拠点の更新申請の報告 ・若手教員研究奨励金の研究期間及び募集期間の変更の報告 2. 2018年度文化ファッション研究機構事業報告 3. 2019年度文化ファッション研究機構事業計画

附 属 研 究 所

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所 学内共同研究プロジェクト助成金の公募を行い選考の上、運用する。 2. 2017年度採択の各研究課題の研究成果について、「懇話会」を企画し、代表者による意見交換を主とした報告会を行う。 3. 衣環境に関する研究会を、年1～2回開催する。 4. 他の附属研究所の研究会活動に協力し、4研究所での交流を企画する。 5. 文化・住環境学研究所との研究設備の共有を図り、共同研究も検討する。 6. 研究設備の充実・整備、人工気候室、人間工学実験室、研究所実験室の有効活用を目指す。 7. 国内外からの参観・見学を積極的に受け入れ、本研究所の意義を発信する。 8. 産学共同研究を推進し、衣環境学分野の研究を活発に推進し、国内外に向けて発信する。 9. 大学院生の研究活動を支援し、博士取得者を輩出する。 10. 研究所の外部評価制度、研究所担当人員の配置について審議する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度学内共同研究プロジェクト助成金は目的および応募要領を見直し、文化学園大学及び文化学園大学短期大学部に所属する教員が行う衣環境学の研究活動を推進することを目的とし、名称を「学内研究プロジェクト助成金」に、助成額の上限金額、公表義務、申請者などの条件を変更して公募を実施した。4件の申請に対して審査の上、全4件を承認・採択した。(助成金額合計：983,000円)。また、2019年度学内研究プロジェクト助成金の公募を12月に行い、4件の申請があり、審査の上、全4件を承認・採択した。 2. 2017年度に採択した6件の学内共同研究プロジェクトの研究成果は、学内研究発表会及び学会にて3件が発表した。この中に文化・住環境学研究所との共同研究成果1件が含まれた。 3. 文化・衣環境学研究所の活動全体の見直しにもとづき、衣環境に関する研究会については実施を見送った。 4. 文化・住環境学研究所と「学内研究プロジェクト助成金」の共同実施を提案し、実施に向けて課題を継続協議していくこととした。このほか、服装学部の学内研究発表会との連携を図った。 5. 住環境における行動解析の研究に、当研究所が保有するアイマークレコーダが利用できないかを検討した。 6. 研究設備は、人工気候室及び恒温恒湿室の老朽化設備を段階的に更新した。 7. 研究所の設備を用いた教育・研究活動の様子についての見学を、国内外の大学や企業から多数受け入れた。今後、管理上の点から見学の受け入れ手続きについて整備を進めていく。 8. 産学連携での研究は国内の企業と全8件を実施した。共同研究と受託研究の手続き・承認、大学院生の研究参画について検討課題が残った。 9. 大学院生の研究活動支援及び博士取得者の輩出については、文化・衣環境学研究所が直接関与する活動ではないため、間接的な支援とした。 10. 研究所の外部評価は、大学の自己点検・評価活動および学内規則に準じることで十分と判断し、独自の評価制度は不要とした。また、研究所の活動を見直し・整理することで、研究所担当人員は置かない方向とした。 【共】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化・衣環境学研究所 「学内研究プロジェクト助成金」の公募を通して、学内の研究活動の活性化を図る。 2. 研究成果の公表について、服装学部の研究発表会との連携を深め、研究交流の場を拡大する。 3. 老朽化した研究設備の更新計画を着実に推進する。 4. 文部科学省科学研究費助成金への申請を行い、新規設備の購入を図る。 5. 外部からの共同研究・受託研究、見学受け入れ等の手続き・承認の流れを整備する。 【共】

■検討組織名：文化・衣環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2018年5月23日	第1回運営会議 文化・衣環境学研究所の活動方針、および2018年度のプロジェクトに関する助成金名称および応募要領の変更、公募・採択の日程、2019年度の公募時期について協議し、決定。
2018年6月19日	文化学園大学教授会にて、2018年度学内研究プロジェクト助成金公募について周知。
2018年7月10日	第2回運営会議 2018年度学内研究プロジェクト助成金の申請4件について審査を行い、4件を採択。
2018年12月11日	文化学園大学教授会にて、2019年度学内研究プロジェクト助成金公募について周知。
2019年3月7日	第3回運営会議 2019年度学内研究プロジェクト助成金の申請4件について審査を行い、4件を採択。

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 共同研究の推進 2. 参画教員の拡大 3. 若手教員の研究活動の支援 4. 所報「しつらい Vol.7」の見直し 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 共同研究の推進 2018年度から公募範囲を全学として、下記の3カテゴリーに分けて公募した。 <Ⅰ. 共同研究(教材開発を含む)>:学内外の複数人で行う共同研究(教材の購入のみではなく、教育方法や教育効果の検証などが必要)。 <Ⅱ. 共同制作(教材開発を含む)>:学内外の複数人行う共同制作(作品の制作のみではなく、制作プロセスや教育効果の検証などが必要)。 <Ⅲ. 若手による研究・制作>:40歳未満の教員(助手含む)が代表者で行う共同研究・制作。 その結果、研究所運営会議において下記の7件の研究が採択された。 ①高齢期女性の居場所における収納システムの提案<Ⅰ> ②長野県須坂市における古民家再生プロジェクト<Ⅰ> ③学外活動を通じた造形教育の試み<Ⅰ> ④家庭科教育における住生活領域の現状と課題<Ⅰ> ⑤都心立地型高層キャンパスにおける「学生の学びの場」と「教職員の働く場」に関する研究<Ⅰ> ⑥大規模マンションにおける共用空間の利用とコミュニティ活動の経年的変化に関する研究<Ⅲ> ⑦地域と共存する小空間の研究<Ⅲ> 上記のうち、⑤は採択後に取下げ申出があり未実施であったが、他の6件については研究が実施された。これらの研究については、2019年度の学内研究発表会のほか、学会発表や一般メディアを通じて広く社会に対して公表する予定である。 また本学文化祭において、研究助成を行った共同研究(2014~2016年度)のパネル展示を行い、学内外への公表に努めた。</p> <p>2. 参画教員の拡大 上記研究テーマのうち、②③④⑥⑦は学外者も参画して行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたと考える。また、④は専門分野の異なる学内複数学部の教員による学際的研究であり、共同研究の募集範囲を大学全体とした成果として評価できる。</p> <p>3. 若手教員の研究活動の支援 上記研究テーマのうち、①⑥⑦は若手教員も参画して行われた共同研究であり、当初の目標を達成できたと考える。</p> <p>4. 所報「しつらい Vol.7」の見直し 2017年度末に発行した研究所報は、表紙デザインも一新し、本研究所の研究活動の特長を明確にした冊子として研究活動の外部公表を強化した。所報は隔年発行であるため、2018年度は2019年度のVol.8発行に向けて検討を行い、前号同様に特集記事及び研究助成報告の充実に加えて、教員の研究活動情報を共有する媒体としての充実を図るために必要な予算を確保した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 共同研究の推進 2. 参画教員の拡大 3. 若手教員の研究活動の支援 4. 所報「しつらい Vol.8」の編集・印刷・発行 【共】</p>

■検討組織名：文化・住環境学研究所

開催年月日	会議等の開催記録
2018年10月2日	<ol style="list-style-type: none">1. 2018年度共同研究の実施状況について2. 2019年度共同研究の公募について3. 所報「しつらいVol.7」の配付状況4. 文化祭展示について
2018年11月22日	<ol style="list-style-type: none">1. 2019年度共同研究の採択審議2. 2019年度予算申請について3. D18・D15について（報告）
2019年3月11日	<ol style="list-style-type: none">1. 2018年度共同研究の実施報告2. 2019年度の事業計画について3. 運営委員の補充について

■ 検討組織名：文化・ファッションテキスタイル研究所

報告者：宮本 英治

提出日：2019年4月1日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスタイルデータ（糸の種類・太さ・密度、織組織等）のデジタル化を推進する。2018年度の実績約300データ以上を目指す。 2. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発数を約30点を目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル産地を活性化するための指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。 【共】
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存のために各種資料のデジタル化に日常的に取り組み、約300件をデジタル化した。 2. 研究所独自のテキスタイル開発を日常的に実施し、多重織・ドビー織などの斬新なテキスタイルを30点以上開発した。 3. 「株式会社リューズ纏」と協働して開発したテキスタイルを使用した服が、春夏と秋冬2回の東京コレクションで披露され、高評価を得た。 「ムーンバット株式会社」と協働した「SAJYU プロジェクト」でテキスタイル開発指導した多重織服飾雑貨品が高評価を得た。 「マツオインターナショナル株式会社」のテキスタイル開発のため、弊所保有資料の貸し出しや開発指導を行い、そのテキスタイルを使用したファッションが高く評価された。 4. 八王子織物産地・京都府丹後織物産地などの織物業者へのテキスタイル開発指導や業界活性化のための研修・見学受入れなどを実施した。 「八王子織物組合」主催の“Mulberry City ネクタイデザインコンペ”の企画・審査・表彰式など全般にわたり協力・指導した。 5. 文化学園大学をはじめ文化学園の教員や学生の見学・研修を受入れ、テキスタイルの一般知識の習得や生産現場におけるテキスタイル作りを理解してもらうことが出来た。 「株式会社糸編」の主催する“産地の学校”を弊所で開催し、業界関係者やファッションに興味を持つ塾生に見学・講義を行い、好評を得た。 【共】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究所が保有しているアナログテキスタイルデータと我が国の「伝統の織り」技術の継承保存資料などのデジタル化を推進する。2018年度の実績約300件以上を目指す。 2. 研究所独自のテキスタイルの試作・開発点数30点以上を目指す。 3. デザイナー・企業等とテキスタイルの共同研究・開発を推進する。 4. テキスタイル産地を活性化するための指導を実施する。 5. テキスタイル教育の一環として、研究所の機器説明・見学・講義を実施する。 【共】

開催年月日	会議等の開催記録
2019年2月25日	<p>第1回文化・ファッションテキスタイル研究所 運営委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2018年度事業経過報告説明が所長よりあった。 2. 2019年度事業計画の説明が所長よりあった。 3. 産学連携事業の収入の用途について検討した。 4. テキスタイルデータの公開について検討した。 5. HPの更新について打合せした。 6. 運営委員の交代について提案があり、満場一致で承認された。

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・充実する。【共】 2. 和装関連科目の充実を図る。【大】 3. ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室と茶話会、研究会などのイベントを継続開催する。【共】 4. 外部との連携強化を図る。【共】 <p>(1) 学生きものデザインコンテストは一旦終了となるので、これまで培ったノウハウを生かせる道を探りたい。</p> <p>(2) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。</p> <p>(3) 三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。</p> <p>5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。このため、研究課題の公募を継続する。【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の科目としては「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」を運営した。また、コラボレーション科目として「きものコーディネート入門 2018」「タイの学生と一緒にファッションを学ぼう 2018」を実施した。【共】文化服装学院からきもの基礎知識と浴衣の着付け実習の講座依頼があり、3科に対して約30コマの講習を行った。 2. 2018年度入学生から新たに2科目の設置と「和裁Ⅱ」の単位数の増加を実現することができた。実際の開講は2019年度以降になる。【大】 3. 7月2日～7日「ゆかたウィーク」を開催した。学生の実行委員会を中心としたイベントであるが、研究所としては16日～21日に「イマジンワンワールド」のKIMONOの展示を行った。会場はスペース21を使用し、1,000人を超す来場者を得た。【共】また、(株)やまの矢嶋孝敏会長による特別講義を行った。2018年4月17日と2019年2月8日に「勝手にキモノの日」を開催した。2月8日には関連イベントとしてトークセッションを行った。【共】着付教室と茶話会は7月に2回開催した。【共】 4. きものプレインとの連携を2018年度は行わなかったが、来年度以降の継続を確認している。【共】いくつかのイベントで(株)三松と連携した。【共】 5. 研究課題の公募を実現し、現在採択された3つの課題が進行中である。【共】文化庁アーカイブ関連事業を引き継ぐ形で、学園内のリソースのアーカイブ化を図った。本年度はリソースセンター所蔵の装苑関係の実物資料、テキスタイル研究所所蔵の形柄帳の調査、データ化を行った。【共】
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「和裁」「和裁Ⅰ」「和裁Ⅱ」コラボレーション科目をはじめとする授業の運営を継続・充実する。2019年度は新カリキュラムでの科目運営となる。【共】 2. 和装関連科目の充実を図る。【大】 3. ゆかたウィーク、勝手にキモノの日、着付教室と茶話会、研究会などのイベントを継続開催する。【共】 4. 外部との連携強化を図る。【共】 <p>(1) 次世代きもの和音デザインコンペを継続する。</p> <p>(2) 三松とのコラボ・ツイッターを継続・展開する。</p> <p>5. 共同研究拠点の下部組織として、共同研究の推進を図る。このため、研究課題の公募を継続する。【共】</p> <p>6. 学園内のファッション資料のアーカイブ化を推進する。2018年度に続きリソースセンターの資料、和装研の資料、テキスタイル研の資料のデータ化を進める【共】</p>

事 務 局

■ 検討組織名：全学 SD 委員会

報告者：清木 孝悦

提出日：2019 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題 (2018 年度)</p>	<p>1. 学生募集に関する専門知識の獲得・蓄積とともに、理念の共有化を図る。 2. 「自己の探求」プログラムの効果を、実施時期を含めて引き続き検証するとともに、休学・退学の防止のため、更なる対策を講じる。 3. グローバル化に伴う課題の対策を講じる。 4. 引き続き、教員の研究活動の振興、学生の支援体制の充実を図る。 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 学生募集に関する専門知識や方策の獲得・蓄積はかなり行われてきており、理念の共有化が進んできたこともあり、2019 年度も入学者の増につながったと思われる。 2. 「自己の探求」プログラムの検証を各学部学科で行った結果、2019 年度以降は実施しないことが決まった。そのため、休学・退学者を減らすための新たな対策の検討が 2019 年度の課題である。 3. 日本私立大学協会等の研修会に職員を派遣しており、他大学等の状況や情報を得ることにより学生支援体制の充実を図るための材料としている。保護者等からの様々な申し出が増加しており、対応が課題となっているため、今後も他大学の状況などを参考に充実を図る。 【共】</p>
<p>次年度への 課 題 (2019 年度)</p>	<p>1. 今後の 18 歳人口の減少の中で、入学者確保と質の向上の方策について検討していく。 2. 休学者・退学者を減らすための方策について、まず、経緯と現状を分析し、教員と連携しつつ、学生支援の環境が整えられるよう検討していく。 3. 学外の研修会などに参加し、他大学の状況などの情報を収集し、学生の支援体制の充実を図る。 【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2018 年 4 月 3 日</p>	<p>全学 FD・SD 研修会の実施 午前中は全教職員を対象に、外部講師による「イマドキの学生の初年次教育を考える」と題した講演会を開催した。 午後の分科会では、教員・事務職員混成のグループ別に午前の講演をうけ、「どのように学生との人間関係を作るか、自分の授業や学生指導に生かすか、生かしていけそうか」を具体的に話し合い、問題点に対して具体的な解決策や改善策の提案を行った。</p>
<p>2018 年 9 月 4 日</p>	<p>全学 FD・SD 研修会 秋の分科会の実施 4 月の分科会と同じグループで行い、テーマを「大学のグローバル化」、「発達障害の学生についての合理的配慮とは?」、「LGBT の学生に対する取り組み」として討議を行い、課題の共有化を図った。</p>
<p>2018 年 9 月 20 日</p>	<p>事務局 SD 研修会（管理職のみ）の実施 テーマ：グローバル化対応のための SD 研修会 各課で扱っているグローバル関連（留学生入試状況、在学留学生状況、留学生就職状況、長期学外学修プログラム事業、大学院グローバルファッション専修など）の状況や事例など発表し、問題点などの情報や、検討課題などの共有を行った。</p>

学 园 本 部

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 2. 人事・給与制度改革 3. 学園創立100周年に向けた取り組み 【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 (1) 現状業務の棚卸の一貫として分課分掌業務規程の見直しを行い、各部署にて詳細な業務項目の洗い出しを行った。今後はこの資料等を活用して業務の再構築、ICT化、外注化等を検討していく。 (2) メールシステム等を Google G suite に変更した結果、メールシステム、カレンダー機能、ファイルサーバの利用によって各部署の業務の効率化が図られた。 (3) 人事系申請業務の見直しを行い、新たなシステムの検討を行った結果、2020年度より新システムを導入し業務改革を行うことを決定した。</p> <p>2. 人事・給与制度改革 (1) 働き方改革関連法案対策や教員の評価制度等について検討を行った。引き続き検討していく。 (2) 手当の見直しとして、文化服装学院の夜間授業手当について改定を行った。現状に即した公平な支給となるよう規程を改定した結果、人件費の削減にもつながった。</p> <p>3. 学園創立100周年に向けた取り組み (1) (仮称) 100周年記念校舎の建設の検討を継続的に行っている。 (2) 学園創立100周年記念誌の出版の検討を行った結果、文化出版局で発行することを決定し資料整理等を開始した。 (3) 広報用の学園創立100周年記念ロゴの作成を検討した結果、学生コンペを行い作成することを決定した。 【共】</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 学園の総合的な業務の効率化に向けての改革 (継続) 2. 人事・給与制度改革 (継続) 3. 学園創立100周年に向けた取り組み (継続) 4. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み 【共】</p>

■ 検討組織名：学園本部 総務部

開催年月日	会議等の開催記録
2018年4月12日	1. 人事異動に関する規程（案）について 2. 古本募金について 3. 学園創立100周年記念募金について
2018年5月17日	1. 人事異動に関する規程（案）について 2. 情報システム利用規程について 3. 文化学園 Gmail 利用ガイドラインについて
2018年6月14日	1. 学園創立100周年に向けた計画と（仮称）100周年記念校舎について
2018年9月13日	1. 学園創立100周年に向けた計画と（仮称）100周年記念校舎について
2018年10月11日	1. 学園創立100周年に向けた計画と（仮称）100周年記念校舎について
2018年11月15日	1. 学園創立100周年に向けた計画と（仮称）100周年記念校舎について
2018年12月13日	1. 学園創立100周年に向けた計画と（仮称）100周年記念校舎について
2019年1月17日	1. 学園創立100周年に向けた計画と（仮称）100周年記念校舎について
2019年2月14日	1. 学園創立100周年に向けた計画と（仮称）100周年記念校舎について 2. 働き方改革関連法案について 3. 古本募金の進捗について 4. 学園創立100周年のロゴについて
2019年3月15日	1. 学園創立100周年に向けた計画と（仮称）100周年記念校舎について

<p>本年度の課題(2018年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各建物の利用計画に基づいた教育環境及び施設の維持と安全対策を行う。 2. PCB 特別措置法に基づく含有機器の処分計画を構築する。 3. 国際学生会館の統一管理標準に基づき、入寮募集活動の強化に努める。 4. 引き続き水銀含有製品に対する輸入・製造・輸出禁止問題の情報収集に努める。 5. 産業廃棄物の削減及び再資源化の広報活動を推進する。 6. キャンパスの美化整備事業計画を推進する。 7. 高効率機器への更新計画と省エネルギー対策の事業計画を推進する。 8. 老朽化したエレベーターのリニューアル工事を策定して学生生活の安全を確保する。 【共】
<p>取組の結果と点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. (1) 老朽化した受変電設備のバッテリー等の設備機器を計画的に更新した。 (2) ABC 館の老朽化した天井埋設空調機が特注生産機器であることから、緊急用予備機器の更新をしたうえでオーバーホール 10 年計画の 2 年目を実施した。 (3) F 館空調機の老朽化と機器生産中止に伴い、熱源単独化による機器更新計画工事の 2 年目を実施し、3 年目の工事計画を立案した。 (4) 新都心キャンパスのカメラ監視体制の強化のために、デジタル化によるリプレイス計画を推進した。 (5) 管理会社の合同管理定例会議報告による環境改善及び、建物維持管理に関する法律に基づく安全対策について計画的に実施した。 2. 高圧コンデンサー及び蛍光灯安定器等に含有する PCB の法定処分期間に向けて合理的な予算計画を策定した。 3. (1) 初台国際学生会館の寮長・寮母の協力を得て外壁改修工事を実施し寮生の安全を確保した。 (2) 月例寮長会議及び各校担当者会議により、寮の統一管理と募集活動の強化に努めた。 4. 蛍光灯安定器の PCB 含有コンデンサーの分離による合理的な処分コストの削減予算を策定した。 5. 什器備品の再利用化の推進と、紙ごみ専用箱を追加設置して紙の再資源化の広報活動を推進した。 6. (1) 季節折々の草花年間計画を実施して、キャンパスの美化と近隣との協調を図った。 (2) 新宿文化クイントビルとの連携で、桜並木と LED イルミネーションデザインの統一により、甲州街道のシンボルエリアとして近隣の皆さんからも好評を得た。 7. (1) F 館及び附属すみれ幼稚園の空調機の老朽化と、部品供給停止に伴う高効率機器への更新工事を計画的に更新した。 (2) 老朽化した蛍光灯について、LED 化による省エネルギー対策の工事立案をした。 8. G 館エレベーター 2 台のリニューアル工事を完了し、教育施設の安全を確保した。 【共】
<p>次年度への課題(2019年度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各建物の利用計画に基づいた教育環境の改善及び施設の安全対策を行う。 2. 引き続き耐用年数に応じた冷暖房用熱源設備の中長期計画を予算化して実施する。 3. 国際学生会館の統一管理標準に基づき、入寮募集活動の強化に努める。 4. PCB 特別措置法に基づく含有機器の種類に応じて、法定処分期間の厳守計画を推進する。 5. 産業廃棄物の削減及び再資源化の広報活動を推進する。 6. キャンパスの美化整備事業計画を推進する。 7. 高効率機器への更新計画と省エネルギー対策の事業計画を推進する。 8. 老朽化したエレベーターのリニューアル計画を策定して学生生活の安全を確保する。 【共】

■ 検討組織名：学園本部 経理部

報告者：秋元 雅則

提出日：2019年4月1日

<p>本年度の課題 (2018年度)</p>	<p>1. 「文化学園経理規程」の改正を行い、必要な細則も検討を重ねる。【共】 2. 学園の「資金収支中長期財務計画」を基に、教育・経営環境の変化に対応し財務基盤の充実を図る。【共】</p>
<p>取組の結果と 点検・評価</p>	<p>1. 「文化学園経理規程」の改正を行い、必要な細則も検討を重ねる。【共】 「文化学園経理規程」及び関連する細則について、引き続き検討を行っている。 2. 学園の「資金収支中長期財務計画」を基に、教育・経営環境の変化に対応し財務基盤の充実を図る。【共】 各部門と協議し、2026年度までの「資金収支中長期財務計画」、「事業活動別中長期財務計画」を作成した。</p>
<p>次年度への 課題 (2019年度)</p>	<p>1. 「文化学園経理規程」の改正を行い、付随する細則も検討を重ねる。【共】 2. 学園の各部署の事業計画の進捗を確認しながら「中長期財務計画」の見直しを行う。【共】</p>

■ 検討組織名：IT 委員会（IT 戦略室）

報告者：淵上 和子

提出日：2019 年 4 月 1 日

<p>本年度の課題（2018 年度）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生証の IC 化を継続して進める。 2. 次期証明書発行システムの検討を続ける。 3. 卒業判定処理における、業務改善及びシステム改変を検討する。 4. 引き続き、ICT を利用した授業支援の提案に努める。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>取組の結果と点検・評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019 年度に証明書発行機を入れ替えるにあたり、上級生を含む全学生の学生証を IC カードへ変更するための準備が整った。 2. 証明書発行システムの製品選定の結果、2019 年度に「パピルスメイト 6」を導入することが確定した。学生証は IC カードでの認証のみで行うため、今後は磁気飛び等の物理的トラブルが解消されることが期待できる。 3. 卒業判定処理の業務改善をするために追加システム改修を行った。 4. パソコン教室の Windows パソコンを全て一新した。ディスプレイのサイズが大きくなる一方で教員画面を中間モニターで見せる工夫に、モバイルディスプレイを選択して対応した。A111 教室の教員画面を A114 教室の中間モニターにも映し出すことで 2 教室同時の授業が可能となった。 <p style="text-align: right;">【共】</p>
<p>次年度への課題（2019 年度）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新証明書発行機への入替を行う（2019 年 9 月頃予定）。 2. 磁気カードを使用している 3・4 年生の学生証を IC カードにする。 3. 証明書発行機変更に伴い、上位システムからのデータ転送処理を改修する。 4. 引き続き、ICT を利用した授業支援の提案に努める。 <p style="text-align: right;">【共】</p>

開催年月日	会議等の開催記録
<p>2018 年 7 月 3 日 2018 年 8 月 20 日 2018 年 8 月 21 日</p>	<p>新証明書発行機選定等 打合せ</p>
<p>2018 年 9 月 6 日 2019 年 2 月 5 日</p>	<p>大学 IT 小委員会 次期パソコン教室についての検討</p>

附： 委員会委員一覽表
学部・学科・コース編成
入学定員・収容定員・在籍学生数
全学自己点検・評価委員会委員名簿

2018年度 文化学園大学・文化学園大学短期大学部委員会委員一覧表

2018年9月1日

[常置委員会]

◎委員長 ○副委員長 △書記 (敬称略・順不同)

	教 務	学生支援	入試対策	就 職
1	服装造形学、生産工学、和裁 平良木 啓子	△大橋 寛子	寺嶋 朋子	田端 智香
2	短大部ファッション学科 △木全 秀美	小出 恵	野沢さおり	佐藤 綾
3	服装デザイン学、服飾工芸 ファッション画、テキスタイル、 機能デザイン学、服飾文化共同 柚本 玲	松井 有子	小林 未佳	○中西 教夫
4	服装社会学、服装史学 服飾文化共同、和装文化研究所 ○田中 里尚	工藤 雅人	○福田 博美	小林 幹彦
5	染織、金工、グラフィック・プロダクト デザイン・映像、絵画、基礎造形 造形・色彩学 ◎北浦 肇	山田 拓矢	春田 幸彦	岡部 隆信
6	建築デザイン、住生活デザイン インテリアデザイン 松田 純子	横山 稔	浅沼 由紀	井上 遙子
7	総合教養・国際文化観光 A 外国語・国際文化観光 B 日本語・国際文化観光 C 教育学・体育学、調理学、 博物館学、和装文化研究所 岡島 奈音	◎齋藤 満里子	森谷 直樹	梶谷 哲也
8	総合教養・国際文化観光 A 外国語・国際文化観光 B 日本語・国際文化観光 C 教育学・体育学 小川 祐一	白井 菜穂子	△星 圭子	加藤 薫
9	国際ファッション、応用健康心理学 清水 美里	○根本 賀奈子	樋掛 英里	柴田 早苗
10	教務部、学生部、就職支援一課 高野 博子	宮本 朱	酒井 城司	△吉田 和代
学長 指名		八浪 美穂 酒井 城司	◎高橋 正樹 清木 孝悦 相澤 浩子	矢中 睦美 ◎丸茂みゆき

[特別委員会]

全学自己点検・評価	全学FD	研 究	研究倫理	研究公正	研究活動不正防止	公開講座実行
◎渡邊 秀俊 ○瀬島健二郎 △押山 元子 伊藤由美子 下山かおり 永野 順子 申 恩泳 磯崎 明美 沼尻 七子 北浦 肇 杉田秀二郎 清木 孝悦 円谷 葉子 高野 博子 二茅みゆき	◎金川 孝義 ○スワット チャロニホ ソラニッチ △村上 剛規 吉田 昭子 久木 章江 井上 昌恵 遠藤 典子 北岡 竜行 清木 孝悦 円谷 葉子 酒井 城司 吉田 和代	◎高村 是州 砂長谷由香 岡林 誠士 井口 彰子 後藤 望 嘉松 聡 曾根 里子 中沢 志保 古屋 則子 安永 明智 三品 和之 二茅みゆき 藤澤 千晶	◎野口 京子 ○米山 雄二 永富 彰子 堀尾真紀子 青柳 宏 渡邊 秀俊 永井 伸夫 本間 博 佐藤真理子 清木 孝悦 △円谷 葉子 藤澤 千晶	◎野口 京子 清木 孝悦 永富 彰子 堀尾真紀子 青柳 宏 浅沼 由紀 近藤 尚子 永井 伸夫 原島 陽一 田村 照子 円谷 葉子 藤澤 千晶	◎野口 京子 ○米山 雄二 永富 彰子 堀尾真紀子 青柳 宏 近藤 尚子 浅沼 由紀 清木 孝悦 秋元 雅則 佐藤 申 友利 光夫 △円谷 葉子 藤澤 千晶	◎安高 信一 ○佐藤真理子 三木 勘也 関口 光子 岡本 泰子 梶田 貴子 中島 敬子 二茅みゆき 藤澤 千晶

ハラスメント防止	障害学生支援
◎永野 順子 ○三島 万里 △千葉 悦子 安高 信一 鹿島 和枝 円谷 葉子 酒井 城司 吉田 和代	【相談員】 平良木啓子 北浦 肇 七里 真代 星 圭子 柴田 早苗 小出 恵 宮本 朱

[学部専門委員会]

衣料管理士課程	建築・インテリア系資格	文化・語学研修	日本語教員養成課程
◎矢中 睦美 ○由利 素子 △角田 薫 永井 伸夫 須田 理恵 小林 未佳	◎谷口久美子 ○浅沼 由紀 △曾根 里子 渡邊 秀俊 横山 稔	◎加藤 薫 ○佐藤 浩信 △米田 紀子 久保田 文 ジョン・デビッド・ホー	◎齊藤真理子 ○加藤 薫 △星 圭子 白井菜穂子

[課程専門委員会]

教職課程	学芸員課程	司書課程
◎福井 路可 ○森谷 直樹 △五十嵐清子 永野 順子 鳥海 薫 中島 敬子	◎佐藤 正明 △田中 直人 植木 淑子 岡島 奈音	◎瀬島健二郎 △吉田 昭子

図書館	国際交流	IT委員会大学小
◎申 恩泳 ○佐藤 真理子 三島 万里 鹿島 和枝 嘉松 聡 深沢 祥代 二茅みゆき	◎青柳 宏 ○永富 彰子 堀尾真紀子 石田名都子 古御堂誠子 三國 純子 古屋 則子 清木 孝悦 古屋 和雄 円谷 葉子 △高野 博子	◎スワット チャロンポソワーニッチ ○渡邊 秀俊 △野沢さおり 柳田 佳子 白井 信 村上 剛規 岡林 誠士 円谷 葉子 山川あづさ

学部・学科・コース編成 (2018年度)

文化学園大学大学院

生活環境学 研究科	被服環境学専攻 (博士後期課程)	
	被服学専攻 (博士前期課程)	アドバンストファッションデザイン専修 テキスタイルデザイン学専修 服装機能学専修 服装社会学専修
	生活環境学専攻 (修士課程)	生活造形学専修 建築・インテリア学専修
国際文化 研究科	国際文化専攻 (修士課程)	国際文化専修 国際ファッション文化専修
		健康心理学専修

文化学園大学

服装学部	ファッションクリエイション学科	3年次 クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンストテクニクコース	インダストリアルテクニクコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース
	服装造形学科	4年次 クリエイティブデザインコース 機能デザインコース アドバンストテクニクコース	インダストリアルテクニクコース ブランド企画コース テキスタイル企画コース
	ファッション社会学科	3年次 服装社会学コース ファッションビジネスコース 服飾文化史コース グローバルファッションマネジメントコース	
	服装社会学科	4年次 服装社会学コース ファッションビジネスコース 服飾文化史コース グローバルファッションマネジメントコース	
造形学部	デザイン・造形学科	3年次 メディア映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース ジュエリー・メタルワークコース	4年次 映像クリエイションコース グラフィック・プロダクトデザインコース メディア編集デザインコース テキスタイルワークコース ジュエリー・メタルワークコース アートワークコース
	建築・インテリア学科	3年次 インテリアデザインコース 建築デザインコース	4年次 インテリアデザインコース 建築デザインコース 住生活デザインコース
現代文化学部	国際文化・観光学科		
	国際ファッション文化学科		スタイリスト・コーディネーターコース プロデューサー・ジャーナリストコース 映画・舞台衣装デザイナーコース
	応用健康心理学科		

文化学園大学短期大学部

ファッション学科	
専攻科	ファッション専攻

入学定員・収容定員・在籍学生数 (2018年5月1日現在)

文化学園大学大学院

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
生活環境学	被服環境学(博士後期)	2	6	7
	被服学(博士前期)	20	40	50
	生活環境学(修士)	6	12	22
国際文化	国際文化(修士)	6	12	7

文化学園大学

学部名	学科名	入学定員	収容定員	現員
服装	ファッションクリエイション※1	300	1040	805
	服装造形※1	360	380	205
	ファッション社会※2	140	430	391
	服装社会※2	140	150	131
造形	デザイン・造形	120	525	414
	建築・インテリア	120	485	372
現代文化	国際文化・観光	30	125	157
	国際ファッション文化	120	455	532
	応用健康心理	30	125	46

※1 服装造形学科は、平成28年4月よりファッションクリエイション学科に名称変更

※2 服装社会学科は、平成28年4月よりファッション社会学科に名称変更

文化学園大学短期大学部

学科名	専攻名	入学定員	収容定員	現員
ファッション	—	80	160	119
専攻科	ファッション	20	20	0

全学自己点検・評価委員会 委員名簿 (2018年度)

委員長	渡邊 秀俊
副委員長	瀬島健二郎
書記	押山 元子
	伊藤由美子
	下山かおり
	永野 順子
	申 恩泳
	磯崎 明美
	沼尻 七子
	北浦 肇
	杉田秀二郎
	清木 孝悦
	円谷 葉子
	二茅みゆき
	高野 博子
	藤澤 千晶 (2018年8月31日まで)

文 化 学 園 大 学
文化学園大学短期大学部
自己点検・評価報告書 -2018年度-

2019年10月1日発行

編集：文化学園大学 文化学園大学短期大学部
全学自己点検・評価委員会